

梶山女学園大学・大学院 F D 活動報告書
(平成29年度)

梶山女学園大学・大学院 ファカルティ・ディベロップメント

第5号 (通巻 第18号)

平成29年度

椋山女学園大学・大学院FD活動報告書

椋山女学園大学・大学院 ファカルティ・ディベロップメント

第5号（通巻第18号）

相山女学園大学・大学院 FD 活動報告書 (平成 29 年度)

目 次

I	はじめに	全学FD委員会委員長・大学院FD委員会委員長 後藤 宗理
II	大学FD活動報告	
1	全学FD委員会の活動記録(平成 29 年度)	3
2	小委員会活動報告	34
2-1	授業アンケート・授業参観検討小委員会	34
2-2	シラバス、学習時間検討小委員会	36
3	各種研修	39
III	大学院FD活動報告	
1	大学院FD委員会の活動記録(平成 29 年度)	43
IV	学部FD活動報告	
1	生活科学部	75
2	国際コミュニケーション学部	81
3	人間関係学部	87
4	文化情報学部	89
5	現代マネジメント学部	90
6	教育学部	94
7	看護学部	97
V	研究科FD活動報告	
1	生活科学研究科	109
2	人間関係学研究科	111
3	現代マネジメント研究科	113
4	教育学研究科	114
VI	FD委員会名簿	

I はじめに

はじめに

相山女学園大学全学FD委員会委員長
相山女学園大学大学院FD委員会委員長
後 藤 宗 理

大学教育の質保証が大学自己点検評価の中心的課題になってきた。公益財団法人大学基準協会による認証評価も第3期に入り、基準1から基準10の10番目に位置付けられていた教育の質保証が、第3期認証評価では、基準2と全体の2番目に位置付けられた。このような状況を意識しながら、全学FD委員会は大学全体の組織的活動を企画してきた。

大学教育の質保証を担っているのは、大学教員の教育能力の質保証であるという指摘もある（佐藤浩章（2017）「大学教育の質保証を担う大学教員の教育能力の質保証」、早田幸政（編）大学の質保証とは何か、エイデル研究所、p.106－117）。大学など、高等教育機関に籍を置く大学教員は増大したが、教員の採用に際しては研究業績を中心に審査され、教育上の能力が問われることはあまり多くない。その結果、教員自身教育上の能力については不安を抱えている人も多いといわれている。

こうした状況を背景にして、本学全学FD委員会も、毎年FD活動を計画している。

学部学科では、教育内容検討会議と学部FD委員会を中心に、カリキュラムの検討や学生の授業アンケートの実施と分析を行っているが、国内外の動向を視野に入れたFD活動を計画するために、全学FD委員会の組織的活動が重要である。

平成29年度の全学FD委員会は、平成28年度に見直した活動計画に基づいている。

このうち、学生の授業アンケートについては、前期後期とも実施した。また、授業アンケートの項目数などについては検討したが、さらに今後の課題とした。

学修時間調査については、方法論の問題もあり、十分な回答者数が得られず、試行錯誤の状態にある。平成29年度は、従来の学生ポータルシステムのアンケート機能によるだけでなく、各学部の協力を得て、紙ベースでの回答方法も用いることとした。回答者数が例年に比べて多くなっているのはそのためである。

全学FD研修会では、アクティブラーニングをキーワードにした教育活動が盛んに行われているが、その本質を理解するために、協同学習の原点に立ち返って学ぶという意味で、中京大学教授杉江修治氏に講演をお願いした。

現代的なテーマとして、ルーブリック評価、ティーチング・ポートフォリオ等は、今後教職員の間で共有したい事項であり、これらについては今後のFD活動において取り上げたいと考えている。

Ⅱ 大学FD活動報告

1. 全学FD委員会の活動記録（平成29年度）

2. 小委員会活動報告

2-1 授業アンケート・授業参観検討小委員会

2-2 シラバス、学習時間検討小委員会

3. 各種研修

Ⅱ. 1

全学FD委員会の活動記録（平成29年度）

①全学FD委員会の活動記録

(第1回) 平成29年4月25日(火) 15:30～16:30	1. 報告 (1) 平成28年度全学FD委員会活動状況について (2) 平成28年度全学FD委員会予算の執行状況について (3) 平成29年度新任教員研修(学外)について (4) 改革アクションプラン2017について (5) 平成28年度FD活動報告書について (6) 平成28年度「今年度の振り返り」と「来年度の目標」アンケート結果について (7) 学修時間アンケート結果について (8) 平成28年度後期授業アンケート結果について (9) 平成29年度前期授業アンケートについて (10) その他 ・大学会館三階 大講義室(Spirit)について 2. 議題 (1) 平成29年度全学FD委員会活動に関する件 (2) 平成29年度全学FD小委員会について (3) 平成29年度学生FDスタッフ申請に関する件 (4) 平成29年度全学FD委員会の開催予定に関する件 (5) その他
(第2回) 平成29年5月23日(火) 15:30～16:00	1. 報告 (1) 新任教員研修(学外)について (2) 平成29年度授業アンケート実施希望科目について (3) その他 2. 議題 (1) 平成29年度学生FDスタッフ申請に関する件 (2) FD研修会開催日程に関する件 (3) 小委員会活動に関する件 (4) その他
(第3回) 平成29年6月27日(火) 15:30～16:00	1. 報告 (1) 学修時間アンケート結果について (2) 学部でのFD活動について (3) その他 2. 議題 (1) 平成29年度FD研修会について (2) 平成29年度Spirit(大学会館3階講義室)活用に向けての講習会開催について (3) その他
(第4回) 平成29年7月25日(火) 15:30～16:00	1. 報告 (1) 前期学生FDスタッフ成果報告書について (2) その他 ・FD委員会小委員会活動について(9月委員会にて中間発表) 2. 議題 (1) 授業アンケートリフレクションペーパーの依頼について (2) 平成29年度後期学生FDスタッフ申請について (3) 平成29年度FD活動予算について (4) その他

(第 5 回) 平成 29 年 9 月 26 日 (火) 15 : 30 ~ 16 : 25	1. 報告 (1) 平成 29 年度 FD 研修会実施状況について (2) 平成 29 年度前期授業アンケート実施状況について (3) 前期学生 FD スタッフ成果報告書について (4) 各小委員会からの中間報告について (5) その他 2. 議題 (1) 平成 29 年度後期授業アンケートスケジュール・実施要領について (2) 平成 30 年度予算に関する件 (3) その他
(第 6 回) 平成 29 年 10 月 24 日 (火) 15 : 30 ~ 16 : 40	1. 報告 (1) 平成 29 年度前期学生 FD スタッフ成果報告書について (2) 平成 29 年度後期授業アンケートについて (3) シラバス検討結果報告について (シラバス、学習時間検討委員会) (4) その他 ・電子著作物相互利用事業について 2. 議題 (1) 平成 30 年度シラバス作成に関する件 (2) その他
(第 7 回) 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 15 : 30 ~ 16 : 30	1. 報告 (1) 平成 29 年度後期授業アンケートについて (2) 小委員会活動について (3) その他 2. 議題 (1) 平成 29 年度「学生の学修時間等に関するアンケート調査」に関する件 (2) 平成 29 年度「今年度の振り返りと来年度の目標アンケート」に関する件 (3) その他
(第 8 回) 平成 29 年 12 月 19 日 (火) ~ 12 月 25 日 (月) ※持ち回り	1. 議題 (1) 平成 29 年度「学生の学修時間等に関するアンケート調査」に関する件 (2) 平成 29 年度「今年度の振り返りと来年度の目標アンケート」に関する件
(第 9 回) 平成 30 年 1 月 23 日 (火) 15 : 30 ~ 15 : 55	1. 報告 (1) 平成 29 年度全学 FD 委員会予算執行状況について (2) 平成 30 年度新任教員研修プログラムについて (3) 平成 29 年度 FD 小委員会活動について (4) その他 2. 議題 (1) 平成 29 年度 FD 委員会活動報告書に関する件 (2) 平成 29 年度授業アンケートリフレクションに関する件 (3) その他
(第 10 回) 平成 30 年 2 月 27 日 (火) 15 : 30 ~ 15 : 50	1. 報告 (1) 平成 29 年度後期授業アンケート実施状況について (2) 平成 29 年度後期学生 FD スタッフ活動報告書について (3) その他 2. 議題 (1) 平成 30 年度学生 FD スタッフの募集について (2) 平成 30 年度授業アンケート設問内容に関する件 (3) 平成 30 年度 FD 委員会への引き継ぎ事項整理について (4) その他

②平成29年度 全学FD活動報告

1. 授業アンケート

- ・実施時期：【前期】平成29年7月18日（火）～24日（月） ※前2週間は予備期間
【後期】平成30年1月5日（金）～22日（月） ※前2週間は予備期間
- ・授業アンケート対象科目
科目選定：卒業研究、集中講義及び受講者数が10名未満の科目を除くすべての開講科目の中から1教員につき2科目を選択

授業アンケート実施率（前・後期合計）

学 部	対 象 科目数	実 施 科目数	実施率	未実施 科目数
生 活 科 学 部	201	194	96.5%	7
国際コミュニケーション学部	232	216	93.1%	16
人 間 関 係 学 部	193	179	92.7%	14
文 化 情 報 学 部	196	184	93.9%	12
現 代 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	120	113	94.2%	7
教 育 学 部	135	126	93.3%	9
看 護 学 部	105	100	95.2%	5
計	1,182	1,112	94.1%	70

◎リフレクション提出 850科目/1,112科目（76.4%）

2. 研修会

①科研費取得のための研修会

- ・日時：平成29年9月15日（金）13：30～14：30
- ・場所：大学会館大講義室 Spirit
- ・テーマ：「採択されるための科研費申請書」
- ・講師：児島 将康氏（久留米大学分子生命科学研究所 教授）
- ・参加者数：32名

②FD研修（ハラスメント研修と同時開催）

- ・日時：平成29年9月6日（水）10：30～12：00
13：30～15：00
- ・場所：大学会館大講義室 Spirit
- ・テーマ：「学生の主体的な学びを促す授業づくりの原理と実際－協同学習の理論から学ぶ」
- ・講師：杉江 修治氏（中京大学国際教養学部 教授）
- ・参加者数：164名

③Spirit活用に向けての講習会

- ・日時：平成29年9月6日（水）15：30～16：30
- ・場所：大学会館大講義室 Spirit
- ・テーマ：Spirit（大学会館3階大講義室）の簡単な活用方法の実技講習
- ・講師：開発業者講師
- ・参加者数：21名

④教職員勉強会（FD・SD研修）

- ・日時：平成30年3月13日（火）10：00～11：30
- ・場所：文化情報学部メディア棟001室
日進キャンパス5号棟205室（双方向システムで中継）

- ・ テーマ：「本学の現状と課題～少子化時代を生き残るために～」
- ・ 講師：森棟公夫学長
- ・ 参加者数：251名

3. 学修時間アンケート

S*mapのアンケート機能及びアンケート用紙を使い、「学修時間等に関するアンケート」を次のとおり実施した。

【実施日】 平成30年 1 月22日（月）～2 月15日（木）

【アンケート本文】

みなさんの 1 /15（月）から 1 /21（日）の学修時間について伺います。

この 1 週間、大学での授業時間以外で「準備学習（予習）」「課題・復習」「授業以外に関心がある学習（資格取得・就職準備等）」について、それぞれの勉強した時間数を教えてください。

勉強の場所は、自宅、図書館、自習室、電車の中、などどこでも構いません。

次の項目にそれぞれ実績を回答してください。

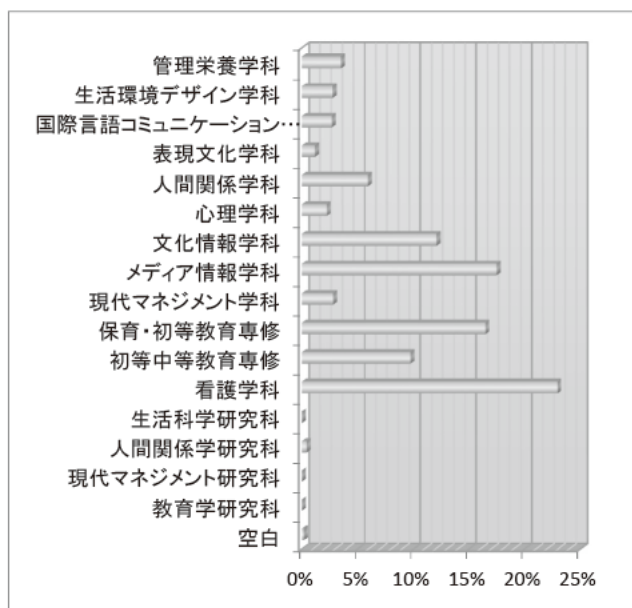
（このアンケートは皆さんの学修スタイルを把握し、本学がより価値の高い授業を提供するために行います。個人が特定されることはありません。）

以下結果を掲載

1 所属学科(専修・研究科)を選んでください。(必須)

No	回答	回答数	%
①	管理栄養学科	44	3.5%
②	生活環境デザイン学科	35	2.8%
③	国際言語コミュニケーション学科	34	2.7%
④	表現文化学科	15	1.2%
⑤	人間関係学科	75	5.9%
⑥	心理学科	28	2.2%
⑦	文化情報学科	153	12.1%
⑧	メディア情報学科	221	17.5%
⑨	現代マネジメント学科	33	2.8%
⑩	保育・初等教育専修	208	16.4%
⑪	初等中等教育専修	123	9.7%
⑫	看護学科	290	22.9%
⑬	生活科学研究科	0	0.0%
⑭	人間関係学研究科	5	0.4%
⑮	現代マネジメント研究科	0	0.0%
⑯	教育学研究科	0	0.0%
⑰	空白	2	0.2%

有効回答数 1266

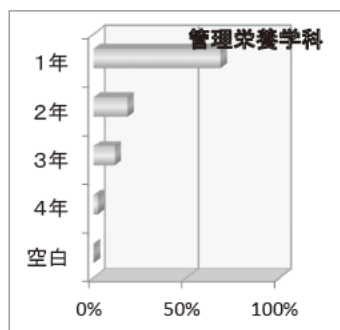


2 学年を選んでください。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	1年	30	68.2%
②	2年	8	18.2%
③	3年	5	11.4%
④	4年	1	2.3%
⑤	空白	0	0.0%

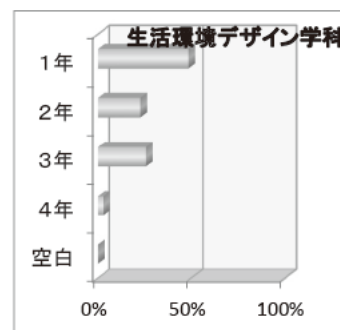
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	1年	17	48.6%
②	2年	8	22.9%
③	3年	9	25.7%
④	4年	1	2.9%
⑤	空白	0	0.0%

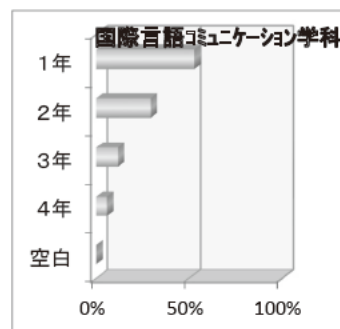
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	1年	18	52.9%
②	2年	10	29.4%
③	3年	4	11.8%
④	4年	2	5.9%
⑤	空白	0	0.0%

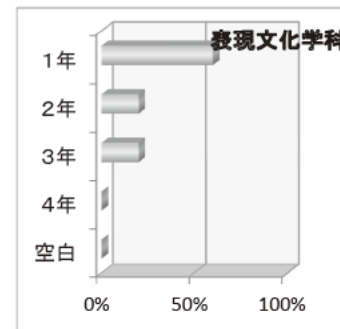
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	1年	9	60.0%
②	2年	3	20.0%
③	3年	3	20.0%
④	4年	0	0.0%
⑤	空白	0	0.0%

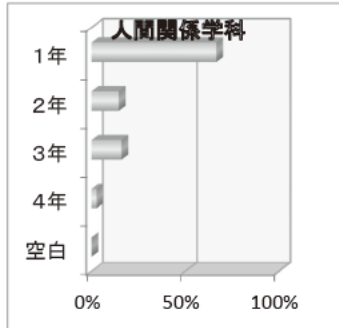
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	1年	50	66.7%
②	2年	11	14.7%
③	3年	12	16.0%
④	4年	2	2.7%
⑤	空白	0	0.0%

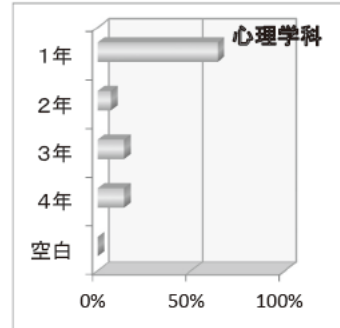
有効回答数 75



<心理学科>

	回答	回答数	%
①	1年	18	64.3%
②	2年	2	7.1%
③	3年	4	14.3%
④	4年	4	14.3%
⑤	空白	0	0.0%

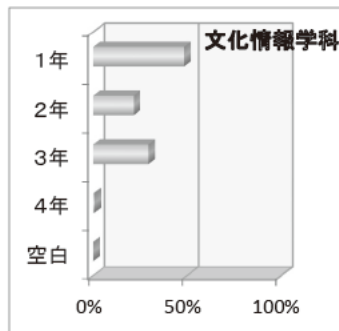
有効回答数 28



<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	1年	74	48.4%
②	2年	33	21.6%
③	3年	45	29.4%
④	4年	1	0.7%
⑤	空白	0	0.0%

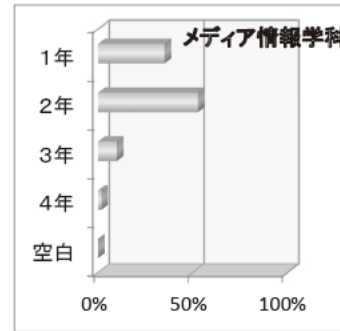
有効回答数 153



<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	1年	78	35.3%
②	2年	117	52.9%
③	3年	22	10.0%
④	4年	4	1.8%
⑤	空白	0	0.0%

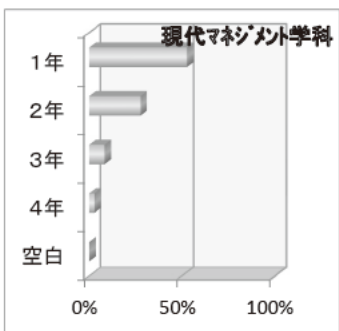
有効回答数 221



<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	1年	19	52.8%
②	2年	10	27.7%
③	3年	3	8.3%
④	4年	1	2.8%
⑤	空白	0	0.0%

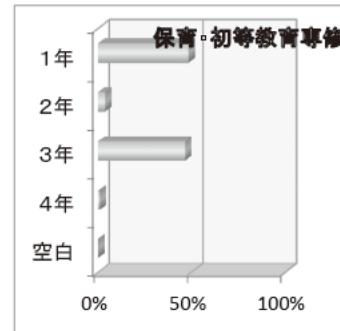
有効回答数 33



<保育・初等教育専修>

	回答	回答数	%
①	1年	101	48.6%
②	2年	8	3.8%
③	3年	97	46.6%
④	4年	2	1.0%
⑤	空白	0	0.0%

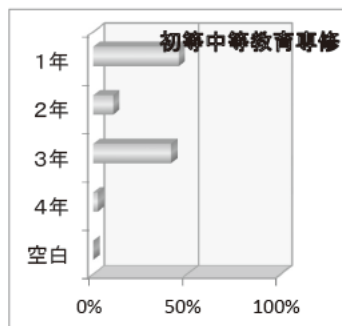
有効回答数 208



<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	1年	56	45.5%
②	2年	13	10.6%
③	3年	51	41.5%
④	4年	3	2.4%
⑤	空白	0	0.0%

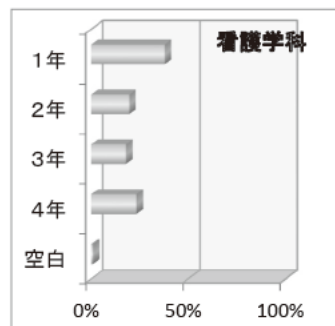
有効回答数 123



<看護学科>

	回答	回答数	%
①	1年	110	37.9%
②	2年	57	19.7%
③	3年	52	17.9%
④	4年	68	23.4%
⑤	空白	3	1.0%

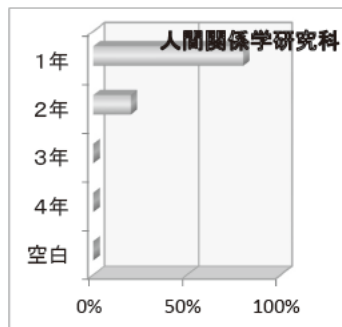
有効回答数 290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	1年	4	80.0%
②	2年	1	20.0%
③	3年	0	0.0%
④	4年	0	0.0%
⑤	空白	0	0.0%

有効回答数 5

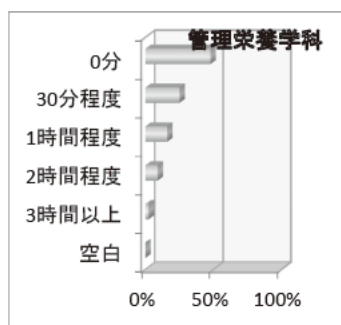


3 あなたは、1/15(月)から1/19(金)の5日間、「準備学習(予習)」で1日あたり平均何時間勉強しましたか。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	0分	21	47.7%
②	30分程度	11	25.0%
③	1時間程度	7	15.9%
④	2時間程度	4	9.1%
⑤	3時間以上	1	2.3%
⑥	空白	0	0%

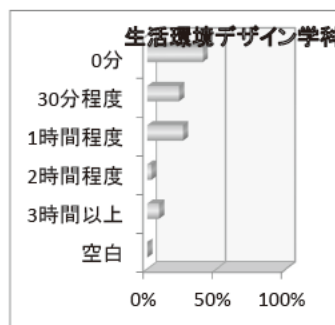
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	0分	14	40.0%
②	30分程度	8	22.9%
③	1時間程度	9	25.7%
④	2時間程度	1	2.9%
⑤	3時間以上	3	8.6%
⑥	空白	0	0%

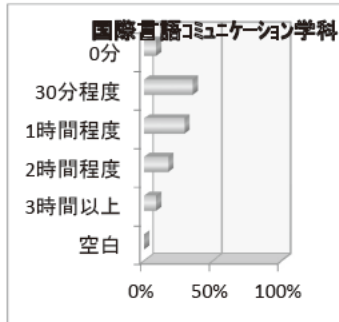
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	0分	3	8.8%
②	30分程度	12	35.3%
③	1時間程度	10	29.4%
④	2時間程度	6	17.6%
⑤	3時間以上	3	8.8%
⑥	空白	0	0.0%

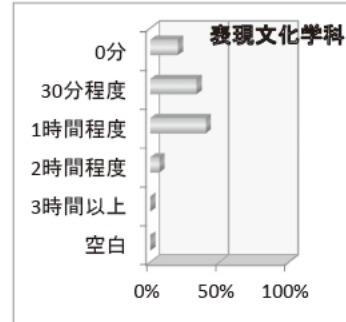
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	0分	3	20.0%
②	30分程度	5	33.3%
③	1時間程度	6	40.0%
④	2時間程度	1	6.7%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%

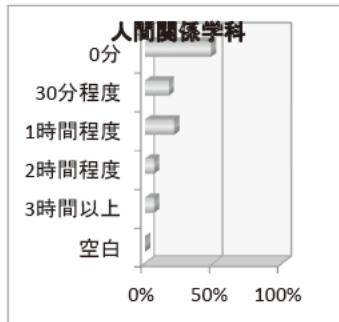
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	0分	36	48.0%
②	30分程度	13	17.3%
③	1時間程度	16	21.3%
④	2時間程度	5	6.7%
⑤	3時間以上	5	6.7%
⑥	空白	0	0.0%

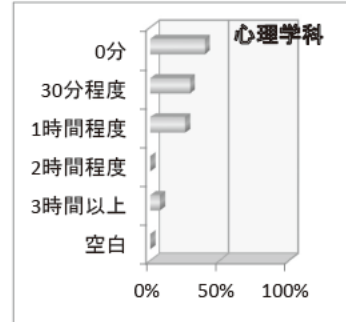
有効回答数 75



<心理学科>

	回答	回答数	%
①	0分	11	39.3%
②	30分程度	8	28.6%
③	1時間程度	7	25.0%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	2	7.1%
⑥	空白	0	0.0%

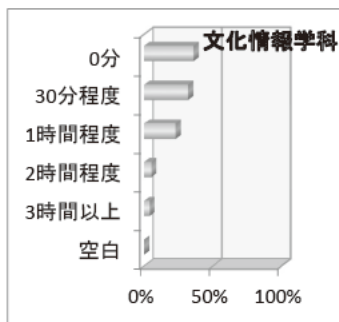
有効回答数 28



<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	55	35.9%
②	30分程度	49	32.0%
③	1時間程度	35	22.9%
④	2時間程度	8	5.2%
⑤	3時間以上	6	3.9%
⑥	空白	0	0.0%

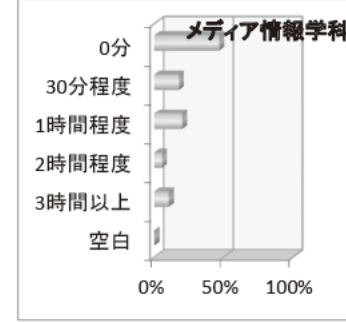
有効回答数 153



<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	103	46.6%
②	30分程度	39	17.6%
③	1時間程度	44	19.9%
④	2時間程度	12	5.4%
⑤	3時間以上	23	10.4%
⑥	空白	0	0.0%

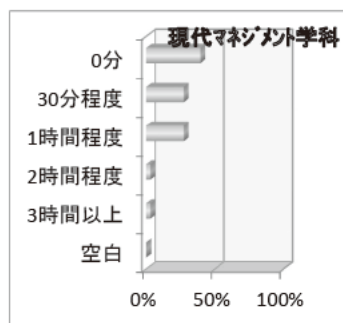
有効回答数 221



<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	0分	13	39.4%
②	30分程度	9	27.3%
③	1時間程度	9	27.3%
④	2時間程度	1	3.0%
⑤	3時間以上	1	3.0%
⑥	空白	0	0.0%

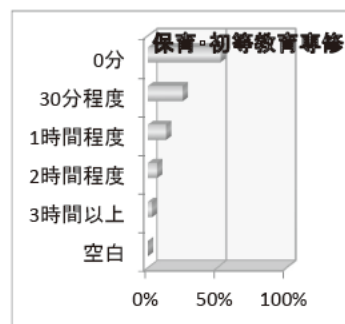
有効回答数 33



<保育・初等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	109	52.4%
②	30分程度	52	25.0%
③	1時間程度	27	13.0%
④	2時間程度	14	6.7%
⑤	3時間以上	6	2.9%
⑥	空白	0	0.0%

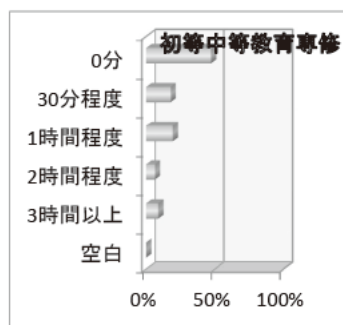
有効回答数 208



<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	58	47.2%
②	30分程度	22	17.9%
③	1時間程度	24	19.5%
④	2時間程度	8	6.5%
⑤	3時間以上	11	8.9%
⑥	空白	0	0.0%

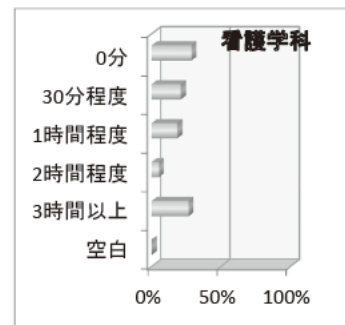
有効回答数 123



<看護学科>

	回答	回答数	%
①	0分	83	28.6%
②	30分程度	61	21.0%
③	1時間程度	54	18.6%
④	2時間程度	15	5.2%
⑤	3時間以上	77	26.6%
⑥	空白	0	0.0%

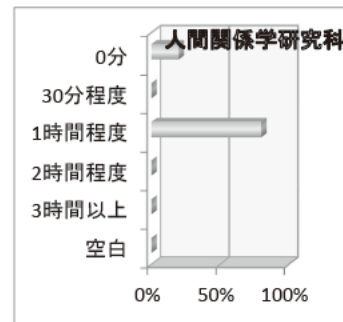
有効回答数 290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	0分	1	20.0%
②	30分程度	0	0.0%
③	1時間程度	4	80.0%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%

有効回答数 5

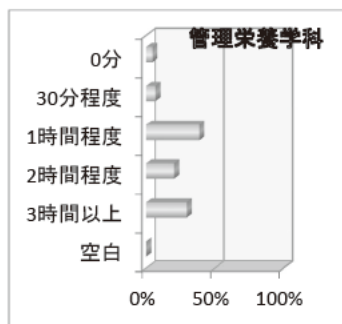


4 あなたは、1/15(月)から1/19(金)の5日間、「課題・復習」で1日あたり平均何時間勉強しましたか。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	0分	2	4.5%
②	30分程度	3	6.8%
③	1時間程度	17	38.6%
④	2時間程度	9	20.5%
⑤	3時間以上	13	29.5%
⑥	空白	0	0%

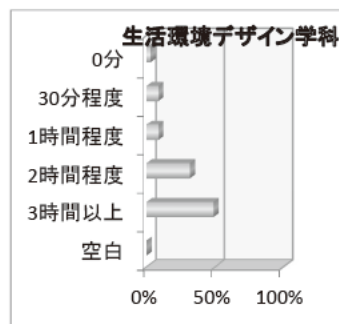
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	0分	1	2.9%
②	30分程度	3	8.6%
③	1時間程度	3	8.6%
④	2時間程度	11	31.4%
⑤	3時間以上	17	48.6%
⑥	空白	0	0%

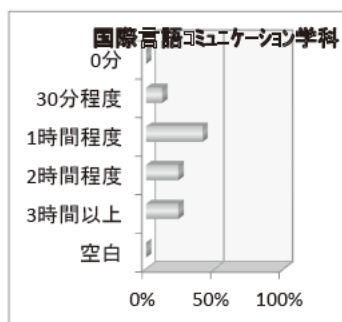
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	0分	0	0.0%
②	30分程度	4	11.8%
③	1時間程度	14	41.2%
④	2時間程度	8	23.5%
⑤	3時間以上	8	23.5%
⑥	空白	0	0.0%

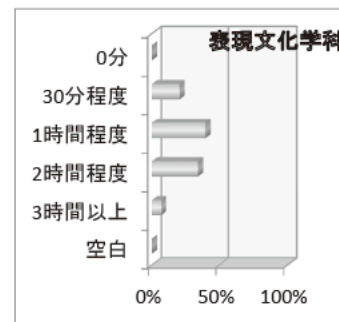
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	0分	0	0.0%
②	30分程度	3	20.0%
③	1時間程度	6	40.0%
④	2時間程度	5	33.3%
⑤	3時間以上	1	6.7%
⑥	空白	0	0.0%

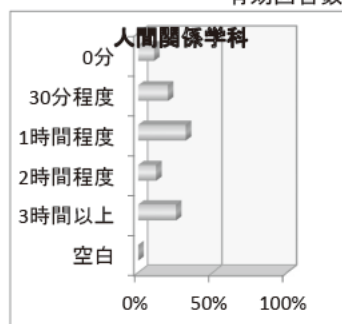
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	0分	8	10.7%
②	30分程度	15	20.0%
③	1時間程度	24	32.0%
④	2時間程度	9	12.0%
⑤	3時間以上	19	25.3%
⑥	空白	0	0.0%

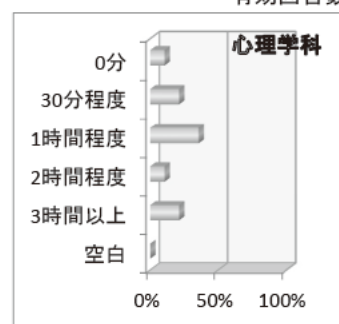
有効回答数 75



<心理学科>

	回答	回答数	%
①	0分	3	10.7%
②	30分程度	6	21.4%
③	1時間程度	10	35.7%
④	2時間程度	3	10.7%
⑤	3時間以上	6	21.4%
⑥	空白	0	0.0%

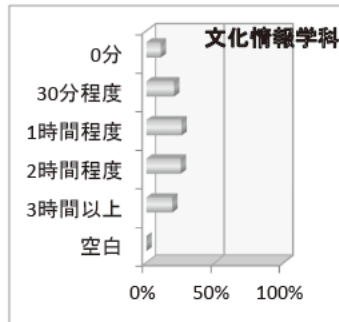
有効回答数 28



<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	16	10.5%
②	30分程度	31	20.3%
③	1時間程度	39	25.5%
④	2時間程度	38	24.8%
⑤	3時間以上	29	19.0%
⑥	空白	0	0.0%

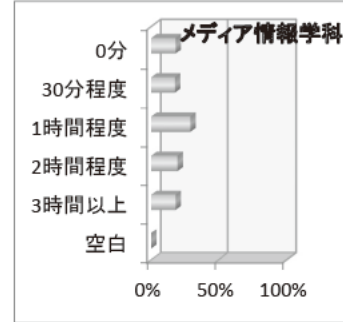
有効回答数 153



<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	39	17.6%
②	30分程度	38	17.2%
③	1時間程度	63	28.5%
④	2時間程度	42	19.0%
⑤	3時間以上	39	17.6%
⑥	空白	0	0.0%

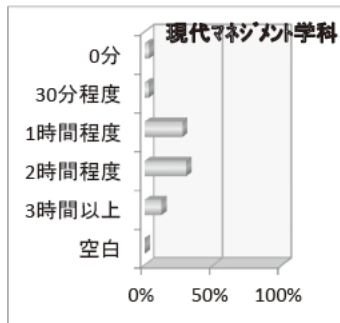
有効回答数 221



<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	0分	1	3.0%
②	30分程度	9	2.7%
③	1時間程度	9	27.3%
④	2時間程度	10	30.3%
⑤	3時間以上	4	12.1%
⑥	空白	0	0.0%

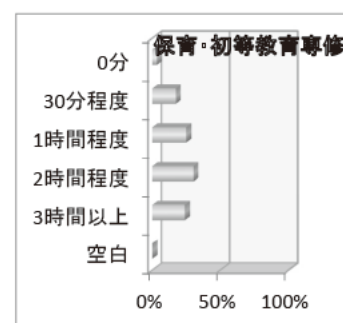
有効回答数 33



<保育・初等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	7	3.4%
②	30分程度	36	17.3%
③	1時間程度	52	25.0%
④	2時間程度	63	30.3%
⑤	3時間以上	50	24.0%
⑥	空白	0	0.0%

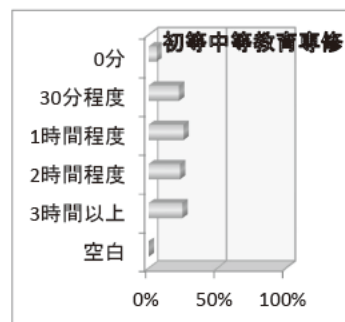
有効回答数 208



<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	7	5.7%
②	30分程度	27	22.0%
③	1時間程度	31	25.2%
④	2時間程度	28	22.8%
⑤	3時間以上	30	24.4%
⑥	空白	0	0.0%

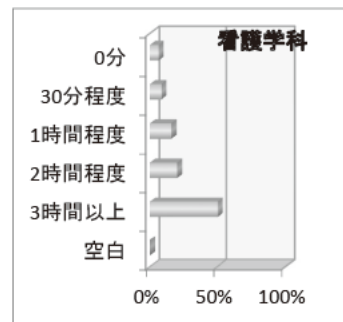
有効回答数 123



<看護学科>

	回答	回答数	%
①	0分	18	6.2%
②	30分程度	24	8.3%
③	1時間程度	45	15.5%
④	2時間程度	57	19.7%
⑤	3時間以上	146	50.3%
⑥	空白	0	0.0%

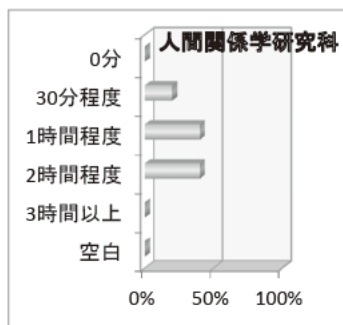
有効回答数 290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	0分	0	0.0%
②	30分程度	1	20.0%
③	1時間程度	2	40.0%
④	2時間程度	2	40.0%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%

有効回答数 5

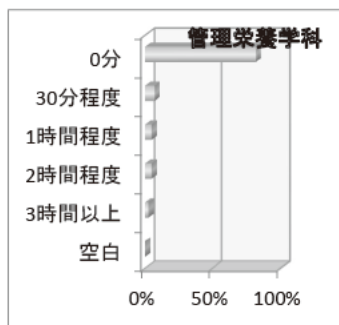


5 あなたは、1/15(月)から1/19(金)の5日間、「授業以外で関心がある勉強(資格取得、就職準備等)」で1日あたり平均何時間勉強しましたか。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	0分	36	81.8%
②	30分程度	3	6.8%
③	1時間程度	2	4.5%
④	2時間程度	2	4.5%
⑤	3時間以上	1	2.3%
⑥	空白	0	0%

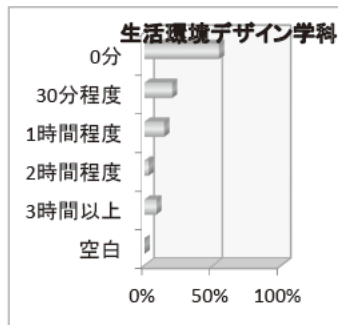
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	0分	19	54.3%
②	30分程度	7	20.0%
③	1時間程度	5	14.3%
④	2時間程度	1	2.9%
⑤	3時間以上	3	8.6%
⑥	空白	0	0%

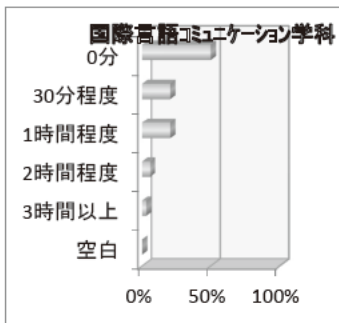
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	0分	17	50.0%
②	30分程度	7	20.6%
③	1時間程度	7	20.6%
④	2時間程度	2	5.9%
⑤	3時間以上	1	2.9%
⑥	空白	0	0.0%

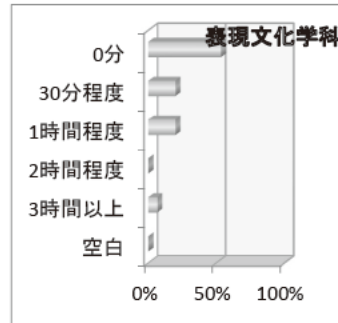
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	0分	8	53.3%
②	30分程度	3	20.0%
③	1時間程度	3	20.0%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	1	6.7%
⑥	空白	0	0.0%

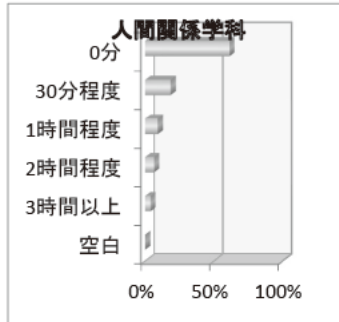
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	0分	46	61.3%
②	30分程度	14	18.7%
③	1時間程度	7	9.3%
④	2時間程度	5	6.7%
⑤	3時間以上	3	4.0%
⑥	空白	0	0.0%

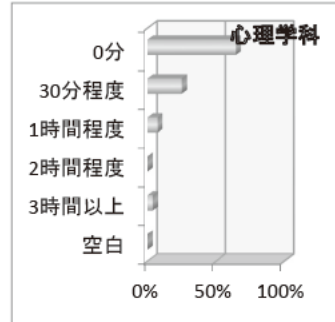
有効回答数 75



<心理学科>

	回答	回答数	%
①	0分	18	64.3%
②	30分程度	7	25.0%
③	1時間程度	2	7.1%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	1	3.6%
⑥	空白	0	0.0%

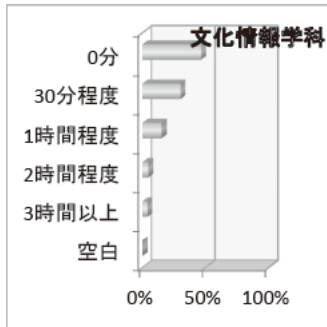
有効回答数 28



<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	71	46.4%
②	30分程度	46	30.1%
③	1時間程度	23	15.0%
④	2時間程度	7	4.6%
⑤	3時間以上	6	3.9%
⑥	空白	0	0.0%

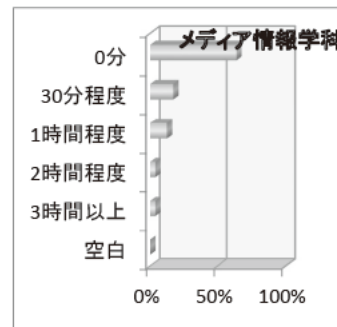
有効回答数 153



<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	141	63.8%
②	30分程度	37	16.7%
③	1時間程度	27	12.2%
④	2時間程度	8	3.6%
⑤	3時間以上	8	3.6%
⑥	空白	0	0.0%

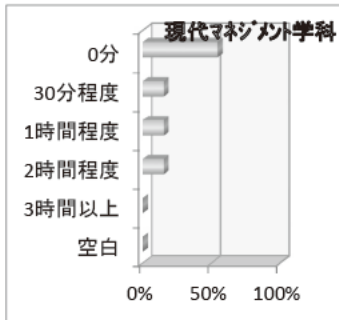
有効回答数 221



<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	0分	18	54.5%
②	30分程度	5	15.2%
③	1時間程度	5	15.2%
④	2時間程度	5	15.2%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%

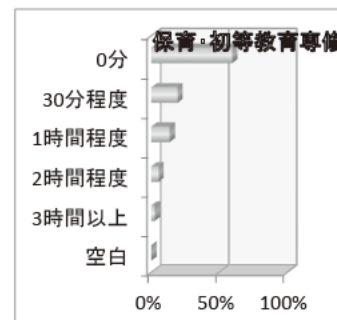
有効回答数 33



<保育・初等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	124	59.6%
②	30分程度	40	19.2%
③	1時間程度	28	13.5%
④	2時間程度	11	5.3%
⑤	3時間以上	5	2.4%
⑥	空白	0	0.0%

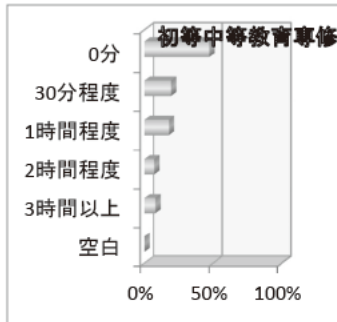
有効回答数 208



<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	58	47.2%
②	30分程度	24	19.5%
③	1時間程度	22	17.9%
④	2時間程度	9	7.3%
⑤	3時間以上	10	8.1%
⑥	空白	0	0.0%

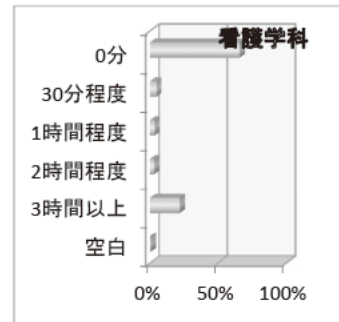
有効回答数 123



<看護学科>

	回答	回答数	%
①	0分	191	65.9%
②	30分程度	14	4.8%
③	1時間程度	10	3.4%
④	2時間程度	9	3.1%
⑤	3時間以上	64	22.1%
⑥	空白	2	0.7%

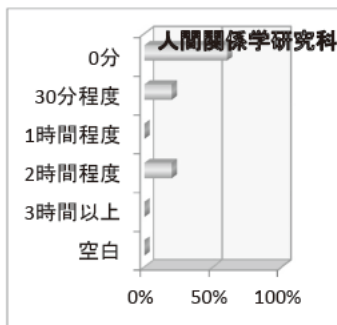
有効回答数 290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	0分	3	60.0%
②	30分程度	1	20.0%
③	1時間程度	0	0.0%
④	2時間程度	1	20.0%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%

有効回答数 5

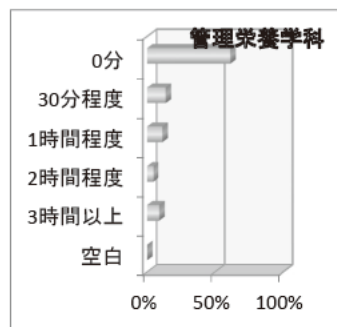


6 あなたは、1/20(土)から1/21(日)の2日間、「準備学習(予習)」で1日あたり平均何時間勉強しましたか。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	0分	27	61.4%
②	30分程度	6	13.6%
③	1時間程度	5	11.4%
④	2時間程度	2	4.5%
⑤	3時間以上	4	9.1%
⑥	空白	0	0%

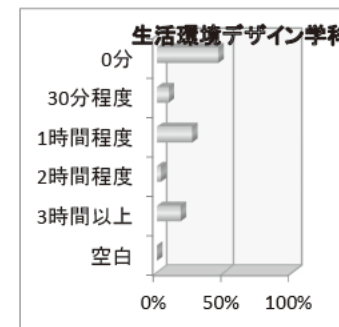
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	0分	16	45.7%
②	30分程度	3	8.6%
③	1時間程度	9	25.7%
④	2時間程度	1	2.9%
⑤	3時間以上	6	17.1%
⑥	空白	0	0%

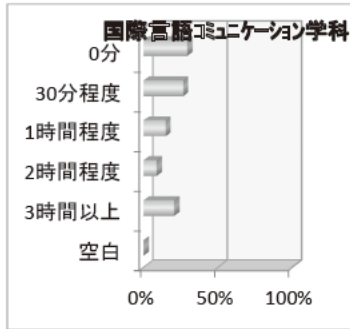
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	0分	10	29.4%
②	30分程度	9	26.5%
③	1時間程度	5	14.7%
④	2時間程度	3	8.8%
⑤	3時間以上	7	20.6%
⑥	空白	0	0.0%

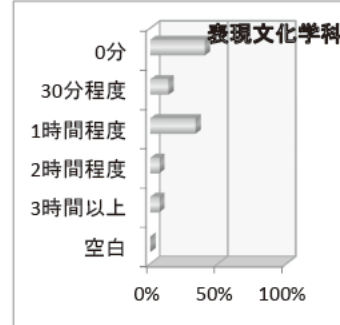
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	0分	6	40.0%
②	30分程度	2	13.3%
③	1時間程度	5	33.3%
④	2時間程度	1	6.7%
⑤	3時間以上	1	6.7%
⑥	空白	0	0.0%

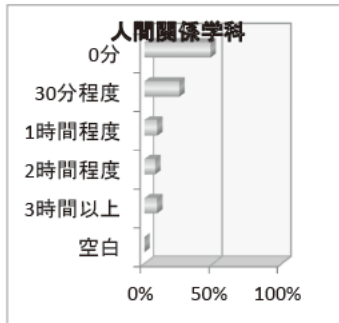
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	0分	36	48.0%
②	30分程度	19	25.3%
③	1時間程度	7	9.3%
④	2時間程度	6	8.0%
⑤	3時間以上	7	9.3%
⑥	空白	0	0.0%

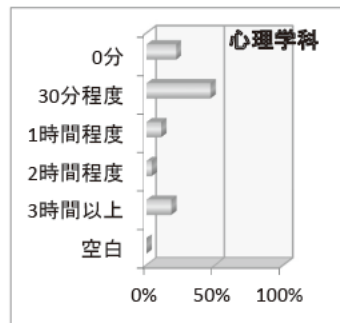
有効回答数 75



<心理学科>

	回答	回答数	%
①	0分	6	21.4%
②	30分程度	13	46.4%
③	1時間程度	3	10.7%
④	2時間程度	1	3.6%
⑤	3時間以上	5	17.9%
⑥	空白	0	0.0%

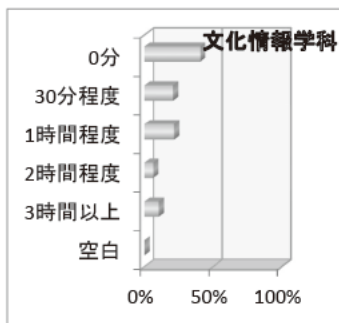
有効回答数 28



<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	62	40.5%
②	30分程度	32	20.9%
③	1時間程度	33	21.6%
④	2時間程度	10	6.5%
⑤	3時間以上	16	10.5%
⑥	空白	0	0.0%

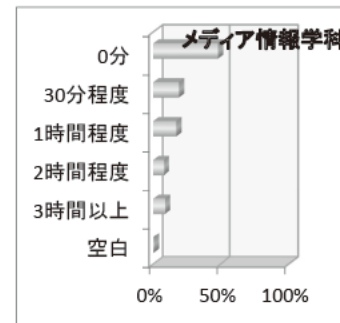
有効回答数 153



<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	106	48.0%
②	30分程度	41	18.6%
③	1時間程度	37	16.7%
④	2時間程度	17	7.7%
⑤	3時間以上	19	8.6%
⑥	空白	1	0.5%

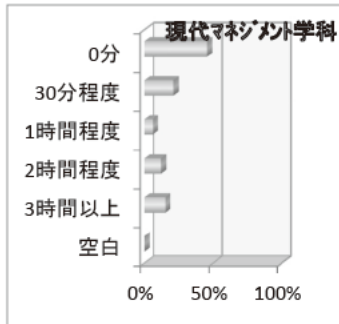
有効回答数 221



<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	0分	15	45.5%
②	30分程度	7	21.2%
③	1時間程度	2	6.1%
④	2時間程度	4	12.1%
⑤	3時間以上	5	15.2%
⑥	空白	0	0.0%

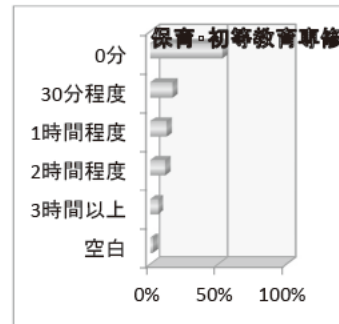
有効回答数 33



<保育・初等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	110	52.9%
②	30分程度	34	16.3%
③	1時間程度	25	12.0%
④	2時間程度	23	11.1%
⑤	3時間以上	12	5.8%
⑥	空白	4	1.9%

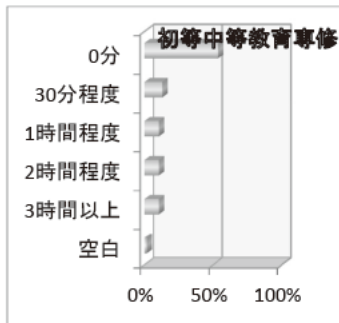
有効回答数 208



<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	66	53.7%
②	30分程度	16	13.0%
③	1時間程度	13	10.6%
④	2時間程度	13	10.6%
⑤	3時間以上	13	10.6%
⑥	空白	2	1.6%

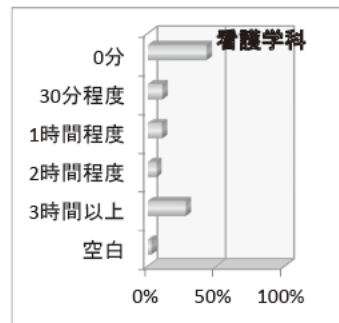
有効回答数 123



<看護学科>

	回答	回答数	%
①	0分	124	42.8%
②	30分程度	31	10.7%
③	1時間程度	30	10.3%
④	2時間程度	18	6.2%
⑤	3時間以上	80	27.6%
⑥	空白	7	2.4%

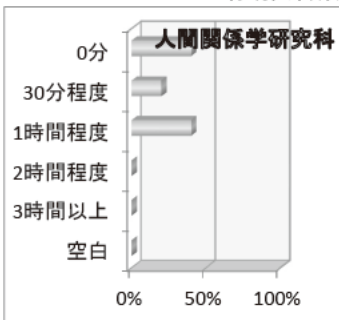
有効回答数 290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	0分	2	40.0%
②	30分程度	1	20.0%
③	1時間程度	2	40.0%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%

有効回答数 5

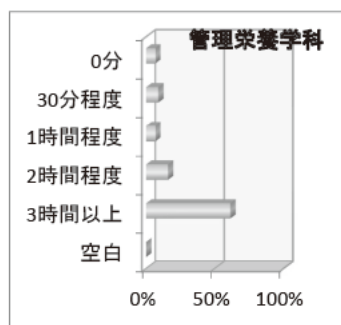


7 あなたは、1/20(土)から1/21(日)の2日間、「課題・復習」で1日あたり平均何時間勉強しましたか。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	0分	3	6.8%
②	30分程度	4	9.1%
③	1時間程度	3	6.8%
④	2時間程度	7	15.9%
⑤	3時間以上	27	61.4%
⑥	空白	0	0%

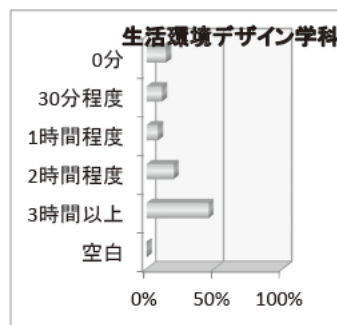
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	0分	5	14.3%
②	30分程度	4	11.4%
③	1時間程度	3	8.6%
④	2時間程度	7	20.0%
⑤	3時間以上	16	45.7%
⑥	空白	0	0%

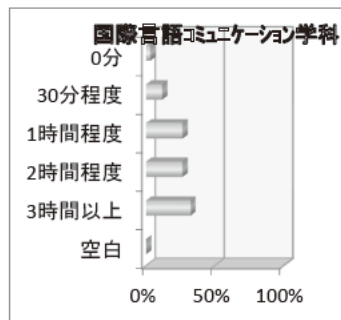
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	0分	1	2.9%
②	30分程度	4	11.8%
③	1時間程度	9	26.5%
④	2時間程度	9	26.5%
⑤	3時間以上	11	32.4%
⑥	空白	0	0.0%

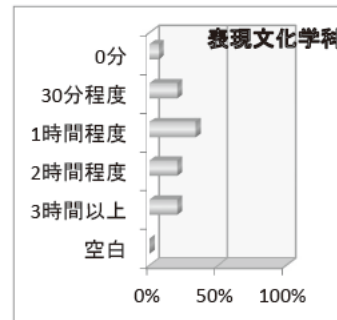
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	0分	1	6.7%
②	30分程度	3	20.0%
③	1時間程度	5	33.3%
④	2時間程度	3	20.0%
⑤	3時間以上	3	20.0%
⑥	空白	0	0.0%

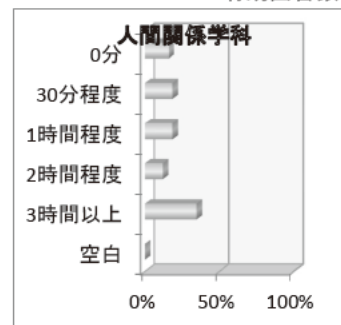
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	0分	12	16.0%
②	30分程度	14	18.7%
③	1時間程度	14	18.7%
④	2時間程度	9	12.0%
⑤	3時間以上	26	34.7%
⑥	空白	0	0.0%

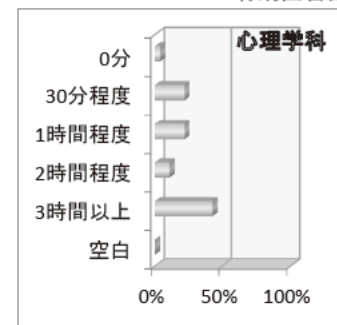
有効回答数 75



<心理学科>

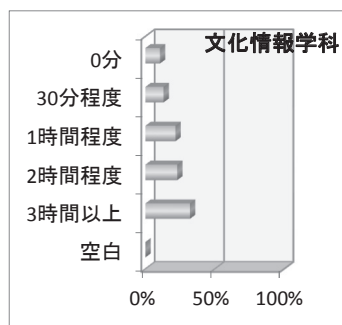
	回答	回答数	%
①	0分	1	3.6%
②	30分程度	6	21.4%
③	1時間程度	6	21.4%
④	2時間程度	3	10.7%
⑤	3時間以上	12	42.9%
⑥	空白	0	0.0%

有効回答数 28



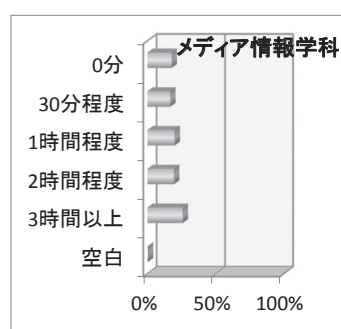
<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	16	10.5%
②	30分程度	20	13.1%
③	1時間程度	33	21.6%
④	2時間程度	35	22.9%
⑤	3時間以上	49	32.0%
⑥	空白	0	0.0%
		有効回答数	153



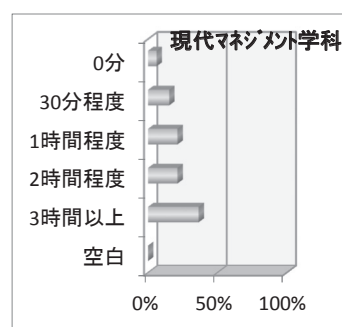
<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	39	17.6%
②	30分程度	37	16.7%
③	1時間程度	44	19.9%
④	2時間程度	43	19.5%
⑤	3時間以上	57	25.8%
⑥	空白	1	0.5%
		有効回答数	221



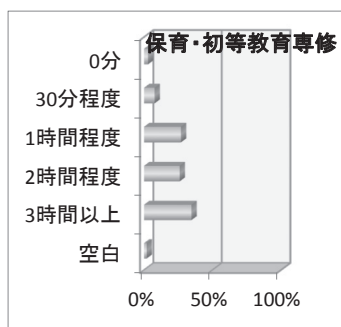
<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	0分	2	6.1%
②	30分程度	5	15.2%
③	1時間程度	7	21.2%
④	2時間程度	7	21.2%
⑤	3時間以上	12	36.4%
⑥	空白	0	0.0%
		有効回答数	33



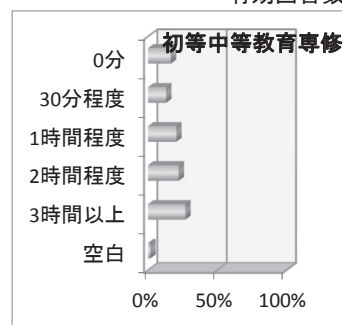
<保育・初等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	6	2.9%
②	30分程度	16	7.7%
③	1時間程度	56	26.9%
④	2時間程度	54	26.0%
⑤	3時間以上	72	34.6%
⑥	空白	4	1.9%
		有効回答数	208



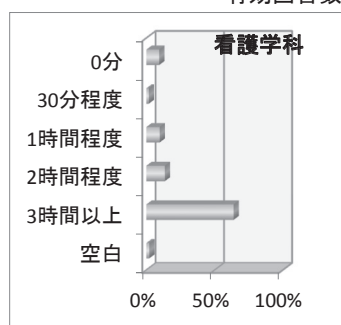
<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	20	16.3%
②	30分程度	16	13.0%
③	1時間程度	25	20.3%
④	2時間程度	27	22.0%
⑤	3時間以上	33	26.8%
⑥	空白	2	1.6%
		有効回答数	123



<看護学科>

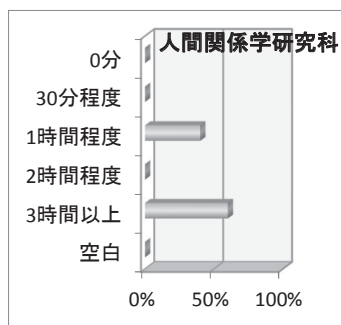
	回答	回答数	%
①	0分	27	9.3%
②	30分程度	5	1.7%
③	1時間程度	28	9.7%
④	2時間程度	39	13.4%
⑤	3時間以上	185	63.8%
⑥	空白	6	2.1%
		有効回答数	290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	0分	0	0.0%
②	30分程度	0	0.0%
③	1時間程度	2	40.0%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	3	60.0%
⑥	空白	0	0.0%

有効回答数 5

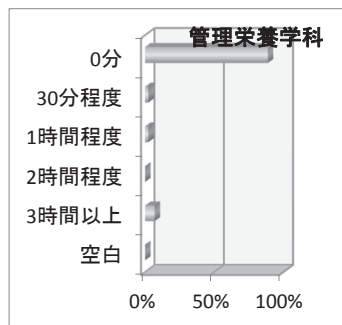


8 あなたは、1/20(土)から1/21(日)の2日間、「授業以外に関心がある勉強(資格取得、就職準備等)」で1日あたり平均何時間勉強しましたか。(必須)

<管理栄養学科>

	回答	回答数	%
①	0分	39	88.6%
②	30分程度	1	2.3%
③	1時間程度	1	2.3%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	3	6.8%
⑥	空白	0	0%

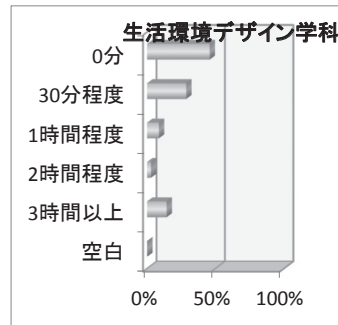
有効回答数 44



<生活環境デザイン学科>

	回答	回答数	%
①	0分	16	45.7%
②	30分程度	10	28.6%
③	1時間程度	3	8.6%
④	2時間程度	1	2.9%
⑤	3時間以上	5	14.3%
⑥	空白	0	0%

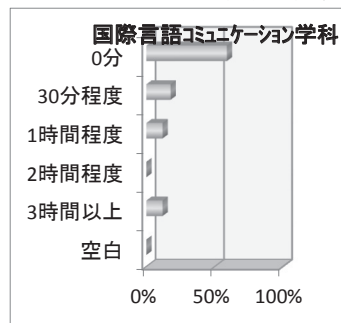
有効回答数 35



<国際言語コミュニケーション学科>

	回答	回答数	%
①	0分	20	58.8%
②	30分程度	6	17.6%
③	1時間程度	4	11.8%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	4	11.8%
⑥	空白	0	0.0%

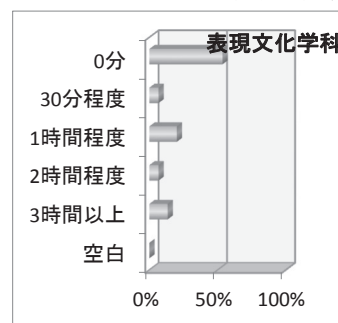
有効回答数 34



<表現文化学科>

	回答	回答数	%
①	0分	8	53.3%
②	30分程度	1	6.7%
③	1時間程度	3	20.0%
④	2時間程度	1	6.7%
⑤	3時間以上	2	13.3%
⑥	空白	0	0.0%

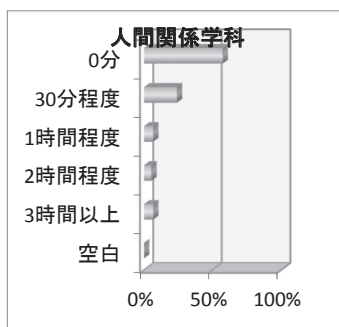
有効回答数 15



<人間関係学科>

	回答	回答数	%
①	0分	43	57.3%
②	30分程度	18	24.0%
③	1時間程度	5	6.7%
④	2時間程度	4	5.3%
⑤	3時間以上	5	6.7%
⑥	空白	0	0.0%

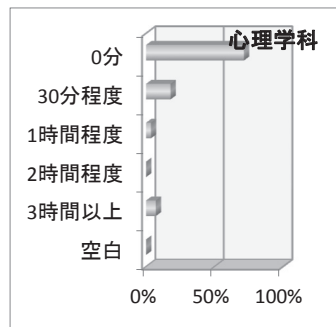
有効回答数 75



<心理学科>

	回答	回答数	%
①	0分	20	71.4%
②	30分程度	5	17.9%
③	1時間程度	1	3.6%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	2	7.1%
⑥	空白	0	0.0%

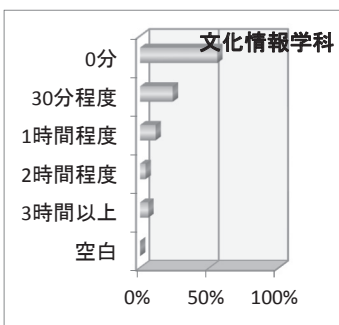
有効回答数 28



<文化情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	85	55.6%
②	30分程度	36	23.5%
③	1時間程度	17	11.1%
④	2時間程度	6	3.9%
⑤	3時間以上	9	5.9%
⑥	空白	0	0.0%

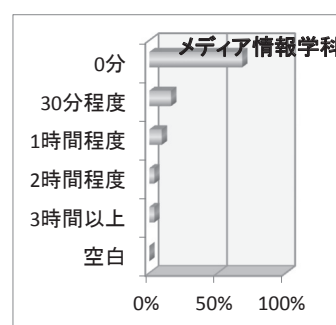
有効回答数 153



<メディア情報学科>

	回答	回答数	%
①	0分	150	67.9%
②	30分程度	35	15.8%
③	1時間程度	20	9.0%
④	2時間程度	8	3.6%
⑤	3時間以上	8	3.6%
⑥	空白	0	0.0%

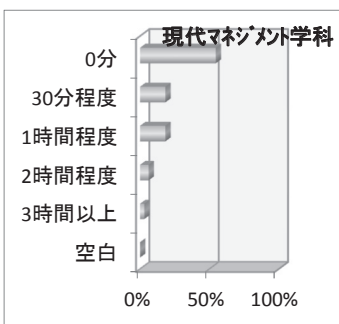
有効回答数 221



<現代マネジメント学科>

	回答	回答数	%
①	0分	18	54.5%
②	30分程度	6	18.2%
③	1時間程度	6	18.2%
④	2時間程度	2	6.1%
⑤	3時間以上	1	3.0%
⑥	空白	0	0.0%

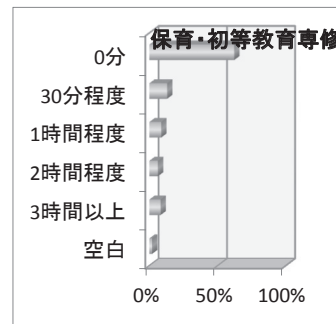
有効回答数 33



<保育・初等教育専修>

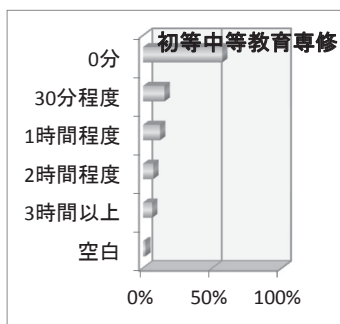
	回答	回答数	%
①	0分	129	62.0%
②	30分程度	27	13.0%
③	1時間程度	18	8.7%
④	2時間程度	13	6.3%
⑤	3時間以上	17	8.2%
⑥	空白	4	1.9%

有効回答数 208



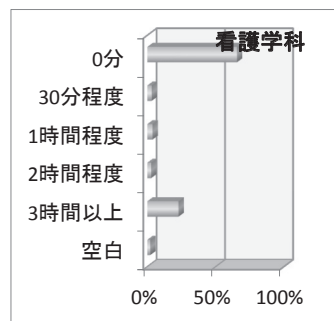
<初等中等教育専修>

	回答	回答数	%
①	0分	70	56.9%
②	30分程度	19	15.4%
③	1時間程度	15	12.2%
④	2時間程度	9	7.3%
⑤	3時間以上	8	6.5%
⑥	空白	2	1.6%
		有効回答数	123



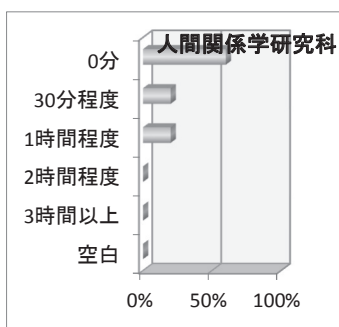
<看護学科>

	回答	回答数	%
①	0分	190	65.5%
②	30分程度	9	3.1%
③	1時間程度	11	3.8%
④	2時間程度	8	2.8%
⑤	3時間以上	66	22.8%
⑥	空白	6	2.1%
		有効回答数	290



<人間関係学研究科>

	回答	回答数	%
①	0分	3	60.0%
②	30分程度	1	20.0%
③	1時間程度	1	20.0%
④	2時間程度	0	0.0%
⑤	3時間以上	0	0.0%
⑥	空白	0	0.0%
		有効回答数	5



9. あなたの学習時間に関して、思っていることを自由に記入してください。(大変と感じていること、やりたいこと、等)

回 答	学 科・研究科	学年
4年後期まで授業があるのは、卒論や国試との兼ね合いもあって大変です。	管理栄養学科	4
いろいろな資格をとりたいが、時間がなくてなかなかできない。大学内で講座などをたくさん開いてほしい。	管理栄養学科	2
もっといろんな情報を提供してほしい。	管理栄養学科	2
勉強しんどい。 早く勉強するほんとの意味を見つけない。	管理栄養学科	3
後期はテスト前週間があったため、前期に比べて勉強がしやすかったと思うが、前日まで補講が入っていたため、平日の学習はあまりできなかった。	管理栄養学科	2
暗記が苦手です。テスト前は大変。	管理栄養学科	2
課題やテスト勉強が大変で、資格勉強がなかなかできませんが、長期休みに勉強したいと思っています。	管理栄養学科	1
資格試験の勉強をしなければいけないのは分かっているが、他の資格もあるのでどれを優先すればいいか分からない。	管理栄養学科	3
やろうと思っても机が汚く、やる気が出ない。	生活環境デザイン学科	3
インテリア実習など、実習や演習に費やす時間と単位が割にあっていないような気がする。ほぼ毎日時間を割いて土日はほぼ一日中課題をやっているのに取得できる単位は他と一緒にだなんておかしいのではないかなと思う。	生活環境デザイン学科	3
クリプトの利用できる時間が短いこと できるなら土日は1日中開けてほしいです。	生活環境デザイン学科	1
クリプトメリア館の空いている時間が短すぎると感じています。せめて22時まで、できれば24時間解放してほしいです。特に大きな模型や図面を持つての通学帰宅の時間が極めて効率が悪く、その分の時間と労力を学習や作業に使いたいです。設計の課題は大変ではありますが、とても楽しいです。	生活環境デザイン学科	1
実習の課題の負担が大きすぎて大変です。	生活環境デザイン学科	1
思ったより勉強時間が少なくて、もっとやろう！と思います。よく、図書館を利用して、集中できる環境があていいと思います。でも、たまに、意識の低い人がいて、静かにするところでも、うるさい人がいるので嫌だなと思います。また、私は、生活デザイン学部で、模型や図面の課題があるのですが、学校でやろうと思っても、クリプトメリア棟が早くしまってしまったたり、長期休みや土日に空いていないので、もっとクリプトメリア棟を利用できると、いいと思います。	生活環境デザイン学科	1
授業の勉強よりも公務員試験に向けての勉強が中心になった。	生活環境デザイン学科	3
生活環境デザイン学科の建築・インテリアの専攻は課題が非常に多く、授業外の多くの時間を課題に割いていて、資格の勉強や読書などの趣味などに時間を回せてないのが現状。大学生なのでいろんなことに挑戦したいので、課題量をもう少し考慮してもらいたい。	生活環境デザイン学科	2
設計実習の制作にとっても時間を費やさなければならず大変だった。生活科学部棟のPCにはCAD、Rhino等のソフトが入っていないため、クリプトで作業するしかないのだがクリプトの閉館時間が短いので困ることが多かった。成人式や休日の予定、他の授業があることも踏まえて課題を出してほしい。	生活環境デザイン学科	2

回 答	学 科・研究科	学年
設計実習の課題のスケジュールがあまりにも詰められすぎている。	生活環境デザイン学科	2
課題がたくさんあり、なかなか学習時間が作れていない。	生活環境デザイン学科	3
課題が忙しすぎて資格の勉強などできない。	生活環境デザイン学科	1
この時期はレポートとテスト勉強が重なって大変。	国際言語コミュニケーション学科	2
レポート提出と筆記試験の両立で大変ですが、卒業できるようにがんばります。	国際言語コミュニケーション学科	4
資格の勉強をやりたいと思っています。	国際言語コミュニケーション学科	2
資格取得の勉強がしたい。が、宿題やアルバイトでできていない。	国際言語コミュニケーション学科	1
テストや資格系に関して、勉強しなきゃと思うし、課題も要領よくこなせたらいいとは感じるものの、うまくスケジュールを立てることが出来なかった。いまいち勉強しようという気になれず当日勉強するだけというだけになってしまった。	表現文化学科	3
予習をしたくてもどのようにしたらよいかわからない授業が多い。	表現文化学科	1
周りの仲間の学習意欲が低すぎる。 どうして試験直前に詰め込むのか。普段からやっておけばよいものを。 あと、勉強したいのに自習室や空き教室で回りもみずにざわぐやつらがとても不愉快。場所を考えろ。明確にきっちりと場所を分けてほしい。看護学棟みたいに。	表現文化学科	1
留学を控えているため、今年出来る限り授業を多く入れた。そのことが敗因で、一つのレポートやテストのためにじっくり本などを読んで学ぼうと思っても、時間が足りなかった。もっと理解を深めたいという思いがあっても、時間がないというのは本当に悲しいと今回特に思った。	表現文化学科	1
1年生のときから、アルバイトをすることで、就職活動・学業に費やす時間が損なわれないように配慮はしています。	人間関係学科	3
TOEICを受けてみたいなと思ってます。	人間関係学科	2
バイトや習い事との両立が大変だなと感じる時がある。	人間関係学科	1
勉強をやりたいと思えない。	人間関係学科	1
最近、講義内で紹介された、本やサイトを見ることに興味をもっている。 私が在籍している学科にちなんで、人間関係という分野は本当に広く学びがいを感じているため、興味や関心を抱くことが多くあり、非常に面白い。	人間関係学科	3
自分の部屋がないので、集中して勉強に取り組むことができない。	人間関係学科	1
資格の勉強をしたいが、この時期はレポートやテストの勉強があるため十分にできていない。	人間関係学科	1
資格取得	人間関係学科	1
テキストが大きいと勉強する場所を選ぶのでやりにくいです。	心理学科	1
テスト前にあれもやらないとこれもやらないとなるのではなくこまめに復習をするようにしたい。	心理学科	1

回 答	学 科・研究科	学年
大学生になってから、勉強量がへっているの、自主的にでも勉強したいとおもう。	心理学科	2
大学生になってアルバイトを初めて休日はそれに時間を取るため、勉強とアルバイトの両立に困っている。またアルバイトでは覚えることもたくさんあって自分の頭がキャパオーバーしそうになる。	心理学科	2
学習をしなきゃいけないということに洗脳されるので、自分が気が向いた時に勉強している。	心理学科	2
5 限まで授業を受けると帰宅時間が遅くなり、なかなか勉強する時間が取れない。	文化情報学科	2
もっと予習復習をしなければいけないと思った。	文化情報学科	2
レポート課題などに集中しすぎて、SPIの勉強が全然できなかった。ちゃんと両立できるように課題をもっと前から計画して取り組めばよかった。	文化情報学科	3
予習復習、課題などやりたいことややらなくてはいけないことはやれているので満足。	文化情報学科	1
何から手をつけていいかわからない。	文化情報学科	1
図書館の閉館時間が早くて、学校で勉強してきたいのに、早く切り上げなくてはいけないのが悩ましい。	文化情報学科	1
意欲はあっても忙しく時間が無い。	文化情報学科	2
継続して続けることが大切だと思います。	文化情報学科	3
習い事が忙しいため、学習時間が少ししか確保できない。ほかの生徒はどのくらいやっているのか知りたい。	文化情報学科	1
通学に時間がかかるので、その時間を学習に有効活用したいと思う。	文化情報学科	1
通学の電車の中や大学で空いた時間に図書館で勉強するなど外では上手く勉強時間を確保できているが、家であまり勉強を行えていないので毎日時間を決めて勉強に励みたい。	文化情報学科	3
家だとなかなかやる気になれない。学校や図書館だとほかどる。	文化情報学科	3
ギリギリに取り組むと大変だった。前もって取り組みたい。	文化情報学科	1
卒論のため、参考文献を読みまとめる作業をできる限り多く行いたいです。	文化情報学科	3
高校の時より勉強しなくなった。	文化情報学科	1
MO S・英検などの資格をとる勉強をしたい。普段から机に向かう習慣を身につけたい。	文化情報学科	1
自分の興味のある資格の勉強をしたい。	文化情報学科	1
テストの週を早めれば就活の勉強にあてれると感じた。	文化情報学科	3
テスト期間だけでなく、テスト期間以外の時間で勉強をすることが大切である。	文化情報学科	1
資格の勉強がしたいと思っている。	文化情報学科	1
レポートに結構時間をかけていると思います。就活準備が必要なのに勉強時間の確保でその時間がなかなかとれず両立が難しく感じました。	文化情報学科	3

回 答	学 科・研究科	学年
試験期間に一気に課題が出るから少し大変です。	文化情報学科	1
時間配分が難しい。	文化情報学科	3
私は、家のパソコンでやれない課題があったので、学校だけで終わらせるのがとても大変だと感じました。	文化情報学科	3
自分の関心があるものに対する勉強時間をもう少し増やしたい。	文化情報学科	1
観光に関する資格をとりたい。	文化情報学科	1
特にないです。	文化情報学科	1
バイトが責任ある仕事で大変で、プライベートでやりたい勉強ができない1年だったから、バイト先を変えて、プライベートの勉強時間も充実させられるように2年生は過ごしたいと思います。	文化情報学科	1
ない	文化情報学科	1
少し足りないと思うので、もっと増やしていきたい。	文化情報学科	3
課題の発表が遅く、なかなか早いうちから取り組むことができない。今の時期は就活の準備で忙しいので、両立が大変に感じる。	文化情報学科	3
試験前の課題内容の発表が遅い。計画が立てられないので、一律していつ発表など決めてほしい。何回目の授業で発表など。	文化情報学科	3
バイトをするとあまり学習をすることができなくなるが、電車の移動時間などを利用して興味のあることを調べたり、学んだりしている。	文化情報学科	2
副免が大変です。MOS・ITパスの勉強もしたいです。	文化情報学科	2
世界遺産検定に向けて勉強したいです。	文化情報学科	2
アルバイトと学校の勉強の両立が大変だと感じました。	文化情報学科	3
資格試験と定期テストの時期が丸かぶりしている。大事な時期なのに専念できない。学内でもっと勉強に集中できるスペースが欲しい。定期課題についてはもっと早く連絡してほしい。資格に向けてスケジュールを立てていたのにギリギリで課題を言われ無駄になった。テスト前の予備日がもっと欲しい。	文化情報学科	3
今回は課題がものすごくあって疲れた。	文化情報学科	2
補講を土曜に入れることが大変になっている。	文化情報学科	3
レポートの数が多い。加えて手書きの人がよくいる。	文化情報学科	3
企業研究 自己分析 テスト勉強 レポート課題	文化情報学科	3
資格をとるため勉強しているが長期期間の方が勉強しやすいので授業がある期間は特に何もしていない。	文化情報学科	2
レポート課題が増えてきたので、文字数が多くて大変だが、自分の考えをまとめる練習にもなっている。	文化情報学科	3
特になし	文化情報学科	3
特になし	文化情報学科	3
全く足りてないのでもっとやるべきだと思った。	文化情報学科	3

回 答	学 科・研究科	学年
特にないです。	文化情報学科	2
もっと学習時間を増やしたい。	メディア情報学科	3
全体的に少ないかと思った。	メディア情報学科	2
勉強時間は長くすればいいというものでもないと思う。いかに自分に合ったやり方で集中して出来るかだと思う。	メディア情報学科	1
基本情報技術者の取得を大学として斡旋しているのならば質問対応してくれる先生の提示があっても良いと思う。	メディア情報学科	2
学習時間と休憩時間のメリハリ・区切りをつけられるようになりたい。	メディア情報学科	3
課題が終わり次第就職準備に力を入れていきたい。計画としては毎日 1 ～ 2 時間就職準備にける時間をとることにしている。これを実行していきたいと考えています。	メディア情報学科	3
もっとやらねば、と思います。	メディア情報学科	2
基本情報技術者についての質問を受け付けてくれる先生とかいないんですかね。	メディア情報学科	2
もっとしないといけないなあ。	メディア情報学科	2
資格の勉強時間を確保したい。	メディア情報学科	2
資格の勉強を始めたい。	メディア情報学科	2
これから資格の勉強をがんばります。	メディア情報学科	2
何が役に立って立たないかわからない。	メディア情報学科	2
資格取得の勉強時間を確保していかななくてはいけないと感じている。	メディア情報学科	2
1 日にテストが詰まっていると、とても苦勞して大変だった。	メディア情報学科	2
テストが詰まっているので大変。	メディア情報学科	2
高校生の時はちゃんと勉強していたのがすごいと思った。	メディア情報学科	2
バイトなどで勉強する時間が無い。	メディア情報学科	2
そろそろ資格の勉強を始めたい。	メディア情報学科	2
もっと資格の勉強がしたい。	メディア情報学科	2
テストが近いので課題提出が多く、課題を行う時間が空き時間のほとんどだった。	メディア情報学科	2
資格が取れるような勉強をしていきたい。	メディア情報学科	2
もう少し大学生らしい勉強したい。	メディア情報学科	2
課題がテスト期間直前に提示され、テスト期間中に提出するというのは、テスト勉強の時間が減り大変だ。テスト期間中の提出物は最低 2 週間前に言ってほしい。	メディア情報学科	2
資格とらないと本当にやばいと思っているので取る。語学にももっと力を入れたい。3 カ国語ぐらい話せるようになりたい。	メディア情報学科	2
突然出されたレポート等の消化が大変です。バイトなどの両立。	メディア情報学科	2
漠然とやりたいことがあること。	メディア情報学科	2

回 答	学 科・研究科	学年
高校より減ったことを実感した。	メディア情報学科	1
もっとまじめに勉強しなければと感じた。	メディア情報学科	1
書く勉強は苦手だし嫌。日本語はあまり好きじゃない。	メディア情報学科	1
きちんと前もって勉強すべきだった。	メディア情報学科	1
家でレポート課題が進まないことが大変に思う。	メディア情報学科	1
レポート作成	メディア情報学科	1
やる日とやらない日の差がとてもひどいと思うので、毎日少しずつやれるようにしたいと思う。	メディア情報学科	1
勉強がむずかしいです。	メディア情報学科	1
今年度は何もかも初めてで時間の余裕があるにも関わらず予習ができなかったため、来年度は授業が復習となるようにできたらと計画しております。	メディア情報学科	1
テスト前にしか学習しないので普段から勉強をするくせをつけたい。	メディア情報学科	1
資格取得をしたい。	メディア情報学科	1
テスト期間に入ってから授業内で行う発表などが重なったりして、まともに勉強ができなかった。	メディア情報学科	1
関心がある勉強をできるようにしたい。	メディア情報学科	1
体調をくずしてしまい、講義が受けられなかった分、復習に時間を使った。通学時間がかかるので勉強するのが難しい。	メディア情報学科	1
これから2年生になるにつれて、もっとたくさんの時間が勉強の時間になると思う。	メディア情報学科	1
詰め込みすぎてしまう所を直したいと感じた。	メディア情報学科	3
図書館の地下は静かだがパソコンは使いにくい、メディア棟と文情棟のパソコン室はいっぱいあるがいつもうるさいと感じています。静かで、自由に使えるパソコンの自習室があると有り難いです。	メディア情報学科	3
図書館が早くから開館してるといいなと思っています。	現代マネジメント学科	1
時間が足りない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
課題の提出日が連続していたりテスト勉強と重なったりすると自分の時間を持てずストレスがたまることもある。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
課題に追われて休息できない。スキマ時間の活用。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
バイトと自分のやらなければいけない勉強を両立するのは難しい。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
教員採用試験の勉強に力を入れたい。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
課題が多く、テストの勉強が進まないこと。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
採用試験の勉強をしたいのに課題が多すぎる。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
課題が多く勉強ができない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
時間が足りない（アルバイト・通学時間）	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
何も頑張れません。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
S P I の自主学習	子ども発達学科保育・初等教育専修	3

回 答	学 科・研究科	学年
課題が多くて、教採の勉強に手が回らない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
就活する人が4年5月に実習しなければならないこと。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
課題が多くて採用試験の勉強ができない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
テスト・課題に追われて自己分析ができない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
テスト期間は就職勉強が進みません。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
他にやりたいことがあり時間が取れない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
特になし	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
課題を終わらせるのに時間がかかる。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
テスト前じゃないと全く勉強しない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題も勉強もすごく思っていたより大変ですがやりがいを感じます。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題が多いこと。勉強のコツがつかみにくい。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題の量が多い。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
部活との両立	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
テストが終われば、他の勉強をしたい。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
近所の図書館で勉強しているが、高校生が大勢いて勉強する場がないこと。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
ギリギリにやっていたので大変でした。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
大学のテストに向けての勉強方法が今いちわからなくて、どの程度、どういう方法で勉強すればいいのか悩んだ。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題と習い事なども両立が大変。寝れない。この週間だけ口内炎がすぐできる。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題が多い。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題とテスト勉強の両立をするのが大変。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
たくさんやることがあって時間がかかる。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
テストと一緒に課題が多く出され大変。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題が多く、復習する余裕がない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題 キャンプ	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
授業も多く、課題も多くて大変だけど好きなことを学べるのは楽しい。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
特にありません。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題が多いことが大変だと思う。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
専門的なことを学ぶ。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
予習をほぼしていないので、もう少しすべきだと思った。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
課題が多いこと。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
どう勉強すべきか分からない。	子ども発達学科保育・初等教育専修	1
夏の教採に向けて勉強をしているが、病気にかかってしまっ て思うように勉強ができていないので焦っています。	子ども発達学科保育・初等教育専修	3
教員採用試験の勉強をもっとやりたいなと思っています。	子ども発達学科保育・初等教育専修	2

回 答	学 科・研究科	学年
やりたい事にはたくさん時間をかけたいが、他の事が進まない。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
やりたいことに時間をかけることが大切だと思う。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
教育以外の語学勉強も時間をかけて勉強したいが、アルバイトや課題でゆったりした時間がなく大変。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
課題がほぼ毎週でてるのに関わらず筆記試験があること。どう採点しているか分からない。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
課題が多い。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
資格のための勉強をしたい。	子ども発達学科初等中等教育専修	4
どんどん勉強していないから頭が悪くなっていると思う。	子ども発達学科初等中等教育専修	3
課題が急にたくさん出て、安定した勉強時間が取れない。	子ども発達学科初等中等教育専修	3
集中力が短くて、長く続かない。	子ども発達学科初等中等教育専修	2
時間が足らないと毎回思う。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
しんどい	子ども発達学科初等中等教育専修	3
夜遅くまで勉強できるカフェを学校内に作ってほしいです。	子ども発達学科初等中等教育専修	2
今の勉強量ではだめだと思うので改善したい。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
全教科を並立して学習することが大変と感じた。	子ども発達学科初等中等教育専修	1
勉強をしなければいけないと思っていても結局誘惑に負けてしまって、いつも遊んでしまう。毎日勉強する癖をつけたい。	子ども発達学科初等中等教育専修	2
少ないと感じた。	子ども発達学科初等中等教育専修	3
授業や取得免許コースに関わる事務処理で時間を取られ時間があまりとれていないと感じた。	子ども発達学科初等中等教育専修	3
教採の勉強今しないとダメだと思って。	子ども発達学科初等中等教育専修	2
課題が多すぎて自分の授業以外に興味がある分野に没頭することができない。 もっとバラバラにテストをしてほしい。	子ども発達学科初等中等教育専修	3
課題に追われて専門の勉強がなかなかできない。	子ども発達学科初等中等教育専修	2
電車の空き時間を有効活用したいが、眠くて仕方がない。	子ども発達学科初等中等教育専修	3
テストが難しいため、勉強にかなり時間をかけないといけなくて他のことが出来ず、大変だと感じています。	看護学科	2
梶山は図書館、学部の自習室解放時間が長く、学部の中でも3階の自習室、2階、4階の自習室と学年別に使用できます。また、図書館も地下1階から2階まで用途別に学習する場所を選ぶことができ、とても満足しています。	看護学科	4
勉強が他学部と比べて大変すぎると思う。	看護学科	1
記述のテストが多い。時間が足りない。	看護学科	1
予習は厳しい。	看護学科	1
ビデオ講義は、授業なのか、予習なのか。	看護学科	1
課題・復習に時間をかけすぎていて関心がある勉強をする時間をつくれない。	看護学科	1
もっと体育やりたい。	看護学科	1

回 答	学 科・研究科	学年
平日はアルバイトとの両立が大変に感じます。	看護学科	1
覚えることがとても多い。	看護学科	1
看護の勉強が大変すぎて他に興味があることまで手が回らない。	看護学科	1
テストのための学習が大変。	看護学科	1
家以外で家に近い場所で自習できる場所がない。やりたいこと→ボランティア	看護学科	1
寮のため、家事に時間を取られるため、少し学習時間が削られる。	看護学科	1
英語の勉強 ボランティアを積極的に行いたい。	看護学科	1
もっと勉強する時間を取る必要があるとは感じていますが、アルバイトや遊びの時間がどうしても多くなってしまっています。	看護学科	1
参考書が欲しいが高くて買えない。	看護学科	1
やることが多くて大変。	看護学科	1
特にありません。	看護学科	1
資格勉強をする時間を確保していきたい。	看護学科	1
毎日の勉強時間確保が大変。	看護学科	1
同じような内容が多い科目があり大変である。	看護学科	1
テスト前じゃなくコツコツ。	看護学科	1
通学に時間がかかり、家に帰ってから学習しようと思うと疲れてあまりできない。	看護学科	1
勉強を全くしていないし、勉強する習慣がなくなってしまった気がする。	看護学科	1
テスト期間だけでもよいので、学部棟の開放 or 図書館の開放をお願いします。勉強するところがありません。	看護学科	2
しんどい	看護学科	2
やりたいなと思っていることはあるが、効率が悪く、やりたいなと思っていることに手をつけることができない。	看護学科	2
テストが近かったため勉強をしたり、課題提出が近かったので課題をしたりしていたので、普段から復習の時間をとってテスト前に焦ったり、大変さを少なくしたいなと思います。	看護学科	2
テスト期間だけでいいので、日曜も自習室利用したいです。	看護学科	2
課題が多くて大変で、テスト勉強する時間がとれない。	看護学科	2
テスト範囲が広すぎる。要点が多すぎて分からない。全て暗記であり、負担が大きすぎる。テスト教科の配分工夫をしてほしい。	看護学科	2
覚えること多すぎて大変。	看護学科	2
学部の自習室での勉強が一番はかどると感じるため、自習室の開室時間の延長、24時間対応にしてほしい。	看護学科	2
テスト前や課題以外の学習時間はなかなか確保できない。テスト前は日曜日や夜中も自習室を開放してほしい。	看護学科	2

回 答	学 科・研究科	学年
予習よりも復習に時間をかける方が多く、1 月では特にテストがあったため、テスト勉強を中心に行った。	看護学科	2
テスト前だけではなく、日々の勉強習慣をつけたいと思っている。	看護学科	2
テスト前に課題が出たとき、テスト勉強とのやりくりが難しい。部活との両立が難しく、勉強時間が足りていないと感じる。	看護学科	2
時間がもっと欲しい！	看護学科	2
定期試験の範囲の広さは尋常ではなく、課題も異常に多いので、定期試験期間を 2 週間に延ばしてもいいと思います。	看護学科	2
課題を効率的に行えるよう土・日の時間を工夫して使っていきたいと思いました。	看護学科	2
再試期間について、再試発表から 3 日・4 日で再試が始まってしまうことについてです。期間が短すぎる。もっと期間を延ばすべきである。学部によって分けて試験期間を変えるべき。	看護学科	2
グループでやる課題や演習記録を出すならもっと早くにあらかじめ言っておかないと、バイトなどで参加できなかったりしてメンバーが集まらないことがある。テストの結果発表から再試までの期間が短すぎる。最低 1 週間はないと対策は難しいと思います。	看護学科	2
テスト週間が 1 週間なのはおかしい。他大学は 2 週間でやっているのに。1 日で 3 科目あるのは再試になるくらい手が回らない。また、再試期間もテスト発表すぐに行うのはおかしいし、時間が足りない。こんなことをやってるのは、相山だけである。こんなの再試を落とす気しかないと考えてしまう。看護学部は勉強の難易度、科目数が多いため他学部とテスト・再テスト期間を一緒にするのはやめてほしい。	看護学科	2
実習中だから大変なんです。	看護学科	3
睡眠時間を削ってまで行わないと進められないが、効率良く行いたい。	看護学科	3
実習前・実習中はたくさんする。	看護学科	3
睡眠時間とりすぎなのでもっとできるといいと思う。	看護学科	3
もう少し日頃から学習を進めていきたい。	看護学科	3
国試勉強など頑張ります。	看護学科	3
レポートが高校時代なかったので、今は慣れましたが最初は慣れませんでした。	人間関係学研究科	1

2-1 授業アンケート・授業参観検討小委員会

授業アンケートの改善策

全学FD委員会

授業アンケート・授業参観検討小委員会

1. アンケートの問題点

(1) 授業への影響

授業時間中でのアンケートの実施は、授業計画に少なからぬマイナスの影響がある。用紙の配付、説明、回答、回収に要する時間は、少人数クラスで約10分、多人数クラスでは約20分ほどであり、授業時間の減少をもたらす。

(2) 学生の負担

約2週間のアンケート期間中、一人の学生は平均的に少なくとも4、5科目程度アンケートに答えていると推測され、それなりの負担となっていると考えられる。

(3) 本来の目的以外の利用

アンケートの実施目的について、教員及び学生に対しては「カリキュラムの質的向上のために行うもので、その他の目的には使用されない」と説明している。しかし、実際にはその他の目的にも用いられている。

2. 問題点の改善策

(1) 1科目について6年間で1回の実施

授業時間の確保と学生の負担軽減のために、一つの科目については6年間で1回アンケートを実施とする。これでも授業アンケートの目的を達するのには十分である。過去の実施記録に基づいて計画的に実施すれば、一人の専任教員については1年に2科目程度の実施となる。ただし、これは最低基準とし、教員の希望などに応じてアンケート実施対象科目を増やすことができるものとする。

(2) 評価項目の削減

設問項目の因子分析に基づき、冗長な設問項目を削除して各因子3項目、計6項目の簡潔なものにする。以下に、各因子について負荷量の大きい順に項目を示す。

① 第1因子（授業方法の適切性に関する評価）

10 教員の話し方（声の大きさ・話す速さ・マイクの使い方など）は適切であった。

9 板書や資料（配布資料。映像など）の提示方法は適切であった。

6 この授業は理解しやすかった。

11 私語など、不真面目な学生に対する教員の対応は適切であった。

12 授業の開始時刻や終了時刻は適切であった。

15 この授業を受けてあなたのものの見方や考え方が広がった。

14 あなたから見て受講者は真面目に参加していた。

② 第2因子（授業内容の適切性に関する評価）

3 このシラバスの主な内容を覚えている。あるいは、毎回・時々シラバスの内容を確認し受講している。

2 この科目を履修登録する上で、シラバスの内容は役立った。

4 この授業は概ねシラバスの内容に沿った授業が行われた。

13 予習や復習など、自主的な学習を行った。

アンケートに用いる項目として、第 1 因子項目は 10, 9, 6, 第 2 因子項目は 3, 2, 13 とする。

(3) 成績データの連結

評価対象科目のアンケートデータを各学生の成績評価データと連結する。これによって、学生の授業評価と学修成果を総合的に評価できるようにする。

(4) 評価実施方法の改善

アンケートを Web 方式で実施する。アンケート実施期間中に S*map から強制的にアンケートに誘導する。

(5) アンケート利用目的の学生と教員への周知

アンケート結果がどのように用いられるかについて、学生と教員に対して利用実態を正しく伝える必要があると思われる。

以上

2-2 シラバス、学習時間検討小委員会

WG②課題検討作業報告（田村 小澤 室 17/10/24）

検討課題 1 「学生の役に立つシラバスの内容、シラバス活用法を検討し、シラバス記入要領に反映させる方法を検討する」

1. 検討作業の経過

以下の展開で検討作業を行なった。

基本の間シラバスの目的は何か？

本場のアメリカでは独立講座の総合情報の開示が本来の目的であるが、自己完結型のカリキュラムを持つ日本の大学では授業計画の開示が目的と考えられる。ではその開示の目的は何か？目的設定の主体は、国、各大学、担当教員、受講希望学生それぞれが考えられるし、どんな情報の開示が望ましいかについてはそれぞれの立場によって違いも出てくる可能性がある。一般的には「学生が講義を受け単位を取得するにあたっての必要な情報の開示」である。

課題に即した展開：

A 学生の役に立つシラバスとは？→学生の現在のニーズに応える→a他にどんな情報が欲しいか学生に調査する→学生のニーズなら何でも応えるのか？→授業する側、教育する側の判断も必要

B 教員が意義を認めるシラバスとは？→授業を進める上でそれに資するもの→事前に提示することで受講学生の学習態度や意欲を高める効果のあるもの→教員が学生にあらかじめ伝えたいことは何か？→bどんな情報を載せたいか教員に調査する

C 教育機関としての学校にとって望ましいシラバスとは？→大学の教育理念・目標の実現に資するもの、及びそれを内外にアピールできるもの→c₁ 相山女学園大学の教育理念から見て望ましいシラバスのあり方を考える

当面の課題： a + b + c 及び d他大学のシラバスを参考にする

そのうちで実施した課題の調査結果：

＜課題 aに関連しての一部学生への聞き取り結果＞

- ・ 授業選択する時のみ閲覧し、授業進行時には利用しない現実にある。
- ・ 第 1 回目の授業で配布される科目もあるが、途中でそれを見直すことはほとんどない。
- ・ 中間でのテストやレポート、15回目の最終授業時にテストが実施される場合には、必ず明記してもらいたい。
- ・ 教科書の定価を明記してもらいたい。
- ・ 「育成する能力」は機械的に付けられている印象で、実態にそくしていないものが多々ある。
- ・ 教員で授業を選択することもあるので、紙媒体の eシラバスのインデックスに教員別のものを作ってほしい。

＜課題 dの検討結果＞

検討大学：

愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋学芸大学、安田女子大学、同志社女子大学、東京女子大学、愛媛大学

結果:

愛知淑徳大学／「授業外学習の指示」項目あり

金城学院大学／「課題／教室外の学習」項目あり

名古屋学芸大学／「自己学習（予習・復習）の内容・時間」項目あり

安田女子大学／「到達目標（観点別行動目標）」、「授業外学習へのアドバイス」項目あり

同志社女子大学／「準備学習等の内容」、「フィードバックの方法」項目あり

東京女子大学／「学生へのフィードバック」、「ディプロマポリシーとの関連」項目あり

愛媛大学／「ディプロマポリシーに関わる項目」、「愛大学生として期待される能力／コンピテンシーに関わる項目」、「受講のルール」項目あり

要約:

- ・ 本学の「事前・事後学修」に相当する表現として「授業外学習」、「教室外の学習」、「自己学習」、「準備学習等」などの表現が使われている
- ・ 7校中の2校にフィードバック項目が導入されている
- ・ ディプロマポリシーへの関連項目が2校ある

D シラバス活用法について→誰の活用法か→学生、教員→それぞれの活用法を考えることが必要
学生の活用法について;

1. 受講内容の整理に活用する
2. 予習復習に活用する
3. 疑問等の問題意識喚起に活用する（問題意識をもって受講することを求める）

教員の活用法について;

1. どんな関心を持った学生に受講して欲しいかを表明する場として活用する
2. 学生の受講をスムーズにするための学習ガイドとして活用する
3. 授業内容の展開や変更点を学生に確認させるためのベースとして活用する

シラバスの活用を促す方法について;

1. 活用法やその重要性について f履修前のガイダンスで学生に周知徹底する
2. 具体的な g活用法について教員にサジェッションする
3. h授業形態の違いを反映できるシラバス記入の形式にして利便性を高める

2. 提案

検討作業では具体的課題として aから hの8つを挙げたが、本小委員会でも実施したもの以外で今後すぐに実施しうるものとして以下の課題を提案する

1. bどんな情報を載せたいか教員に調査する
2. シラバスの重要性について f履修前のガイダンスで学生に注意を喚起する
3. 1回目の授業でシラバスに言及することを教員に依頼する(g)
4. eシラバスのインデックスに教員別のものを作る

検討課題 2 「学生の学習時間を把握するための方法を検討し、より学生が予習復習を含めて学習に取り組むための方法を検討する」

1. 検討作業の経過

基本の問何を学生の「学習」と考えるか？

問 学生の学習時間を知ることに意味があるのか？学習時間が長い＝良く学習している？→学習の「質」が問題→どのようにして「質」を把握するか？→大学生としての学びの「質」とは何か？

学習時間を把握するための方法；

i 授業アンケートで予習復習の時間や具体的な学習内容を書かせる

学習や予習復習に取り組ませるための方法；

どんな学習、予習や復習が望ましいか、必要かは具体的な学習場面である授業の形態や内容によって規定される→授業の形態（講義形式と演習形式と実験・実習形式）ごとにどんな学習態度や予習復習が必要かについて j 履修前のガイダンスで学生に周知徹底する→個別授業ではどんな学習態度や予習復習が必要かについて k シラバスで学生に説明する

2. 提案

1. 授業外学習（予習復習を含む）の重要性について j 履修前のガイダンスで学生に注意を喚起する
2. その個別授業ではどんな学習態度や予習復習を期待するかについて k シラバスで学生に伝えることを教員に依頼する

教員研修小委員会報告2017

1. 教員研修については、2017年9月6日に「学生の主体的な学びを促す授業づくりの原理と実際－協同学習の理論から学ぶ」をテーマに、中京大学国際教養学部の杉江修治教授に講演いただいた。参加者は164名であった。
2. 全学FD委員会主催のSpirit活用に向けての講習会が1と同じ9月6日に開催され、21名の参加者があった。
3. 教員研修会の開催時期について、例年9月中旬に開催されているが、年間行事との関係で参加が難しい学部もあり、他の時期での開催を検討したが、現時点では有力な候補時期が確定できない状況にある。
4. 新任教員研修について、本年度も「公益財団法人大学セミナーハウス主催 第7回新任教員研修セミナー」への参加を募り、2名が参加した。
5. その他の新任教員研修については、各学部に任されており、FD委員会として実施方法を今後検討する必要がある。

以上

後藤宗理

Ⅲ 大学院 F D 活動報告

1 . 大学院 F D 委員会の活動記録（平成 29 年度）

Ⅲ. 1

大学院FD委員会の活動記録（平成29年度）

①大学院FD委員会の活動記録

（第1回） 平成29年5月11日（木） 9：30～10：10	報告 (1) 平成28年度の活動状況について (2) 平成28年度活動報告書について (3) CITI Japan 研究倫理e-learningの受講状況について (4) その他 審議 (1) 平成29年度大学院FD委員会活動計画について (2) 平成29年度研究倫理e-learningの受講推奨について (3) その他 ・大学院FD委員会開催日程について
（第2回） 平成29年6月22日（木） 9：30～10：05	報告 (1) CITI Japan 研究倫理e-learningの受講状況について 審議 (1) 平成29年度大学院FD実施計画について (2) 平成29年度大学院授業アンケートの実施について (3) その他
（第3回） 平成29年11月15日（水） 9：30～10：00	報告 (1) 平成29年度前期大学院授業アンケート実施状況について 審議 (1) 平成29年度後期大学院授業アンケート実施について (2) その他

②平成29年度 大学院FD活動報告

○学生（大学院生）の学修時間アンケート

- a 実施内容：平成30年1月15日（月）～1月21日（日）における学修時間について平日と土日の、授業の時間以外の時間で「準備学修（予習）」、「課題・復習」、「授業以外に関心がある勉強」について何時間学習するか質問した。
- 実施目的：学生・院生の学習のスタイルを把握し、より価値の高い授業を提供するために実施する。
- b 実施方法：学生支援システムのアンケート機能及び授業内での用紙配付により、全学生対象に実施した。
- c 開催状況：1,266名が回答、大学院生は5名が回答

○シラバスのチェック

- a 実施内容：各研究科ごとに、シラバス作成要領を作成し、教育目標、CP,DPを明示した上で、各教員にシラバス作成を依頼した。その後、大学運営会議からの求めにより、初校時に、全科目についての第三者チェックを各研究科のFD委員が実施した。必要項目や内容について確認し、必要に応じて、授業担当者に加筆修正を依頼した。

○学生に対する授業アンケートの実施状況（詳細は次ページ以降）

- a 実施時期：【前期】平成29年7月12日（水）～31日（月）
 【後期】平成30年1月15日（月）～2月2日（金）
- b 実施対象科目：大学院での受講科目すべてを対象として記述式で回答
- c 実施方法：実施期間中4研究科に在学している院生全員に郵送または手渡しで依頼（返信用封筒同封）

c 回答数（前後期合計延べ人数）

研 究 科	在学数	回答数	回答率
生 活 科 学 研 究 科	20	10	50.0%
人 間 関 係 学 研 究 科	50	16	32.0%
現代マネジメント研究科	4	3	75.0%
教 育 学 研 究 科	2	2	100.0%
研 究 科 不 明		1	
計	76	32	40.8%

③平成29年度前期大学院授業アンケート実施状況

平成29年6月22日
大学院FD委員会

平成29年度前期授業科目 大学院授業アンケートの実施について

1. スケジュール

日時	会議等	内容
6/22 (木)	大学院 FD 委員会	前期大学院授業アンケート実施について 報告・確認
7/12(水)～7/31(月)	—	大学院授業アンケートの実施 (郵送)
8/31 (木)	各研究科	大学院授業アンケート結果の確認・検証

2. 大学院授業アンケートの実施について

学部では、従来から全学 FD 委員会を中心として授業アンケートを実施していたが、平成28年度より、大学院の授業についても授業アンケートを実施した。平成29年度も平成28年度と同様の方法にて実施する。

3. 大学院授業アンケート内容について

学部での授業アンケートは、授業科目ごとに回答者の匿名性を守るため、原則10名以上の科目を対象として実施している。しかし、大学院においては10名以上の科目は一部の専攻にしかなく、同様の方法での授業アンケートは匿名性が確保できない。

そのため、大学院での授業アンケートは科目ごとではなく、大学院生ごとに有益であった科目等を記入してもらう様式をもって実施する。

※アンケート形式ではなく、座談会形式の大学院生による授業アンケートの実施を希望する場合は、結果報告を平成29年8月31日までに教務課に提出する。

4. 授業アンケート項目及び実施方法について

アンケート項目は、平成28年度と同様のものとする。

実施方法は大学院生全員に郵送により配布し、回収は返信用封筒による返送または教務課・日進キャンパス事務課窓口への提出とする。

平成29年7月12日

相山女学園大学大学院
院 生 各 位

相山女学園大学大学院FD委員会
委員長 後 藤 宗 理

平成29年度前期 相山女学園大学大学院 授業アンケートについて

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

相山女学園大学大学院FD委員会では、大学院各研究科の授業内容の質的向上を図るため、別紙の通りアンケートを実施させていただきます。

このアンケートは、各研究科の授業内容や方法の充実を図るうえでの参考資料とするために実施するものです。目的以外に使用されることはなく、不利益を被ることは一切ありませんので、院生のみなさまの率直なご意見をご記入ください。

ご記入後は、平成29年7月31日（月）までに、同封の返信用封筒でご返送いただくか、同封筒に封入し教務課または日進キャンパス事務課窓口にご提出をお願い致します。

なお、このアンケートは科目ごとではなく、大学院生1名につき1回のみ回答するものとなります。

前期末の試験準備等多忙な時期かと思いますが、何とぞご協力をお願い致します。

敬具

（本件お問い合わせ先）

相山女学園大学 学務部教務課 FD担当

TEL 052-781-6466

Email kyoumu@ml.sugiyama-u.ac.jp

平成29年度前期 大学院授業アンケート

このアンケートは、各研究科の授業内容や方法の充実を図る上での参考資料とするために実施するものです。目的以外に使用されることはなく、あなたが不利益を被ることは一切ありませんので、素直な気持ちでお答え下さい。

ご提出締切日 平成29年7月31日（月）

以下の3つの質問に対して自由に書いて下さい。

1. 大学院の授業科目及び研究指導科目で興味深かった点、有益であった点などを科目名と共に書いて下さい。

2. 大学院の授業科目及び研究指導科目の改善すべき点について科目名と共に建設的な意見を書いて下さい。

裏面に続く

3. 教室設備、研究機器、授業環境などについて、お気づきの点があれば具体的（棟、教室、等）に書いて下さい。

領域名

ご協力ありがとうございました。ご意見を基に改善するよう努力します。

※記入済みアンケート用紙は、返信用封筒に封入し返送いただくか、同封筒に封入し、
教務課または日進キャンパス事務課窓口までご提出ください。

平成29年度前期大学院授業アンケート実施状況

1. 実施概要

- ・実施期間：平成29年7月12日（水）～7月31日（月）
- ・実施対象科目：大学院での受講科目すべてを対象として記述式で回答
- ・実施方法：7月12日（水）4研究科に在学している受験生全員に郵送で返信用封筒同封により送付。
8月5日、10月11日ジャーナルにて再度依頼。

2. 回答数

研 究 科	前期在学数	回答数	回答率
生 活 科 学 研 究 科	11	5	45.5%
人 間 関 係 学 研 究 科	26	10	38.5%
現代マネジメント研究科	2	1	50.0%
教 育 学 研 究 科	1	1	100.0%
計	40	17	42.5%

※参考（平成28年度）

研 究 科	前期在学数	回答数	回答率
生 活 科 学 研 究 科	9	6	66.7%
人 間 関 係 学 研 究 科	24	13	54.2%
現代マネジメント研究科	3	2	66.7%
教 育 学 研 究 科	2	2	100.0%
計	38	24※	63.2%

※回答数計24名のうち1名は研究科不明

④ H29 大学院前期授業アンケート回答集計

平成 29 年度前期大学院授業アンケート回答

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
1	統合生活科学特別研究において、指導教授が丁寧に論文の執筆に対し指導していただいている点が大変有益であると感じています。	特にありません。	修士の時には収支の部屋があり、ロッカーも自由に使えて便利でしたが、博士にはないので、パソコンやロッカーが自由に使える部屋があると良いと思います。	統合生活科学領域
2	「比較行動学特講」心理学とは少し違った話をきけておもしろかったです。	修論指導（ゼミ）が先生によって頻度がバラバラなので、もう少しそろえた方がいいと思いました。	相談室がカビ臭いのを何とかしてほしいです。	臨床心理学領域
3	「給食経営管理学特論」 ・病院の管理栄養士の話が聞けて勉強になりました。現場での問題点など、経験しないと分からないことも知れて良かったです。病院の管理栄養士はあまり興味がなかったけど、少し興味を持ちました。 ・コミュニケーションなど、今後役立つ内容が多くあり、良かったです。 ・リーダーの視点からも考える内容だったので、今までと違った視点から学ぶことができたので視野が広がりました。		・情報のTAを廃止にしてほしいです。院の授業とTAが被らないように授業の時間割を考えてほしいと思いました。 ・カフェの店が夕方に閉まってしまうため、お菓子やデザートのお販機を生活科学部にも設置してほしいと思いました。	栄養科学領域
4	「共通」 授業を受ける生徒の人数が少なくなったため、質問や発言がしやすくなりました。 「給食経営管理学特論」 毎時間、給食経営管理学についての長文を自分なりにまとめて発表するという授業だったのですが、自分で長文を読み、まとめることや、それを発表すること、これらのことは、大学時には毎週することはなかったので、とても勉強になりました。 「臨床栄養学演習Ⅲ」 海外の文献などを読むことにより、視野を広げることができました。			栄養科学領域

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
5	「給食経営管理学特論」 海外の給食経営について学ぶことができ、日本との比較をすることで、日本の栄養士、管理栄養士の改善点についても知ることができました。将来働く上で考えさせられることが多く、先生の具体的なアドバイスもあり、とても充実した授業でした。 「臨床栄養学演習Ⅲ」 海外の論文を読むことで視野が広がり、今現在行っている研究と深く関わる文献をいくつも見つけることができました。	どの授業も充実したものであり、特に改善すべき点はないと思います。	216の冷房が全くきかず、毎回暑かったです。	栄養科学領域
6	学校臨床心理学特講では、個人臨床だけでなく、組織を対象とした視点を多く得られました。 研究指導では、1年半を通して週に1回枠を設けて下さり、とても助かりました。研究内容に関してはもちろん、研究への姿勢、課題との向き合い方など、自分自身についても指導教員からご指導いただき、考えることが多かったです。	特にありません。	2号棟1階の相談室ブレイルームのにおいが気になります。カーペットのためにおいを吸いやすいのだと思います。年に1～2回、クリーニングなどできないでしょうか。	臨床心理学領域
7	スーパーヴィジョン、臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ	特にないです。	特にないです。	臨床心理学領域
8	「比較行動学特講」 今までは「相手がどう考えているか」という点ばかりで「心」そのものに着目した事がなかったため、新たな視野の広がりを持つことができた。 「比較文化論特講」 今まで教育を学んできていたため、その教育が一つの文化を変えてしまうことがあるなど考えもしなかった。「教育を受ける事ができたなら必ず豊かになる」と信じていたが、逆効果にもなり得ると知った。	特になし。	もしも部屋数に余裕があれば心理領域とは別の部屋をもうけてほしい。	教育学領域
9	「臨床心理学基礎実習」 ケースカンファレンスで様々な意見を聞くことができた。		日進キャンパス5号棟1階の印刷機の調子が悪い。印刷が不鮮明である。共同研のコピー機では、20枚までしか印刷できないため、この印刷機を利用する度不便を感じている。新しい機械に交換していただけないでしょうか？	臨床心理学領域

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
10	どの授業も新たな発見、気づき、学びがありました。実際に体験してみるなどより理解が深まりやすいものも多くありました。 あえていうならば、臨床心理学基礎実習Ⅰで、具体的にお話を聞け、今後の参考になったのがとても良かったです。勉強になりました。	人間関係論Ⅰ、なぜ必修なのか気がなります。面白い授業でしたが、最初の方は高レベルでついていけず理解に苦しむ点もありました。絵本も少し大変でした。心理学研究法特講、もう少し最初の方だけでもいいので具体的なアドバイスを頂きたかったです。独学で本なども読みましたが、少しついていけなくて。 上記の事は私自身の能力不足、努力不足もあるとは思いますが、少し疑問に思った事ですので書かせて頂きました。	207教室の映像の機器の使い方のガイドが以前あったようですが今はなく、機器を用いるのに時間がかかり、その分授業が潰れてしまう事が多々ありました。院生自身が覚えるのはもちろん、事務の方にお手数おかけしない為にも用意して頂けると幸いです。 よろしくお願いいたします。	臨床心理学領域
11	「進路指導論特講」 キャリアについての考え方が学校教育の中にもあり、労働者がいろいろな経験から今後の自分をさらに成長させるものだけではないことを学んだ。広い視野で学び、行動することが大切だということを事例を通して学べた。 「人間関係論Ⅱ」 人と人との関係を学ぶことにより、対人関係を興味深く観察することができている。社会とは、人とは、から始まり、社会学的視点についての基礎を学ぶことができた。難しい用語が多くあり、理解し辛いこともあったが、先生に質問しながらたとえば～ということのようにわかりやすく再度説明して頂きとても勉強になった。 「小集団特講」「組織管理論特講」 現在、職場で起こっていること、事例がどのような理論として存在しているのか、そして理論を学ぶことによってどのような現象が生じるのか、体系的に学ぶ機会となった。 「精神医学特講」 複雑な社会の中で、学生、労働者、さらに人として生じる精神の病気に対してどのように発症し、どう対処するのが良いのか知る機会となった。	シラバスに記載されている内容と違っていたこともあり、授業のすすめ方も先生によりかなり差があった。しかし、先生方も大学生ではなく、院生にはディスカッションを重視しており、このような授業形式が大学院生なのかな…と感じています。 特に改善してほしいという点はありません。	特に意見はありません。	社会学領域
12	公共政策特論	二年次の論文の中間発表が前期中に一回あった方がよかったなと思います。	コピー機が一階に降りてしまったので少し使いにくいです。研究室（院生室）にあると便利かも。	会計・税務領域

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
13	「食品衛生学特論」論文を読みまとめる力が少しついたと感じました。また、読んでいく上で何事にも疑問を持たないと、論文の内容が理解できていないと思いました。	特にありません。	特にありません。	食品科学領域
14	「比較教育学特論」は私の研究テーマに沿って内容を柔軟に指導して下さいました。	教職インターンシップ I a は、小学校と大学の連携、方向性を明確にしてほしい。	特になし	教育学研究科
15	「比較行動学特論」人の本質や心理学について新たな視点が生まれ、客観的にとらえることができた。	「スーパーヴィジョン」約束したSV（スーパーヴィジョン）の時間から開始されず、30分ほど待つことがあります。先生方もお忙しいとは思いますが、可能な時間に約束していただきたいです。また、先生によってSVの進め方は違うかと思いますが、院生としてはケースの内容をもう少し細かくみて指導していただきたいです。	一度直していただいたのですが、大学院専用入口のドア（3階）が、また勢いよく閉まってしまうようになり、となりのクラスにご迷惑をおかけしていると思います。（学内のその他のドアも同様）	臨床心理学領域
16		「スーパーヴィジョン」大幅に開始時間が遅れることがありました（30分以上など）。事前にアポイントメントをとっているのに、先生がいらっしゃらないと困惑します。また、枠組に関して以上にセラピーの中身についてご指導頂きたいと思います。さらに、作成していった逐語録を受け取って頂けません（他の先生方は受け取って頂けます）。ケースの経過など、把握されているのか不安になります。SVの場所も、先生の研究室・相談室以外で行うことがありましたが、守秘義務の点から疑問を感じました。		臨床心理学領域
17	臨床心理査定演習の授業で、実際に心理検査を多く体験することができ、勉強になりました。	特にありません。	映像を見る際に教室のスクリーンやプロジェクターを使用するにあたって機材の不調が多かったように感じました。	臨床心理学領域

専攻別回収率（回収数／依頼数）

人間生活科学専攻 統合生活科学領域 （1 / 1 100.0%）
食品栄養科学専攻 （4 / 5 80.0%）
生活環境学専攻 （0 / 5 0%）
人間関係学専攻 臨床心理学領域 （8 / 24 33.3%）
人間関係学専攻 社会学領域 （1 / 1 100.0%）
人間関係学専攻 教育学領域 （1 / 1 100.0%）
現代マネジメント専攻 （1 / 2 50.0%）
教育学専攻 （1 / 1 100.0%）
合計 17/40 42.5%

⑤大学院授業アンケート検証

平成29年度前期授業科目 大学院授業アンケート結果について (生活科学研究科)

概要：

本年度も、生活科学研究科に在籍する大学院生（11名）を対象に、授業アンケートを実施した。方法は、アンケート用紙の郵送による記述回答方式（提出は教務課窓口）により行った。アンケート回収率は、人間生活科学専攻（博士後期課程）が100%、食品栄養科学専攻（修士課程）が80%、生活環境学専攻（修士課程）が0%であった。

アンケートの設問内容は、以下の3項目である。

設問1）大学院の授業科目及び研究指導科目で興味深かった点、有益であった点など

設問2）大学院の授業科目及び研究指導科目で改善すべき点

設問3）教室設備、研究設備、授業環境などについてのお気づきの点

アンケート結果の確認と検証：

研究科長、専攻世話人および大学院FD委員でアンケートの結果を確認した。大学院の授業科目に関わる設問項目については、全員から良好な回答を得た。一方、設備・環境面については、TA（ティーチング アシスタント）に関する要望があった。今後、大学院生の学習や研究が円滑に遂行できるよう、以下のとおり改善策を検討した。

1）TAと学業・研究の両立について（食品栄養科学専攻）

TA活動は、大学院生にとって将来的に教員や研究者になるための良いトレーニングの機会と考えており、食品栄養科学専攻の大学院生には管理栄養学科の情報系演習授業のTAとして積極的に関わってもらっている。近年、本研究科における大学院生が少数であるため、ほぼ全員の大学院生に複数の授業を担当してもらっているのが現状である。

今回のアンケート結果から、TA活動を負担に感じている大学院生がいることが分かった。今後は、時間割を作成する段階から大学院の授業を履修する時間帯とTAとして従事する時間帯を調整し、大学院の学業や研究の支障とならない範囲内でTA活動に従事できるよう考慮していく。

2）その他

今回のアンケートでは、生活環境学専攻の学生からの回収率が極端に低かった（0%）。回答率を向上させるため、周知の徹底を図る必要がある。

人間関係学研究科 平成29年度前期授業アンケートの結果

今回のアンケート調査は、回答数が10（在籍者26名）と少ないので研究科に在籍する院生全体の傾向が正確に反映されている訳ではない。また質問が「授業で印象に残った点」を尋ねているので、研究科の授業全体に関する情報を得るには不十分なデータである。それらの点に配慮したうえで、回答を見る限りでは、講義科目、演習実習科目、いずれも、学生に対して有益な学びの経験を提供していると判断できる。例えば次のような回答があった。

「研究内容に関してはもちろん、研究への姿勢、課題との向き合い方など、自分自身についても指導教員からご指導いただき、考えることが多かったです。」

「どの授業も新たな発見、気づき、学びがありました。」

授業の内容・方法に関しては特に不満と言えるような回答はなかった。ただ、修士論文指導の頻度に教員間の差があるのももう少しそろえた方がいいのではないかと指摘があった。教員間の指導方法の差異を完全になくすことはできないが、学生が疑問を感じるほどの差異があることは望ましくないだろう。今後の検討課題の一つになる。

平成29年度大学院前期授業アンケート 検証結果

現代マネジメント研究科

FD委員 石井圭介

設問 1 について

研究分野に関連した授業、および社会人院生にとって業務に関連した科目が有益であることが示された。

設問 2 について

授業内容や研究指導が概ね適切であることが示されている。また、研究発表の機会の増加を望んでいる。

設問 3 について

コピー機が1階にしか設置されていないことから、5階（院生室）にも必要だとする意見があった。

総 評

今回の授業アンケートの他、日常のコミュニケーションから、全体として専門性を活かした授業が行われており、特に社会人院生にとって、当研究科の講義内容は実用性が高く、概ね満足しているようである。

以 上

平成29年度前期授業科目 大学院授業アンケート実施についての確認・検証報告（教育学研究科）

教育学研究科においては1名の大学院生から授業アンケートの回答があり、教務課によってその結果がまとめられた。この結果に基づき、本研究科においては、下記のように座談会形式の確認、検証、意見交換を行った。

記

日 時：9月19日（火）10:00-10:55

出席者：大学院担当教員6名、大学院生1名

場 所：教育学部棟学部長室

話し合いの内容は以下のとおりである。

1. 大学院の授業について

大学院在籍者が1名ということもあり、良い面と良くない面があった。良い面としては、大学院生の興味関心に合わせて、各授業の構成を考えてもらえた点。例えば、教育心理学特論（宮川教授）の授業において、教育心理学の一般的な内容とともに、異文化理解や新学習指導要領の改訂という関心のあるテーマからの切り口で教育心理学を学べたことは有意義であった。

一方で、受講生が1名しかいないということで、議論して自分の考えを広げたり、他の院生から刺激を得たりする機会が乏しいのが難点である。そこで、指導教員の配慮により、名古屋市立大学の大学院の授業を聴講させてもらったり、関心のあるIB（インターナショナル・バカロレア）の専門家が名古屋に来た際に集中講義をしてもらったりと、知的な刺激を受けられる環境を意図的に持つようにしている。これにより、大学院生は満足な学習環境に置かれていたと感じているようだ。これらの交流は現在のところ、インフォーマルなものだが、将来的には他大学の大学院と授業を共催したり、ネットワークを作ったりすることが有益だとする意見もあった。

2. 「教職インターンシップI a」について

「教職インターンシップI a」について、最初はその目的がイメージと異なり、とまどいを感じたという。小学校とのパイプ役の客員教授、科目担当者、指導教員との関連性が大学院生にも分かりにくく、受け入れ先にもとまどいを生じさせていた可能性があるようだ。そこで、科目担当者から「この授業の目的はふたつあり、ひとつは初任者研修のような位置づけで、自分の授業力を高めていくもの。もうひとつは、研究者として授業や教師の仕事を研究的視点から分析していくこと。前者については、前期には1つの研究授業を行った。後者については、前期は焦点を定めない網羅的な参与観察をできたはずなので、これからはそこで拾い出してきた疑問点を『研究の問い』に育てていけばよい」と解説していただいた。パイプ役の客員教授の役割については、前期に7回の訪問をしていただいたが、大学院生とは2回しか顔を合わせる機会がなく、どのような役割・指導をお願いすべきかについては今後検討することになった。

3. 教室設備、研究機器、授業環境について

施設面においては、特に不便を感じていることはない。

4. その他

指導教員より、大学院生を学会に参加させたいが、現在の活性化予算の規定では「学会発表をするときのみ交通費支給が認められる」となっているので、困っている。大学院1年生はまだ学会発表をするレベル

には達していないが、学会発表をたくさん聞くことで、研究の問いや方法について学ぶことが多い。「年に1回のみ」などの制約条件があってもいいので、ぜひ学会参加のための交通費補助も可能になるようにしてほしいという要望が出された。

今後の対応について

今回の座談会では、今後時間をかけて検討していくべき課題とともに、早急に対応しなければならない課題も指摘されたので、研究科委員会で報告し、今後の対応策について検討していきたい。

また、これまでは、座談会の参加者を「研究科長と指導教員と大学院生」としていたものを、今回から「研究科長と指導教員と大学院で授業を担当した（する）教員と大学院生」と幅を広げた。それにより、授業担当者相互の意思疎通を図ることができ、大学院生をよりきめ細やかに指導していく体制を整えることが可能になったと実感しているので、今後もこのような形で座談会を実施していきたい。

以上

⑥平成29年度後期大学院授業アンケート実施状況

平成29年11月15日
大学院FD委員会

平成29年度後期授業科目 大学院授業アンケートの実施について

1. スケジュール

日時	会議等	内容
11/15 (水)	大学院FD委員会	後期大学院授業アンケート実施について報告・確認
1/15 (月)～2/2 (金)	—	大学院授業アンケートの実施 (郵送)
2/28 (水)	各研究科	大学院授業アンケート結果の確認・検証

2. 大学院授業アンケートの実施について

学部では、従来から全学FD委員会を中心として授業アンケートを実施していたが、平成28年度より、大学院の授業についても実施した。平成29年度も平成28年度と同様の方法にて実施する。

3. 大学院授業アンケート内容について

学部でのアンケートは、授業科目ごとに回答者の匿名性を守るため、原則10名以上の科目を対象として実施している。しかし、大学院においては10名以上の科目は一部の専攻にしかなく、同様の方法では匿名性が確保できない。

そのため、大学院での授業アンケートは科目ごとではなく、大学院生ごとに有益であった科目等を記入してもらう様式をもって実施する。

4. 授業アンケート項目及び実施方法について

アンケート項目は、平成28年度と同様のものとする。

実施方法は大学院生全員に郵送により配布し、回収は返信用封筒による返送または教務課・日進キャンパス事務課窓口への提出とする。

平成30年1月15日

椋山女学園大学大学院

院 生 各 位

椋山女学園大学大学院FD委員会

委員長 後 藤 宗 理

平成29年度後期 椋山女学園大学大学院 授業評価アンケートについて

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

椋山女学園大学大学院FD委員会では、大学院各研究科の授業内容の質的向上を図るため、別紙のとおりアンケートを実施させていただきます。

このアンケートは、各研究科の授業内容や方法の充実を図る上での参考資料とするために実施するものです。目的以外に使用されることはなく、不利益を被ることは一切ありませんので、院生のみなさまの率直なご意見をご記入ください。

ご記入後は、平成30年2月2日（金）までに、同封の返信用封筒でご返送いただくか、同封筒に封入し教務課または日進キャンパス事務課窓口にご提出をお願いいたします。ワープロ等で質問項目についてご記入いただき、別紙として同封いただいても結構です。

なお、このアンケートは科目ごとではなく、大学院生1名につき1回のみ回答するものとなります。

後期末の試験準備等ご多忙な時期かと思いますが、何とぞご協力をお願いいたします。

敬具

(本件お問い合わせ先)

椋山女学園大学 学務部教務課 FD担当

TEL 052-781-6466

Email kyoumu@ml.sugiyama-u.ac.jp

平成29年度後期 大学院授業評価アンケート

このアンケートは、各研究科の授業内容や方法の充実を図る上での参考資料とするために実施するものです。目的以外に使用されることはなく、あなたが不利益を被ることは一切ありませんので、素直な気持ちでお答えください。

ご提出締切日 平成30年2月2日（金）

以下の質問に対して自由に書いて下さい。

1. 大学院の授業科目及び研究指導科目で興味深かった点、有益であった点などを科目名と共に書いてください。

2. 大学院の授業科目及び研究指導科目の改善すべき点について科目名と共に建設的な意見を書いてください。

裏面に続く

3. 教室設備、研究機器、授業環境などについて、お気づきの点があれば具体的（棟、教室、等）に書いてください。

領域名

ご協力ありがとうございました。

回答いただいたご意見を基に、今後の研究科の授業内容の向上に活用していきます。

※記入済みアンケート用紙は、返信用封筒に封入し返送いただくか、同封筒に封入し、
教務課または日進キャンパス事務課窓口までご提出ください。

平成29年度後期大学院授業アンケート実施状況

1. 実施概要

- ・実施期間：平成30年 1 月15日（月）～2 月 2 日（金）
- ・実施対象科目：大学院での受講科目すべてを対象として記述式で回答
- ・実施方法：1 月15日（月）4 研究科に在学している受験生全員に郵送もしくは手渡しでアンケート配布（返信用封筒同封）

2. 回答数

研 究 科	後期在学数	回答数	回答率
生 活 科 学 研 究 科	9	5	55.6%
人 間 関 係 学 研 究 科	24	6	25.0%
現代マネジメント研究科	2	2	100.0%
教 育 学 研 究 科	1	1	100.0%
計	36	15	41.7%

※回答数計15名のうち 1 名は研究科不明

※参考（平成28年度）

研 究 科	後期在学数	回答数	回答率
生 活 科 学 研 究 科	8	3	37.5 %
人 間 関 係 学 研 究 科	24	7	29.2 %
現代マネジメント研究科	3	2	66.7 %
教 育 学 研 究 科	2	1	50.0 %
計	37	13	35.1 %

⑦H29大学院後期授業アンケート回答集計

平成29年度後期大学院授業アンケート回答

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
1	「栄養化学」…自分の肌の色や弾力性などを測定することができ、肌についてとても興味が持てた。配付されるプリントが図など絵が多くてわかりやすかった。	なし	・ 院生室が寒い、電気ストーブみたいなものがあるといい。 ・ 院生室が乾燥しているため、加湿器があるといい。 ・ 後期のパソコンのTAは一人がいいと思う。	食品栄養科学専攻
2	「栄養科学特論」…女性なら多くの方が興味を持つ肌に焦点を当て、日頃のちょっとした疑問について専門的にどう理解すれば良いか、今後管理栄養士として働く私たちがどのように伝えていけばよいのかを学ぶことができました。とても分かりやすく、実際に自分の肌診断もすることができて楽しみながら学べました。 「栄養教育学特論」…大学2～3年生に学んだPRECEDE-PROCEED modelについての英文を読むことで、原典に基づき、栄養教育の基礎を学ぶことができました。専門的な英単語も多く、理解が難しい時は三田先生の分かりやすい説明があり、理解を深めることができました。	特にありません。	216教室が寒すぎるということが何回もありました。	食品栄養科学専攻
3	「栄養化学特論」…皮膚について、写真やイラストなどを使用したわかりやすい解説と、実際に自分を測定してもらったことによって、研究結果などを見るというだけではないので身近に感じ、興味を持ちやすかったです。コラーゲンを食べるとどうなるか？などの話は栄養士になった時に実際質問されやすい項目だなと思い、とても勉強になりました。 「栄養教育学特論」…学部生の時に深くは勉強してこなかった健康教育の歴史・背景を知ることができたこと、また英文で読むことで日本語だとさっぱりと読むところをしっかりと読んで読むことができたことなどがとても勉強になりました。臨床栄養学系の授業では、英文を読み、自分の研究に必要なことを探すことができました。	特にないです。	後期は授業の教室が寒いと思いました。	食品栄養科学専攻
4	「アパレルデザイン特論」…興味のある論文を用意し、それについて特論することで、より深く、論文を読み取る力や論文の構成を学ぶことができた。	特にないです。	特になし	生活環境学専攻

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
5	「インテリアデザイン実習」…PPを用いた製作物の作成は週一の楽しみでした。今回はフラミングを作りましたが、パーツや色の組み合わせによって様々な動物ができると思いました。自分の想像どおりの形に近づけるのはなかなか難しかったですが、試行錯誤しながら作業をするのが非常に良い刺激になったと思います。	特にありません。	特にありません。	生活環境学専攻
6	ケースのSVを丁寧にしてください勉強になりました。	ケースの紀要を提出する際に、5枚という規定があるにもかかわらず、6枚書いている人がいたので、きちんと決めてほしいと思いました。	院生室、プレイルーム等、エアコンがすぐに切れるところがあるのが気になりました。	人間関係学専攻 臨床心理学領域
7	「臨床心理学基礎実習Ⅱ」…様々な事例報告を聞いて、心理面接の知識を身につけることができた。	なし	・長期休業期間中もスクールバスの運行を増やしてほしい。 ・図書館の本が分類番号どおりに書架に並んでおらず、困ることがある。館内で利用した本は、利用者が戻すのではなく、スタッフが戻せるようにしてほしい(利用した本を置く棚を設置するなど)。	人間関係学専攻 臨床心理学領域
8	後期受講した科目は全て自分にとって学び、考えることの機会となりました。特にこれという差はありません。講義の中で常に実務上や現状に置き換えて考えることのできた内容ばかりで全て興味深く受講できたと思います。	特にありません。全ての先生が研究に関して心配、配慮していただきました。先生とたくさんのかかわる機会もあり、大変有意義な時間でした。先生方に感謝しています。	後期は秋～冬に受講するため、暖房に関していえば、教室を使用する時間は利用できるようにしていただけると助かります。暑いのは我慢できますが、寒いのは辛いです。	人間関係学専攻 社会学領域
9	「発達障害学特論」…学部時代には学べなかったが、学校現場に出るにあたり、必ず知っておかなければいけない知識や対応力がついた。看護学部や保育初等教育専修では必須とされているが、小学校教員になる上で大切とするものが身につくので、初等中等教育専修にも入れるべき。	「臨床発達心理学特論」…学校現場で役立ちそうな具体的な理論や実践があると興味深いと思う。	特になし	教育学専攻
10	「修論指導」…とても丁寧に細やかに指導いただきました。	特にありません。	院生室を心理学領域と可能ならば分けてほしいです。	人間関係学専攻 教育学領域
11	「公共政策」…税法などとの関わりが多かった。学会を見学させて頂けたことは有益でした。	特になし。	コピー機は5階にあった方が使いやすかった。	現代マネジメント専攻
12	「会系学特論Ⅱ」「イノベーションマネジメント特論(経済)」少人数性であるため、生徒の修士論文の状況や都合に応じて対応してくれたため、有難かったです。	なし	なし	現代マネジメント専攻

	設問 1	設問 2	設問 3	回答者所属
13	M2の後期では授業をとっていません。修士論文では、ゼミにて分析結果の発表を12月に行った点は非常に有益でした。その後、分析の修正、考察をスムーズに進めることができました。	修士論文の分析に必要なAmosソフトが1台分しかなかった点が少し困りました。早めにAmosが必要な人のPCにソフトを入れていただけると大変助かります。	特になし	人間関係学専攻 臨床心理学領域
14	臨床心理領域の授業科目は、いずれも興味深く有益であったと思います。教育学領域の必修科目の教育学特講は、様々な教育学の先生方の知見を学ぶことができたため、臨床心理領域も必須にしました。	左記のとおり。	長期休暇期間のバスを可能なら最終便も一社まで行けるようにしていただきたいです。授業やケースなどでどうしても17時すぎにしか乗れないことも多く、少し不便をしております。無理でしたら寮生徒にバイクの許可をいただきたいです。	人間関係学専攻 臨床心理学領域
15		<修士論文の指導と評価の公平性に関して> ・指導教員によって指導が過剰・不足の差が大きすぎ、公平性が保たれていない。→一定の基準を設けるべき（指導の度合い、添削の頻度etc） ・修論に関する注意事項などのマニュアルを作成し、指導教員とゼミ生ともに共通認識が必要である。→論文提出後、口頭試問の練習を指導教員を交えて行うゼミがあった。しかし、これは規則違反であるとのことであったが、その規則に関しても事前に明示されていなかった。 ・細かいことまで言えば、修論評価は論文+口述の合計で決まることも認識しておらず、終了後に知った。そのことから、一部のゼミが口述の練習を指導教員を交えて行ったことに関しては非常に遺憾である。また、口述の副査がまだ発表されていないタイミングで、一部のゼミでは指導教員が事前にゼミ生に伝えていたという事実もあった。 ・院の2年間を通して、基準の曖昧さを感じ、それが院生内での不信感につながり、不公平感が院生間の関係性の悪さにもつながったと感じている。眉山を望んで入学してきた院生に対して、規則・基準の不明確さで学業以外での苦悩が多く、眉山に対しての評価が低くなってしまったのは残念である。		不明

専攻別回収率（回収数／依頼数）

食品栄養科学専攻	（ 3 / 4	75.0 %）
生活環境学専攻	（ 2 / 5	40.0 %）
人間関係学専攻 臨床心理学領域	（ 4 / 22	18.2 %）
人間関係学専攻 社会学領域	（ 1 / 1	100 %）
人間関係学専攻 教育学領域	（ 1 / 1	100 %）
現代マネジメント専攻	（ 2 / 2	100 %）
教育学専攻	（ 1 / 1	100 %）
不明	1	
合計	15 / 36	41.7 %

⑧ H29 後期大学院授業アンケート検証

平成29年度後期授業科目 大学院授業アンケート結果について (生活科学研究科)

概要：

生活科学研究科に在籍する大学院生（9名）を対象に、授業アンケートを実施した。アンケートの設問内容は、これまでと同様の以下3項目である。

設問1）大学院の授業科目及び研究指導科目で興味深かった点、有益であった点など

設問2）大学院の授業科目及び研究指導科目で改善すべき点

設問3）教室設備、研究設備、授業環境などについてのお気づきの点

アンケートの回収率：

これまでの授業アンケートは、アンケート用紙の郵送による記述回答方式（提出は教務課窓口）により行っていた。しかし、本年度前期の実施分において回収率が低かったことから、今回はアンケート用紙をそれぞれの担当教員から大学院生に直接手渡ししてもらった。その結果、アンケート回収率は、食品栄養科学専攻修士課程が80%（前期も80%）、生活環境学専攻修士課程が40%（前期は0%）となり、特に前回アンケートにおいて回収率が低かった生活環境学専攻において改善がみられた。しかしながら、まだ回答率が高いとは言い難く、周知の徹底を図る必要があると思われる。

アンケート結果の確認：

研究科長、専攻世話人および大学院FD委員でアンケートの結果を確認した。大学院の授業科目に関わる設問項目については、全員から良好な回答を得た。一方、設備・環境面については、食品栄養科学専攻の大学院生から「授業に使用する教室が寒い」との意見があった。大学院の授業以外では使用しない教室であることから、授業がはじまる前に暖房を入れるなどの改善策を考えた。

人間関係学研究科平成29年度後期授業アンケートの結果

研究科在籍者24名（臨床心理学領域22、社会学領域1、教育学領域1）のうち回答者は6名であった。前期と同内容のアンケートであったため回収率が下がったと思われる。

「有益であったこと」として以下のような記述があった。「後期受講した科目は全て自分にとって学び、考えることの機会となりました」「修士論文指導はとても丁寧で細やかにしていただいた」。

「改善すべき点」については「特にありません」「すべての先生が研究について配慮してくださり、感謝しています」などの記述があり、特段の改善点は検出されなかった。

統計的に厳密な分析・検証はできていないが、今回のアンケート結果を見る限りでは、平成29年度の授業あるいは研究指導に関して、本研究科は学生に満足をもって受け止められていて、特に改善が必要な問題点は見いだせなかった。今後もこの状況を継続させていきたいと考えている。

平成29年度後期授業科目 大学院授業アンケート実施についての確認・検証報告（教育学研究科）

教育学研究科においては1名の大学院生から授業アンケートの回答があり、教務課によってその結果がまとめられた。この結果に基づき、本研究科においては、下記のように、大学院生本人から聞き取りを行うとともに、結果の検証を行った。

記

1. 大学院の学修プログラムについて

大学院生の意見（聞き取りによる）：

大学院生は、1年次に受験した名古屋市の教員採用試験に合格し、さらに、大学院での1年間の学修を通して、「教育現場で実践を積み重ねることにより問題意識を深め、また、授業実践で得られた経験を修士論文のデータとして扱いたい」という希望が強まったことから、1年次を終えた後、大学院を休学して、名古屋市立小学校の教員になることに決めた。研究科長と指導教員の特別な配慮により、1年次で基礎的な授業の履修が完了するように工夫していただいたことに感謝している。

検証結果：

教育学研究科の性質上、今後も大学院在学中に教員採用試験に合格する学生が出てくるであろう。教育学研究において、教育現場での経験は、貴重な研究の土台となることから、学生のライフスタイルにも配慮しつつ、教職と大学院での学修が両立可能であるように、またさらに両者がお互いに高め合うような効果を生むように、学生ひとりひとりに応じたオーダーメイドの学修プログラムを構築することが求められる。

2. 大学院の授業について

大学院生の意見（授業アンケートによる）

「発達障害学特論」は小学校で教職に就くうえで必ず知っておかなければならない知識や対応力を身に付けることができた。初等中等教育専修の学部生も同内容の授業が受けられるようにするべきだと思う。一方、「臨床発達心理学特論」は学校現場で役立ちそうな具体的な理論や実践があると興味深いと思う。

検証結果：

大学院の授業は、学部の授業の発展的内容で、大学院生の知的好奇心に十分に応えられるだけの質を保つ必要があり、かつ将来教職につく予定の学生に対しては、実践力や対応力の土台となる知識・技術を与えることも考慮しなければならない。大学院生の人数が少ないことから、学生のニーズにあわせた授業構成をしつつ、知定期好奇心と実践的要求に応える授業づくりをしていく必要がある。

3. 「教職インターンシップⅠa」について

大学院生の意見（聞き取りによる）：

「教職インターンシップⅠa」では、学部時代に交換留学生としてオーストラリアに留学し、英語が堪能である学生の特性を生かし、配属小学校において3・4年生の「外国語活動」の授業を担当させてもらった。授業をすべて立案し、教材を準備し、授業実践できたのは、とてもよい経験となった。しかしながら、小学校側（クラス担任）の希望・科目担当者の考え・大学院生自身の思いのすり合わせが難しいときがあり、大学院生として3者をどのように調整すべきか悩んだことも多かった。

検証結果：

教育や授業に対しては、さまざまな立場や意見があり、それらに触れられたのはよい経験であった。（これらは今後、学校で仕事をするうえで避けて通れない課題である。）ただし、大学院生という立場上、小学校と大学との板挟みになり、苦しむようなことは望ましいことではない。大学側としては、受け入れ側の小学校の希望を尊重しつつ、(また大学院生の思いも理解しつつ)指導していくことが大切である。

4. 教室設備、研究機器、授業環境について

施設面においては、特に不便を感じていることはない。

(補足)

前期の検証は、大学院生と指導に携わった全教員を集めての座談会方式で行った。しかし、後期は2月から(正式には3月から)、大学院生が相山女学園大学附属小学校で産休代用教員として勤務をはじめたため、座談会を設けることができなかった。そのため、FD委員が大学院生に聞き取り調査をする形で進めた。

以上

IV 学部FD活動報告

1. 生活科学部
2. 国際コミュニケーション学部
3. 人間関係学部
4. 文化情報学部
5. 現代マネジメント学部
6. 教育学部
7. 看護学部

生活科学部FD委員会委員

(生活環境デザイン学科) 清水秀丸、滝澤愛

(管理栄養学科) 河合潤子、小多沙知

(学部長・オブザーバー) 雨宮勇

【1】活動計画（目標）

- ①全学で実施される授業アンケートの参加率を高めるように努力すること。
- ②学部のFD活動を推進するために、学部教職員からの提案を積極的に募ること。
- ③予定されている学科行事をつつがなく達成すること。

【2】実施報告**①委員会の開催**

平成29年4月～平成30年3月の期間中、委員会はメール会議によりタイムリーに実施した。協議事項については、FD委員会或いは各学科会議・教授会にてそれぞれ臨機応変な手段で協議・決定した。

<協議事項>

- ・授業アンケートの実施は例年通り実施することを確認。
- ・昨年度と同様に、卒業時アンケートを実施することを確認。
- ・学部FD委員会のウェブサイトの運営について、来年度も継続するかについて意見交換。

②学部FD委員会ウェブサイト

学部FD委員会ウェブサイトの更新について議論し、今年度は現状のままとした。

③購入した書籍

FD活動に予算が割り当てられなかったために該当する執行はなし。

④平成29年度に企画・実施されたFD活動

平成29年7月 授業アンケート実施（全学）

平成29年9月 科研費取得のための研修会（全学）、FD研修会（全学）、Sprit（大学会館3階大講義室）
活用に向けての講習会（全学）

平成29年 後期授業における学生FDスタッフの活用（2件）

平成29年12月 授業アンケート実施（全学）

平成30年2-3月「今年度の振り返り」と「来年度の目標」のアンケートの実施（全学）

平成30年3月 卒業時アンケートの実施（生活科学部）

【3】課題点

- ・目標①については、本学部は後期の授業アンケートでは、実施率97.9%（全学93.8%）、アンケート設問「総合的にみて、この授業は充実していた。」の肯定的な回答（その通りである、どちらかといえばその通りである）が92.2%となり、全学的にみて高かった。平成30年度もさらにFD活動の意義をより丁寧に説明したうえでアナウンスを増やし、また、非回答者・非参加者を把握して個別に依頼するなど、前年度より参加率が上がるよう努めたい。
- ・目標②については学外におけるFD研修などへの参加の呼びかけをおこない、本学部より学外FD研修への参加者が1名いたが、今後も参加を呼びかける必要がある。学内のFD活動が増えたことと、昨年度に引き続き学部自動的にFD活動のための予算がつかず、活動のしやすさが得られていないが、今

後も検討を重ね、充実するように努める。

- 目標③については、予定通り実施することができた。昨年度より実施している卒業時アンケートにおいて、学生の4年間の学びに対する感想・意見を把握できたことは、教員にとって今後の教育の指針を確かめるために大変有益であった。また、本年度は授業における学生FDスタッフの活用の呼びかけ、2名の教員から応募があり、授業の教授方法の質の向上につなげることができ有益であった。

【4】次年度へ向けた計画

平成29年度に掲げた目標①②③の達成度をみると、FD活動を推進する積極的な力がまだまだ弱いことがわかる。FD活動の意義と重要性をFD委員がまず理解し、他の教職員の理解を助け、積極的な提案や活動が生まれるように、アナウンスの仕方を工夫する。また、FD委員自らも積極的に提案を考え、実施報告の内容が増えるように、学部の協力のもと様々な活動を実現していきたい。そのためには、既存の学部FD活動の現状をより詳細に把握していく必要もあるかもしれない。

「授業アンケート」の回答によると、両学科の学生とも総合的充実度は高いという結果であるが、教員が個人レベルで更なる改良を試みる必要がある。そのため、このアンケートの回答を有効に利用し、教員個々の努力を促すと同時に成果をどのように授業に反映させるかは次年度検討していきたい項目のひとつである。

卒業時アンケートは昨年度に引き続いての実施となり、得られた結果をふまえ、さらなる授業改善の材料としていくこと、ならびに卒業時アンケートの実施内容についても引き続き検討することが必要だと考えられた。

平成29年度 管理栄養学科 卒業時アンケート

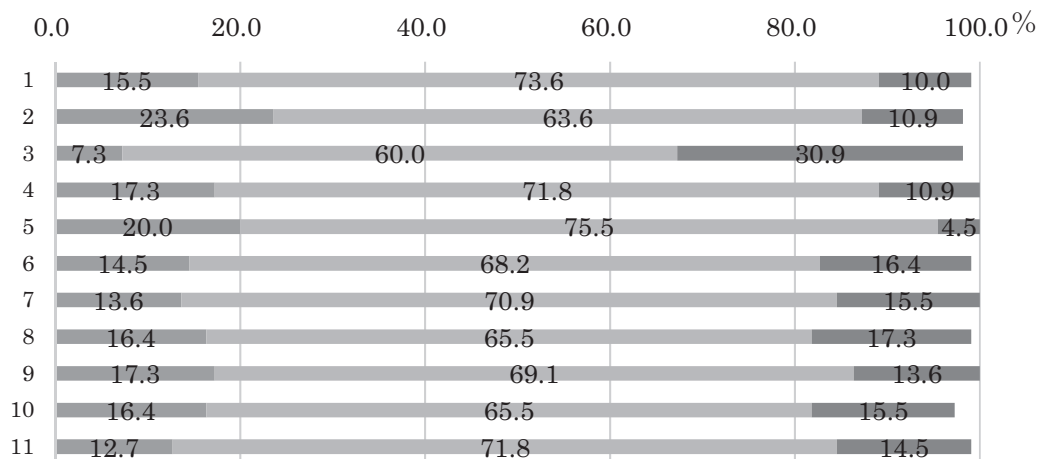
【概要】

管理栄養学科 4 年生110名（欠席者13名）を対象として、2018年 2 月 7 日（水）に実施した。

【設問】

1. 「講義」、「実習・実験」、「臨地実習」を組み合わせたカリキュラムによって、知識と技術の修得とともに、情報の収集とまとめ方、プレゼンテーション力及びコミュニケーション力、管理栄養士としての実践力を養うことができましたか？
2. 3 年次の「専門演習」と 4 年次の「卒業研究」を通じて、研究テーマに関わる情報収集と知識の修得、研究手法と科学的考察を通じ、論文作成力などを養うことができましたか？
3. 4 年次の「栄養総合演習」を通じて、管理栄養士に必要な知識と技術の総復習と横断的な知識及び応用力を強化することができましたか？
4. (知識・理解) 4 年間の学びを通じて、食と健康に関連する幅広い知識・技能を身につけ、それらの知識・技能を社会貢献のために発揮するための基盤を築くことができましたか？
5. 4 の目的に、本学科の教育はどのくらい役に立ちましたか？
6. (思考・判断) 4 年間の学びを通じて、健康で快適な暮らしを提案するために、食と健康に関連するさまざまな課題を的確に分析し、実践的かつ創造的に自らの見解を形成するための基盤を築くことができましたか？
7. 6 の目的に、本学科の教育はどのくらい役に立ちましたか？
8. (態度・志向性) 4 年間の学びを通じて、地域やコミュニティ、食品産業や医療・福祉現場などで、食と健康に関連するさまざまな問題に責任感を持って対処するための基盤を築くことができましたか？
9. 8 の目的に、本学科の教育はどのくらい役に立ちましたか？
10. (技能・表現) 4 年間の学びを通じて、さまざまなライフステージの人とのコミュニケーションを図ることができ、食と健康に関連した分野で高い専門性を発揮するための基盤を築くことができましたか？
11. 10 の目的に、本学科の教育はどのくらい役に立ちましたか？

【結果】



- 非常に当てはまる(非常に役に立った)
- やや当てはまる (やや役に立った)
- あまり当てはまらない (あまり役に立たなかった)
- 全く当てはまらない (全く役に立たなかった)

【まとめ】

「講義」、「実習・実験」「臨地実習」を組み合わせたカリキュラムでは、約 9 割弱が知識や技術をはじめ管理栄養士としての実践力を養うことができたと回答している。また、3 年次の「専門演習」と 4 年次の「卒業研究」を通じて、9 割弱が情報収集や研究手法を通じ、論文作成能力を養ったと答えている。9 割の学生が本学科の教育で 4 年間の学びを通じて、食と健康に関する知識を社会に貢献できる基盤を築けたと答え、さらに 9 割強の学生が本学科の教育が役に立ったと答えている。8 割強の学生がここで得た知識や技術の専門性を色々な場で発揮する、また様々な問題に責任感を持って対処する基盤を築けたと答えている。しかし、一方では 3 割の学生が、「栄養総合演習」を通じて、管理栄養士に必要な知識と技術の総復習や横断的な知識及び応用力を強化することができなかったと回答している。これは「栄養総合演習」の時間や曜日など課題があると考えられる。

今後は、「栄養総合演習」の見直しや、卒業後の活動を視野に入れた幅広い取り組みが必要と考えられる。そのためにも、学内に留まらず、学外の方を対象とした活動を通し、専門性を発揮する機会が必要となる。

平成29年度 生活環境デザイン学科 卒業時アンケート【%】

1. 専攻した分野のものづくりの実践を通して、快適な生活環境を創造することができる人材に、あなたはなれそうだと思いますか？

①なれそう	26.1	②ややなれそう	69.0
③あまりなれそうにない	4.2	④全くなれそうにない	0.7
2. 生活環境について、生活者・消費者の視点をもとに、それを具体的なデザインとして提案・実践するための基本知識と技術を、身につけることができたと思いますか？

①できた	25.4	②ややできた	66.2
③あまりできなかった	8.5	④全くできなかった	0.0
3. 今後、豊かな教養と人間性を培いながら、生活環境の向上に貢献できそうですか？

①できそう	29.6	②ややできそう	65.5
③あまりできそうにない	4.9	④全くできそうにない	0.0
4. 生活環境を、生活者・消費者の視点から、科学的に探求することができるようになったと思いますか？

①なった	16.9	②ややなった	57.7
③あまりなっていない	24.6	④全くなっていない	0.7
5. 専攻分野について、その知識と技術を身につけ、具体的なデザインとして提案・実践することができるようになったと思いますか？

①なった	21.1	②ややなった	66.9
③あまりなっていない	12.0	④全くなっていない	0.0
6. 生活環境全般への幅広い視点を得たうえで、選択した分野において高度な専門知識を修得したと思いますか？

①修得した	26.8	②やや修得した	62.0
③あまり修得しなかった	11.3	④全く修得しなかった	0.0
7. 生活環境に関わる諸問題に、修得した専門性を活かして創造的に取り組むことができると思いますか？

①できと思う	24.8	②ややできと思う	62.4
③あまりできない	12.8	④全くできない	0.0
8. ものづくりの喜びを感じながら、心地よい暮らしのデザインを、試行錯誤を重ねて提案できますか？

①できる	28.2	②ややできる	64.1
③あまりできない	7.7	④全くできない	0.0
9. 職業人として必要な、生活環境に関する資格取得を可能にするような専門的技能を獲得し、豊かな表現力・企画力を身につけたと思いますか？

①身につけた	24.1	②やや身につけた	61.0
③あまり身につけなかった	14.9	④全く身につけなかった	0.0
10. 入学時に目指した資格や免許に必要な科目を、履修することができましたか？

①できた	55.6	②ややできた	35.9
③あまりできなかった	7.0	④全くできなかった	1.4
11. 本学科での4年間の学びは、あなたにとって充実したものでしたか？

①充実していた	58.5	②やや充実していた	34.5
③あまり充実していなかった	5.6	④全く充実していなかった	1.4
12. 本学科の4年間の学びに、あなたは満足していますか？

①満足している	48.6	②やや満足している	42.3
③あまり満足していない	7.0	④全く満足していない	2.1

13. 本学科の 4 年間の学びは、あなたの将来に役立ちそうですか？
- | | | | |
|------------|------|-----------|------|
| ①役に立つ | 50.7 | ②やや役に立つ | 41.5 |
| ③あまり役に立たない | 6.3 | ④全く役に立たない | 1.4 |
14. 大学生活全体は、楽しかったですか？
- | | | | |
|-------------|------|------------|------|
| ①非常に楽しかった | 57.7 | ②やや楽しかった | 37.3 |
| ③あまり楽しくなかった | 4.2 | ④全く楽しくなかった | 0.7 |
15. 本学科に愛着を感じますか？
- | | | | |
|----------|------|---------|------|
| ①非常に感じる | 31.7 | ②やや感じる | 52.8 |
| ③あまり感じない | 12.0 | ④全く感じない | 3.5 |
16. あなたは本学科で 4 年間、がんばって学んだと思いますか？
- | | | | |
|--------------|------|-------------|------|
| ①とてもがんばった | 43.0 | ②まあまあがんばった | 49.3 |
| ③あまりがんばらなかった | 7.0 | ④全くがんばらなかった | 0.7 |
17. 本学での学びは、あなたに自信をつけましたか？
- | | | | |
|---------------|------|--------------|------|
| ①とても自信がついた | 26.8 | ②まあまあ自信がついた | 62.7 |
| ③あまり自信がつかなかった | 10.6 | ④全く自信がつかなかった | 0.0 |
18. 本学科の 4 年間の学びについて、ご自由にご意見・ご感想をお書き下さい
- ・ 自分なりに学べたと思う
 - ・ 保健室の先生や教授にひいきがあった
 - ・ 1、2 年生のころから、学べる部屋が欲しい
 - ・ 5 階の空調をどうにかしてほしい
 - ・ になりたい職業につけた
 - ・ 充実していた
 - ・ 卒展のオーディエンス賞は分野で分けてほしい
 - ・ 苦労も多かったが先生方の誠実な教えで頑張ることができた

はじめに

本学部では過去 4 年間にわたり、毎年卒業生を対象とした外国語科目の満足度調査をほぼ同じ質問票によって実施している。4 年前に国際コミュニケーション学部では、英語教育の更なる充実を目的とし、カリキュラムの捫入れを行った。そこでこの報告では、今年度の満足度調査の概要を分析すると共に、4 年前、2014 年度卒業生（15 年卒業）を対象に実施した調査の結果との比較をおこない、カリキュラム改正が満足度の改善につながっているかどうかを分析する。

結論を先取りすれば、カリキュラム改正によって能力の伸びの実感、満足度が上昇したという結果を願っていたが、実際の調査結果からは逆の結論が得られた。残念な数字ではあるが、この結果を謙虚に受け止め、今回得られた知見を今後の授業編成の改革に生かしていきたい。

1. 二つの学科における外国語の位置付け

国際コミュニケーション学部には二つの学科がある。国際言語コミュニケーション学科（通称:言語）と表現文化学科（通称:表現）である。両学科には共通点も多いが、外国語履修という点からすると、必修となる外国語が言語では 2 種（英語と独語、もしくは英語と仏語）、表現では 1 種（英語、独語、仏語のうちいずれか）であるところが大きな違いである。もちろん、表現の学生も 2 種類の言語を選択できる言語を希望する学生は、ほとんどが英語の学修を一番の関心事としている。一方、表現を希望する学生は興味の対象の幅が広い。入学時には、外国語の習得にそれほど熱心ではない学生も多く存在する。それらを考慮した上で、この調査は学科ごとに異なる質問項目を用いている。

2. 国際言語コミュニケーション学科のアンケート調査結果の概要

国際言語コミュニケーション学科では、学科別の卒業証書授与式に出席した 99 名に対して満足度調査をアンケート形式で実施した（無効票はなし）。設問では英語のみを調査の対象としている。

第 1 問、「大学四年間の課程を修了して、英語はどの程度まで修得できたと思いますか」を自己評価してもらう問いに対して、「英語で議論ができるレベル」と回答したのが 8 %、「日常生活を英語で送るのに支障がないレベル」と回答したのがほぼ四分の一にあたる 24.2 %、「旅行等で外国に行くには困らないレベル」は半数の 50 %、「少しはわかるレベル」が 15 %、「あまり身につかなかった」と答えたのが 3 %であった。

「英語で議論ができる」「日常生活には支障がない」を合わせてほぼ三分の一になる。この層が、英語学習に手ごたえのあった学生の割合を示すと考えられる。「少しはわかる」「あまり身につかなかった」の解答を合わせた 18 %の回答者は、この学科に在籍はしたが英語学習では成果を上げられなかったグループと解釈される。

第 2 問は、その自己評価が「入学前の期待を上回ることができたか」どうかを尋ねている。「期待を充分上回ることができた」と回答したのが 13.1 %、「期待をほぼ上回っている」が 18.2 %、「だいたい期待通り」が 51.5 %、「やや期待に届かなかった」と答えたのは 15.2 %、「期待以下」という回答が 2 %であった。設問 1 の回答とほぼ対応しており、17～18 %ほどは、本学での英語学習に不満を抱いて卒業する学生たちだと解釈せざるをえないだろう。

第 3 問では、「入学前に、伸ばしたいと期待していた能力はどれか」と尋ねたのに対して、「読む」は 14 %、「書く」は 18 %、「聞く」が 31.3 %、「話す」能力は 92.9 %が「期待していた」と回答している。このことは、「国際言語コミュニケーション学科」の名称である「コミュニケーション」が「話す」「聞く」能力にフォーカ

スして英語力を鍛えることとして理解されていることを示している。「読む」能力の向上を期待していたものは14%にとどまり、英語のリーダーを「読んで訳す」タイプの高等学校までの英語教育に対する入学者たちの否定的な見方を反映したものになっている。「書く」能力の向上に期待する者も18%にとどまり、アカデミック・ライティングの訓練を柱のひとつとする本学部・学科の英語プログラムにおいて、二次以降のドロップアウトがみられる要因の一つを説明している。

第4問目は、前の設問に対応して、「実際に伸びたと感じている能力はどれか」を質問している。「読む」では27.3%、「書く」は19.2%、「聞く」能力は62.6%、「話す」能力は55.6%が、「伸びた」と自己評価している。リーディング力については、向上を期待していた割合の二倍が「伸びた」と答えているので、大学の授業では英語を読まされる機会が多かったと理解される。ライティング力については、期待した者の割合と実際に「伸びた」と評価した者の割合がほぼ等しい。リスニング力についても、向上を期待していた割合に対して「伸びた」と答えている割合が倍になっている。

第5問では、英語能力を伸ばすうえで「役立ったと思われる科目」を尋ねている。コミュニケーション・イングリッシュをはじめとする英語プログラムを四技能のうちのひとつ以上について挙げていたのは51名で、ちょうど半数が本学部・学科の英語プログラムを「役立った」と評価したことになる。厳密に言えば「科目」ではないが、留学と答えたのが9名、「ゼミ」を挙げたのが7名、この他、TOEIC科目や英語で行われる授業などという回答も若干名いた。このアンケート調査は英語力に関連するものなので、「ゼミ」という回答は、卒業論文を英語で書かせることが「書く」「読む」能力を向上させたという手ごたえにつながったのだと考えられる。

3. 表現文化学科のアンケート調査結果の概要

表現文化学科の卒業生についても、学科別の卒業証書授与式に出席した109名に対して満足度調査をアンケート形式で実施した（無効票はなし）。

言語コミュニケーション学科と異なり、表現文化学科においては英語が必修ではない。そこで第1問目では、英語・仏語・独語に加えて、外国語A・Bの4単位で教えられるスペイン語・中国語も含めて、学修した外国語の種類を尋ねた。英語を履修したのは76名（69.7%）、ドイツ語を履修したのは25名（23%）、フランス語を履修したのは50名（45.9%）、中国語が37名（33.9%）、スペイン語は14名（12.8%）という結果であった。ドイツ語とフランス語の比率は、フランス語のクラス数の方が多いため、履修ガイダンスにおける人数調整が影響を与えている（例年、ドイツ語からフランス語に履修科目を変えるように促している）が、中国語履修者の人数の多さが目を引く。

第2問目では「主として学んだ言語」を尋ねており、またその言語がどの程度身についたか、達成度を自己評価してもらっている。

主として学んだ言語が英語である者は65名（59.6%）、ドイツ語は20名（18.3%）、フランス語は23名（21.1%）、無回答が1名であった。ドイツ語履修者では、主言語としてドイツ語を選択した者の割合が高いという傾向が顕著である。対照的にフランス語は表現文化学科にあっても英語に対する「第二言語」として履修しているものが多いのだろう。

達成度の自己評価についていえば、「研究・議論等の日常生活以上の活動ができるレベル」と回答したのは4人（3.7%）。「日常生活を送るのに支障がないレベル」と回答したのは14人（12.8%）。「旅行等で外国に行ったときに役立つレベル」と回答したのが46人（42.2%）。「少しはわかるレベル」が42人（38.5%）で、「あまり身につかなかった」と回答したのは3名（2.8%）であった。

言語別に回答の分布をみると、英語については、「研究・議論等の日常生活以上の活動ができるレベル」と回答したのは4人（6.2%）。「日常生活を送るのに支障がないレベル」と回答したのは11人（16.9%）。「旅行等で外国に行ったときに役立つレベル」と回答したのが30人（46.2%）。「少しはわかるレベル」が18人（27.7%）で、「あまり身につかなかった」と回答したのは2人（3.1%）となる。

設問文が完全に同じではないが、国際言語コミュニケーション学科と表現文化学科とで英語達成度の自

己評価にどれくらいの違いがあるかを見たところ、「英語で議論ができるレベル」は言語の 8 %に対して表現は 6.2%、「日常生活を英語で送るのに支障がないレベル」と回答したのは言語の24.2%に対して表現は 16.9%、「旅行等で外国に行くには困らないレベル」は言語の50%に対して46.2%、「少しはわかるレベル」が言語の15%に対して表現が27.7%、「あまり身につかなかった」と答えたのは両学科とも 3 %になっている。一割強の違いはあるが、両学科で決定的に数字が異なるほどではない。

ドイツ語とフランス語を主言語とする学生については、「旅行等で外国に行くには困らないレベル」と「少しはわかるレベル」に回答が集中しており、ドイツ語では20名中、それぞれ 7 名と 12 名（1 名が「日常生活を英語で送るのに支障がないレベル」と回答）、フランス語では23名中、それぞれ 9 名と 12 名となっている（1 名が「日常生活を英語で送るのに支障がないレベル」と回答、1 名が「あまり身につかなかった」と回答している。このように、「日常生活を送るのに支障がない」レベルまでドイツ語、フランス語力を高めるには、高い敷居がある。なお、調査票の欠陥により国際言語コミュニケーション学科のドイツ語、フランス語履修者に関して同様の数字がわからないのは残念なところで、改善すべき点である。

第 3 問では、「役立ったと思われる外国語の授業」を尋ねている。コミュニケーション・イングリッシュをはじめとする英語プログラムを挙げた学生が32名だった。英語が主言語の学生は65名なので、半分の学生が英語プログラムを挙げているのは国際言語コミュニケーション学科とほぼ同じ割合といえる。

第 4 問では、「学んでよかった、面白かった」と思う外国語の授業を聞いている。フランス語、ドイツ語を挙げる学生も一定程度いたが、初級クラスしかないはずの中国語を挙げる学生が10名を越えており、数ではフランス語、ドイツ語と変わりがない。中国語に対する関心の高さが感じられる。スペイン語を挙げる学生も少なくなかった。

第 5 問、「こういった外国語の授業があればいい」という項目では、韓国語を挙げる学生が多く、7、8 名に及んだ。ポルトガル語などという声もあった。

4. カリキュラム改正前後の比較

前述の通り、2017年度卒業生は、英語プログラムをカリキュラム改正した学年の第一期生である。4 年前の2014年度卒業生に対しても同じ質問票でアンケート調査を実施しているので、今回得られた結果を2014年度卒業生と比較してみたい。

まず、国際言語コミュニケーション学科についてみると、第 1 問「大学四年間の課程を修了して、英語はどの程度まで修得できたと思いますか」という問いに対しては、「英語で議論ができるレベル」と回答したのが2017年度卒業生の 8 %に対して2014年度卒業生では12.4%。「日常生活を英語で送るのに支障がないレベル」と回答したのが24.2%に対して41%、「旅行等で外国に行くには困らないレベル」は半数の50%に対して39%、「少しはわかるレベル」が15%に対して7.6%、「あまり身につかなかった」と答えたのが 3 %に対して 0 %であった。数字を素直に解釈する限り、カリキュラム改正後の方が英語習得の達成度は下がったということになる。

第 2 問は、その自己評価が「入学前の期待を上回ることができたか」どうかを尋ねている。「充分上回ることができた」と回答したのが13.1%に対して15.2%、「ほぼ上回っている」が18.2%に対して28.6%、「だいたい期待通り」が51.5%に対して39%、「やや期待に届かなかった」と答えたのは両年度とも 15.2%で同じ、「期待以下」という回答が 2 %に対して1.9%であった。自己評価においても、4 年前と比べて数字は下がっている。

次に、表現文化学科についても結果を比較してみたい。第 1 問目では英語、仏語、独語、スペイン語、中国語から、学修した外国語の種類を聞いている。英語を履修したのは2017年度卒業生の76名（69.7%）に対して2014年度卒業生では65名（72%）、ドイツ語を履修したのは25名（23%）に対して34名（37.8%）、フランス語を履修したのは50名（45.9%）に対して24名（26.7%）、中国語が37名（33.9%）に対して34名（37.8%）、スペイン語は14名（12.8%）に対して12名（13.3%）という結果であった。4 年前に比べて中国語、スペイン語を履修する者の割合はあまり変わらないが、フランス語を履修する学生の割合が増えて、ドイツ語が減っ

たことがわかる。英語履修者の割合は4年前に比べて微減となり、増えている傾向がみられない。

表現文化学科で英語を主言語とする学生が、達成度をどのように自己評価しているかをみると、「研究・議論等の日常生活以上の活動ができるレベル」と回答したのは4人(6.2%)に対して四年前が3人(6.4%)。「日常生活を送るのに支障がないレベル」と回答したのは11人(16.9%)に対して6人(12.8%)。「旅行等で外国に行ったときに役立つレベル」と回答したのが30人(46.2%)に対して22人(46.8%)。「少しはわかるレベル」が18人(27.7%)に対して15人(31.9%)で、「あまり身につかなかった」と回答したのは2人(3.1%)に対して1人(2.1%)となる。わずかに達成度の自己評価が上がったとの傾向が読み取れなくはないが、誤差の範囲だろう。

主として学んだ言語が英語である者は65名(59.6%)に対して4年前の2014年度では47名(52.5%)、ドイツ語は20名(18.3%)に対して29名(32.2%)、フランス語は23名(21.1%)に対して13名(14.4%)。主言語をフランス語と考える学生が増え、ドイツ語が減る傾向がみられた。英語を主言語とする学生の割合もやや増えている。

まとめ

英語学習の達成度は、当初期待した結果とは正反対に、カリキュラム改正によって下がったという結果になった。実際には、2017年度の国際言語コミュニケーション学科の卒業生の調査対象者数が99名と少ないことが気にかかる。休学して留学したために次の学年に回り、卒業していない学生が10名以上いると考えられるからである。また、一部の就職先において、卒業式を待たずに研修に入った学生もいる。こうした学生たちは、相対的にみれば英語力の高いグループであって、それが今回の調査対象から外れているために、達成度の数値を押し下げる効果があったことは否定できない。

とはいえ、こうした事情が全体の傾向に及ぼす効果は限られているので、外国語プログラムの改正が達成度の向上に寄与していない、という結果が得られたことは間違いない。その点を踏まえて、外国語プログラムのさらなる質向上に取り組みたい。

1. 本年度のFD活動の特徴

平成29年度における人間関係学部の日常的教育研究活動以外の組織活動は、平成29年度から実施したカリキュラム改革を推進するとともに、平成30年度から実施する公認心理師受験資格取得にむけたカリキュラム改革の準備が主要部分を占めている。また全学的に実施している、学生を対象とした各種のアンケート調査の結果を、教員が共有し学部改革に活用している点も組織的なFD活動として挙げられる。

とくにカリキュラム改革等による学部改革は、学生の学部での勉学により一貫性と体系性をもたらすカリキュラムの再編、さらにそうした学生の勉学を効果的に支援するシステムとしての教員配置や教育体制の再編を通して、学部組織としての教育能力のさらなる向上を企図したものであり、その意味でまさにこの再編作業そのものがFD能力の向上を目指した組織活動であると考ええる。

2. 学部FD活動の概要

①カリキュラム改革に関連したFD活動

平成29年度に実施したカリキュラム改革は、平成24年度から引き続き活動している将来計画委員会を中心に企画された。本年度は9回の委員会を開催し、以下のような点について審議し、一部を実施した。

まず心理学分野では初めての国家資格となる公認心理師受験資格のための平成30年度からのカリキュラム変更を検討し、この変更に合わせて学則や人間関係学部履修規準の改正を行った。具体的な変更点は、平成29年9月15日に施行された法律に基づき心理学科のカリキュラムを受験資格が得られるようにしたことと、人間関係学科の一部の科目の名称を変更したことである。さらに、公認心理師資格等委員会を設置し、公認心理師資格取得に関する科目の履修内規を定め、公認心理師受験資格を得られるようにするための体制を整えた。このような改革によって、各種の資格取得に向けた教員の意識向上を図った。

次に、本学部設立以来、中核的な専門科目と位置づけられているケースメソッドや演習と平成29年度から実施したカリキュラム改革の目玉として導入した11のモジュールとの関連づけを行った。また、新カリキュラムから単位化した卒論事前指導ゼミの登録方法等やメインモジュールの登録方法を明確化した。さらに、カリキュラム改革が順調に進んでいるかどうかを検証し、各モジュールの主要科目や展開科目、またモジュールと卒業論文指導教員との関連づけなどの見直しを行った。そしてこれらの情報を、在学生ガイダンスなどの機会を通して学生に周知した。このような作業によって、各科目が学修テーマという観点からどのように位置づけられているかを学生からみてより明確になるようにし、学生の学修テーマに沿った系統的学習を行うことができるような体制の構築に組織的に取り組んだ。

また、現在、心理学科で必修となっている卒論発表会を、人間関係学科においても必修化することの検討を開始した。今回のカリキュラム改革の目的の一つは、学生が何を学んでいるかを自覚させ、それを科目選択や卒論作成に活かすことにあるが、卒論発表会の必修化によってこの目的が促進されることが考えられる。すなわち、学部全体での卒論発表会の必修化により、卒業論文作成指導という最終的かつ総括的学修支援活動がどのように行われているのか、それが十分に機能しているのかを検証することが可能になり、学部教育の体系的な教育能力をさらに向上させることが期待される。

さらに、中期的な人事計画についても議論を開始し、今後の教育内容や教育体制のあり方について検討した。

②全学的に実施した学生を対象としたアンケート等の活用

椋山女学園大学では、1年生を対象としたコンピテンシーテストを希望する学部で実施しているが、本学部では1年次の必修科目である「ファーストイヤーゼミ」の中で、このテストを実施し、また学生

に対する結果の報告を行っている。その上で、教員に対する結果の報告会を別途開催しており、1年生の現状を知り、それを授業内容の改善などに活用している。

また全学的に実施している「学生総合満足度調査」や「大学教育及び大学生活等に対する意識調査」の結果を、教員にフィードバックし、教育体制・教育内容の見直し、要支援学生への対応、そして授業改善などに役立てている。

学部FD委員 谷口俊治・小田切和也

平成29年度における文化情報学部のFD活動は、下記の計画を実行した。

成果物は全21ページのPDFであり、名称：平成29年度文化情報学部FD活動卒業研究関連授業の改善、編集：小田切和也・谷口俊治、発行：相山女学園大学文化情報学部として平成30年3月31日に刊行された。

平成29年度文化情報学部FD活動計画

1. 題 目

卒業研究ゼミの改善（前年度のメンテナンス）

2. 目 的

卒業研究指導1，卒業研究指導2，および卒業研究に関する学部教育の改善を図る。

3. 方 法

以下のように、改善策を立案し、実施する。

(1) 昨年度FD報告書に点検・評価を提出した教員（A4：1枚）

昨年度の点検・評価の中で改善すべき点を抽出し、その中で、本年度改善策を講じたものについてまとめる。具体的には、以下の点を記述する。

(a) 昨年度の点検・評価の結果、改善すべき点（全ての点）

(b) (a)の中で、本年度、改善策を講じたポイント

(c) (b)の改善策の評価

(2) 昨年度FD報告書に点検・評価を提出していない教員

以下のどちらかを選択し、実施する。

(a) 「平成28年度文化情報学部FD活動」に基づく点検・評価

(b) 上記(a)に準じた改善策と評価

4. 報告書の書式等

段組み、フォント種・サイズなどは、原稿が揃ってから可能な範囲で調整する。

5. 記録と保存および公開

学部FD活動の成果としては、PDFとして刊行し、各教員に配布する。

以上

第2節：現代マネジメント学部 主任

東 珠実

その他：現代マネジメント学部 教務委員会FD委員 吉本明宣

1. 現代マネジメント学部におけるFD活動

現代マネジメント学部における独自のFD活動は、①「学生生活評価アンケート」の実施、②「教育研究報告」の発行から成る。

平成26年度まではこれらに加え、現代マネジメント研究会(FD講演会)が行われてきたが、平成27年度以後は予算が下りず実施できなかった。他は前年度と同様の内容が実施された。

本報告では、「教育研究報告書」に記載された、「平成29年度本学部教員の教育研究活動について」と「学生生活評価アンケート」の実施結果概要を報告する。

2. 平成29年度本学部教員の教育研究活動について

はじめに、今年度の本学部の教育活動をふりかえる。カリキュラムに関しては、平成25年度からスタートした経営関連科目の充実を図った新カリキュラムが4年次まで進行し完成年度を迎えた。また、本学部の上に設置された大学院現代マネジメント研究科も4年目を迎え、修了生を引き続き輩出しているが入学生が定員に満たないなど課題を残している。

一方、イベントとしては、学部開設10周年記念事業として着手したビジネスプラン・コンテストも第5回として引き続き実施することができた。特にビジネスプラン・コンテストについては、学内外から多数の応募があり、応募総数は高等学校の部、大学の部を合わせて32件に達した。応募数は昨年度より減少したが、発表内容はこれまでに比べ一層レベルアップしており、本学部の特色ある取り組みとして、今後も継続していきたい。また、学生控室改修を機に平成27年度に発足した学生ピアサポート「チーム・レナータ」が、就職壮行会やディベート体験、クリスマスイベントを開催するなど、学生による主体的な取組も活発化しており、アクティブ・ラーニングが浸透している様子が伺える。次に、研究活動を総括する。上記のような教育活動と併せて、今年度、本学部教員（教授7名、准教授10名の合計17名）の研究活動は、下表のように実施された。「著書・学術論文」は昨年度に比べ増えているものの、「特許・その他」は減少している点が懸念されるが、外部資金の獲得を目指す全学的な動きを受け、本学部においても学外の研究助成金の獲得件数はほぼ昨年度並みの件数を維持している。また、専門分野による違いもあるであろうが、教員間の個人差は依然として大きい。

本学部では、学部の専門性を生かし、就職活動に強い学生を育成することを目指して、アクティブ・ラーニングをはじめ、企業や行政等と連携した実践性の高い教育研究を展開している。今後も学部の総力を挙げて、その取り組みを充実させ、学部の独自性を堅持していきたい。

「教育研究報告」にみる学部教員の研究活動の推移（過去3年間を基本とする実績）

項 目	第1回教育研究報告 (平成14年度)	第15回教育研究報告 (平成28年度)	第16回教育研究報告 (平成29年度)
著書・学術論文	7.6編	2.9編	4.0編
特許・その他	4.1編	7.5編	4.8編
著書等小計	11.7編	10.0編	8.8編
研究助成金（学内）	1.6件	0.3件	0.2件
研究助成金（学外）	0.4件	1.1件	1.0件
研究助成金 小計	2.0件	1.4件	1.2件
所属学会	4.4件	4.0件	4.2件
学外委員	0.5件	2.0件	2.1件

＜注＞ 1. 表中の数字は教員1人当たりの数字である。

2. 「第1回教育研究報告（平成14年度）」は本学部の前身である生活社会科学科の最終年度のものである。

3. 学生生活評価アンケート（第16回）：概要

調査期間：

平成29年12月1日（金）～12月22日（金）

調査対象：

相山女学園大学 現代マネジメント学部 在学生 770名（休学除く）

（1年生257名、2年生179名、3年生187名、4年生147名）

回答数：597名、回答率77.5%

調査目的：

全学FD（ファカルティ・デベロップメント：教員の教育能力の向上）活動の一環として、現代マネジメント学部の学生が本学での生活をどのように受け止めているかを調査した。今回も過去の15回とほぼ同じ項目について回答を求めた。本学部における教育と学生生活の質的向上のための基礎資料を残すことを目的として、この結果を記載する。

調査項目：

1. カリキュラム：

カリキュラムの満足について、肯定的回答（よく当てはまる、または少し当てはまる）は、「語学科目」では63.8%（66.6%）（以下、カッコ内の数字は前年度の結果）、「情報科目」では76.8%（73.0%）、「その他教養科目」では81.8%（78.8%）、「専門科目（経営）」では83.2%（80.7%）、「専門科目（経済）」では76.0%（77.4%）、「専門科目（法律）」では81.9%（85.5%）、「専門科目（政治）」では83.7%（87.2%）であった。「情報科目」の到達度別クラスの導入について、肯定的回答は65.4%（67.8%）であるが、教養教育科目の全学共通化によって、本学部での導入は困難になった。

「専門プレゼミ」「基幹演習」「展開演習」を担当する先生を選択する際の理由については、「演習の専門分野やテーマに関心があったから」が42.6%で一番高く、次いで「担当の先生の魅力から」が31.8%であった。

新年度初めのオリエンテーションの出席について、肯定的回答が87.7%（86.3%）であった。単位制度の仕組みの理解について、肯定的回答が80.6%（78.1%）であったのに対し、履修と成績評価に関する説明や手続きの分かりやすさについては、肯定的回答が66.0%（57.9%）と比較的低かった。説明は毎年少しずつ

改善されているので、要因としては学生側の質的変化が考えられる。この質的変化を折り込んだ対策が必要であろう。

自由記述回答では、年間の履修単位の上限をなくすことを求める記述が多かった。

2. 大学の環境：

環境（主に施設）の満足では、ハラスメント相談室、図書館、チケットサービスコーナー、トイレについて、肯定的回答は70～90％程度であった。特に大学の中核施設のひとつである図書館については、肯定的回答が85.6％（87.3％）であり、前年度とほぼ同じであった。なお、昨年度改装された学生控室については、89.9％（92.4％）と昨年同様評価が高かった。一方、売店、書店などについては、例年同様、評価は比較的低い。

自由記述回答では、Wi-Fi環境の拡充、コンビニエンスストアやATMの設置、エレベーターの増設を求める記述が多かった。学生控え室でのWi-Fi環境の拡充は必須であろうが、各教室での拡充は教育環境の悪化などに留意する必要がある。

3. 事務職員の窓口対応：

学内の各窓口での対応について、肯定的回答は、各部署ともおおむね80％程度であった。この数値を見ると比較的好印象を抱いている学生が多いが、自由記述回答では、そのほとんどが不満の記述であり、その数も多い。学生への対応には引き続き注意を要するであろう。

4. 他大学解放科目について：

他学部の開放科目の参加について、肯定的回答が72.4％であり、関心を持っている学生の割合は比較的高いが、よく利用したとする肯定的回答は46.4％と少ない。

5. 学部間・他大学間との単位互換・所定の資格等の単位認定：

単位互換や資格等の単位認定の希望について、肯定的回答は75.5％（73.0％）であった。自由記述回答では、資格の単位認定を求める記述は多いが、他大学との単位互換についての記述は少なく、学生が内向きになっていく傾向が見られる。

6. 就職指導：

キャリア支援課による就職指導を受けた学生では、就職指導について、肯定的回答は70.9％（74.6％）で若干減少しているが、同課が主催する各種講座については、肯定的回答は73.3％（82.3％）であり、減少の幅がやや大きい。

自由記述回答では、不満がやや多く、今後とも改善の余地があるであろう。

7. インターンシップ：

インターンシップの有効性について、肯定的回答は82.8％（82.1％）であり前年度とほぼ同じであるが、実際に参加した学生の満足について、肯定的回答は84.3％（82.8％）で前年度より若干の増大が見られる。

自由記述回答では、不満が多く記載されているおり、インターンシップ先の選定や事前・事後指導などに工夫が必要であろう。

8. 奨学金制度：

本学の奨学金制度に対する学生の認知について、肯定的回答は33.6％（34.4％）であり、毎年着実に減少している（26年度40.7％、25年度41.6％）。これだけ続くと、周知体制よりも学生側の情報収集能力の低下の方が懸念される。本学の奨学金受給者の満足について、肯定的回答は67.8％（60.1％）で、奨学金制度全体の充実について、肯定的回答は65.4％（58.2％）であり、数値の低さから、学生を取り巻く経済的状況の

悪化が懸念される。

自由記述回答では、給付型の奨学金を求める記述もある。

9. 学生生活等：

例年同様、予習・復習は、合わせて週平均 2 時間程度しか行なわれていない。しかしながら、授業についていけることについて、肯定的回答は74.1%（77.9%,27年度は75.0%）と毎年数値が高い。入学偏差値の低下を考慮すると、多くの教員が単位認定を毎年かなり緩めながら行っていることが分かる。昨年も指摘したが、逆に、課題の多い教員や試験の難しい教員のクラスは学生が集まらず閉講となる傾向があり、本学部が今後、高等教育機関としての体を維持しようとするのであれば、少なくとも単位認定について抜本的な対策を講ずる必要がある。

他方、アルバイトは週平均3.2日（3.3日）、16.9時間（17.8時間）行なわれている。従って、講義を加えた学習時間の週二十数時間程度（大学設置基準第21条第2項は、週六十数時間程度の学修が必要と規定）と比較すると、本学部の学生は平均的に、学生4：非正規労働者3の存在であることがわかる。この比率はここ十年程度あまり変わっていないので、このことへの対応姿勢を含め、今後の学部のあり方を検討する必要がある。

10. 学生生活全般：

学生生活全般に対する学生の満足について、肯定的回答は84.1%（84.8%）であり、比較的好印象を抱いている学生が多い。

以上

平成29年度活動報告

1. FD講演会の実施（大学院FD委員会との共催）
2. FD研修会の実施（大学院FD委員会との共催）
3. 教育学部における人を対象とする研究に関する倫理審査内規の作成と制定
4. ICT機器の導入と充実（学部として）
5. 授業アンケート実施状況および総合的充実度
6. 全学FD活動への参加状況

1. 学部FD講演会（大学院FD委員会共催）

日 時：平成29年 9 月12日（火）17：00－18：15

場 所：教育学部大会議室

テーマ：「教育職員免許法施行規則の改正の要点と教育学部および教育学研究科の対応」

目 的：今後の学部と大学院のカリキュラム再編成の方針を明らかにする。

講演者：宮川充司（教育学部教授、教育学研究科長、全学教職課程委員会委員長）

本多利江（椋山女学園大学教務課主任）

概 要：宮川氏、本多氏から、資料を基に新しくなる教育免許法・同施行規則の改正案および教職課程コアカリキュラムについての解説が行われた。この改正による科目区分の統合や、幼稚園教諭免許の小学校教科併用の問題、小学校外国語（英語）の追加など大きな変更もあり、今後はこの変更に伴い本学部・研究科もカリキュラムを対応させていく必要がある。改正の概要と再課程認定の申請とスケジュールを理解することで、本学教育学部・教育学研究科としてどのように変化していくべきかについて考える会となった。

2. 学部FD研修会（大学院FD委員会共催）

日 時：平成30年 1 月27日（土）15：45－17：00

場 所：教育学部棟B307教室

テーマ：「水」～水をテーマに専任教員が取り組む多様な教育活動・研究活動の報告～

目 的：水をテーマに専任教員が取り組んでいる教育活動・研究活動についての報告および報告を受けた総括討論での議論を通じて、各教員自身の教育および研究能力の開発・向上を図る。

話題提供者：

・野崎健太郎（教育学部准教授）

テーマ：「陸水環境を素材にした体験型学習の実践―保育者・教員養成課程における授業研究」

・宇土泰寛（教育学部教授）、林敏博（教育学部客員教授・子ども達の指導担当）、
渡邊康（教育学部准教授・作曲担当）

テーマ：「SDGsからみた水問題―大陸間教育交流をはじめとする多様なアプローチ―」

概 要：前年までは、保育や教育に関わる講演や、本学専任教員の最終講義などを行ってきたが、本年度は退職者もいなかったことから、専任教員の活動報告による研修会を開催した。

まず野崎氏より、大学の授業における、実際の川や自然の河川環境調査を伴う体験型学習の授業の具体的な紹介および授業研究の報告を受けた。実際の学生達の実践の様子（画像）に加え、

授業としての学習効果に関する説明も行われた。

次に、宇土氏からSDGs（持続可能な開発目標）の観点に立った水の学びから、「大陸間ミュージカル活動」として子ども達自身によるキーワード選択、メッセージづくりから、歌詞や合唱曲の作成を通じて、ミュージカル「I LOVE WATER 人と水の精の物語」を作成し、日本・フランス・ブルキナファソ 3 カ国の大陸を越えた協同的活動や交流を行った実践報告と、大学近郊のUR都市機構と連携して作成した地域課題探求学習としてのジオラマ制作と、学びあいの実践について報告をうけた。実際に子ども達が歌でつなぐ大陸間交流の様子も動画にて紹介された。

以上 2 つの報告から、「水」をキーワードとした教育実践の学習効果や教育の可能性について考える機会となり、今後も継続的に、テーマを設けた授業実践及び授業研究の報告会をしていく提案もなされた。

3. 教育学部における人を対象とする研究に関する倫理審査内規の作成と制定

これまで教育学部には人を対象とする研究に関する倫理審査を行う部署および内規がなく、教員の研究における倫理審査依頼および学生の研究における倫理審査依頼を行うことができなかった。そこで本年度、学部FD委員会および大学院FD委員会と共同で、本学園他学部や他大学の倫理審査基準の情報収集による研究・議論を行い、倫理審査内規の原案を作成した。教育学部運営委員会の審議による修正を経て、教授会の承認を得るに至り、平成 29 年 12 月 12 日に「相山女学園大学教育学部における人を対象とする研究に関する倫理審査内規」を制定、同時に教育学部研究倫理審査委員会を設置した。

4. ICT 機器の導入と充実

今日の教育において、ICT 機器の設備の充実は必須事項であり、学習指導要領にも随所に ICT 活用についてふれられている。大学における教育での ICT 活用はもちろんのこと、初等中等教育現場で ICT 活用のできる人材を育てることは、教育学部にとって重要な課題である。電子黒板や実物投影機とプロジェクターなどは、模擬授業の演習においても重要な機器であるが、本学部では可動の電子黒板が 1 台しかなかったため、本年度に 2 台目となる教室間の移動可能な電子黒板を、さらに大きいサイズで導入した。それに伴い、新規導入の電子黒板を実際に使った活用講習会も実施した（2018 年 3 月 6 日 14:30 - 15:30）。

さらに、プロジェクター等が未設置であった教室へ設置も行い、ICT 関連設備の充実をはかった。また、設備だけでなく、教科担当教員によってデジタル教科書の新規購入や追加購入も行い、使用制限はあるものの学生とともにこれらを活用できる環境を整えた。

5. 授業アンケート実施状況および総合的充実度、リフレクション・ペーパーの提出

1) 前期

教育学部における、前期の授業アンケート実施率は 90.8% であり、9 割以上の実施率ではあったが、7 学部中最下位であったことは今後の課題である。授業に対する総合充実度は、「その通りである」「どちらかといえばその通りである」の回答を合わせると 91.2% であり、9 割を超え 7 学部中 3 番目とまずまずの結果であった。リフレクション・ペーパーの提出状況は、93.2% であり、全学部中でもっとも提出率がよい結果であった。

2) 後期

後期の授業アンケート実施率は、94.3% であり、7 学部中 3 番目であった。授業に対する総合充実度は前期同様の集計によると 93.6% で、全学部中 1 位の結果であったことは望ましい結果であると考えられる。リフレクション・ペーパーの提出状況は、34.8% で全学部の平均 40.4% を下回り 7 学部中 5 番目であった。前期の提出率が良かっただけに、今後リマインドメールを出すなど、提出を促す告知を行うよう留意したい。

6. 全学FD活動への参加状況

9月6日に実施された全学FD研修会への参加は、70.4%で、7学部中3番目の参加率であった。教育学部において9月上旬は保育実習の巡回指導が重なる時期であり、このことについての改善は難しいが、各教員が日程を調整して参加しているものと推察された。

Sprit活用に向けての講習会も、14.8%の参加（7学部中2番目）であり、ICT機器の活用に関心の高い教員の参加が見られた。

杉浦美佐子、池俣志帆、又吉忍、犬飼勢津子

I. 平成29年度看護学部FD研修会について

基礎看護学教育における講義、演習、臨地実習では、「臨床判断は、因果関係ですべて説明付けるような直線的・合理的な側面だけでなく、感性や直感に基づいた判断をも含んで、情緒的あるいは状況的側面を有する幅広い概念」¹⁾であることを前提として、教員は学生自身が看護上の課題の発見、解決法の決定、実施、評価、結果を経て新たな課題を発見していけるような教育方法を導入して実践している。特に多くの時間を費やして開講される臨地実習は、学生が患者と相互依存的に存在するなかで、現実に対峙しながら、その時々看護上・健康上の課題を発見し、必要とされる看護を実践する「アクティブ、かつ創造的に看護を展開する」学習形態である。臨地実習は、プロジェクト学習（PBL）²⁾でもある。

これらに対する「評価」は、学生の看護実践力を評価の観点としたルーブリック、「評価資料」は、学生が自らの課題解決プロセスを蓄積し、自己評価することで自己成長力を培えるようなポートフォリオの活用が新たな試みとして重要になってくる。

平成29年の看護学部FD研修会は、平成28年度の「学生の評価に関する教員の視点を養成する」目的で開催された内容に具体性を付加し、「教育評価」の再確認と、平成27年度カリキュラムにおいて新設された「課題探究実習」（プロジェクト学習）の評価基準作成（共通項目）を行った。

文献

- 1) 中西睦子、他：こころのケア場面における臨床判断の構造と特性，看護研究，31(2)，1998.
- 2) 塚本真也：想像力育成の方法，森北出版，8，2008.

1. 平成29年度看護学部FD研修会の概要

目 的：実習における学生評価に関する教員の視点を養成し、「課題探究実習」のベースラインについて検討する。

テ ー マ：教育評価（「課題探究実習」の共通項目における評価基準を作成する）

開催日時：平成29年9月1日（金）13：15～15：55

開催場所：相山女学園大学 大学会館 3階 大会議室

開催内容：1) 講義

- ・テーマ「学修成果の可視化に向けた評価のあり方」
- 授業設計と学修評価の基本的な考え方について（概説）

2) ルーブリック作成ワークショップ

- ・8グループに分かれてのグループワークとする。

講 師：川越明日香先生（熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授）

2. 開催までの準備（学部FD委員会を4回開催）

- 1) グループワークのための教材作成
- 2) 講師との打ち合わせ
- 3) 資器材の準備
- 4) 会場設営

教員へのグループワーク時の伝達事項

ループリック作成ワークショップの目的・内容

- ・教員個々の授業観・教育観について語りあい、すぐに使える評価手法を共有する。
- ・「課題探究実習」のベースラインについて検討する。「課題探究実習」を評価するということは、本科目の到達目標（実習目標）を評価できる仕組みにならなければならないため、基本的な考え方としては、教員や実習の内容が異なっても評価観点は同一である必要がある。
- ・当日のワークショップの手順について：
 - ①まずは、評価観点を洗い出すという作業を行う。実習目標がベースになるが、これら4つの評価観点（実習目標）を見てみると、それぞれに複数の観点（態度）が含まれていることがわかります。【例えば、「2）実習目標と実習計画を立案、実施できる」と言った場合、「立案」と「実施」の二つの行動・態度が含まれているため、ループリックでは別の観点到に分ける方が望ましい】
 - ②そのため、今回のワークショップ（グループワークの中）では、どの観点到が重要で、必要かという議論をしていくことになる。
 - ③上記②の後の作業としては、評価観点をもとに、評価基準（ワーディング）を検討していくことになる。

参加いただく教員の皆様へのお願い：

- ・今回のワークショップでは、実習の具体的な場面を想定して（出し合って）
 - ➡「課題探究実習（ベースライン）の評価基準を引き出す」ということになります。
- （そこで）
- ・課題探究実習の全体版、共通の実習目標 1）～4）に対して、各先生は、それぞれの評価の基準として、
 - ①どのような基準を考えておられるのか
 - ②そのうち、どの基準が最も重要で、必要かを、ワークショップ前までに各自で検討したうえで参加ください

3. 研修会の結果・評価

アンケートの集計結果から、内容について満足との意見が多く、ニーズを得ていたと考えられ、好評であったが、グループワークの課題のボリュームが多く、時間が足りないとの意見があった。

また、今回の内容を研修として継続して欲しいという要望があった。そのため、継続的に評価をテーマとした研修を実施することとし、学部暦に組み込むことで、早期に日程を調整し、研修の時間を十分に確保できるよう検討していく。

4. 平成29年度 看護学部FD研修に関するアンケート集計結果

参加者40名にアンケートを配布し、回答29枚（回収率72.5%）を得た。

Q1. 研修内容の満足度を聞かせてください。

- ①とても満足 17名（58.6%）、②やや満足 11名（37.9%）、③普通 1名（3.4%）
- ④やや不満 0名（0.0%）、⑤とても不満 0名（0.0%）

<理由>

- ①領域でも評価について検討していたためわかりやすかった。
- ②具体的にかつ明確に評価表の作り方を学ぶことができた。
- ③全教員での研修は意義がある。ループリックはとても重要。
- ④授業と評価のつながり・振り返りができた。
- ⑤わかりやすく、ワークも具体的にイメージできた。

- ⑥講師の先生の説明が分かりやすかったため。
- ⑦評価はとても重要だし、でもこの基準でよいのか悩みながらであるので。
- ⑧良い意見交換ができた。
- ⑨とても分かりやすい講義であった。ワークの時間がもう少しあるとより深く理解できたように思う。
- ⑩ループリックについて少しではあるが理解することができた。
- ⑪全教員での研修は意義がある。ループリックはとても重要。
- ⑫昨年につづいての研修だったので良くわかりました。もう少し時間があればよかった。

Q2. 前半講義の満足度

- ①とても満足20名 (69.0%)、②やや満足 9名 (31.0%)、③普通 0名 (0.0%)
- ④やや不満 0名 (0.0%)、⑤とても不満 0名 (0.0%)

<理由>

- ①とても理解しやすく、今後の参考になった。
- ②昨年の講義よりもループリックの基本的知識としてわかりやすかった。
- ③大切なポイントが押さえられていた。
- ④講義が非常にわかりやすかった。もう少し聞いたかった。
- ⑤非常にわかりやすい。
- ⑥科目レベルに限らず、適用範囲の広がり考えることができた。
- ⑦講師の先生が丁寧に説明してくれた。
- ⑧ループリックの基礎を教えて頂きわかりやすかった。
- ⑨もう少し時間をとって学習したかった。
- ⑩もう少し時間をとってもらえるとよかった。
- ⑪グループワークですることが少しわかりにくかった。

Q3. 後半演習の満足度

- ①とても満足14名 (48.3%)、②やや満足 11名 (37.9%)、③普通 4名 (13.8%)
- ④やや不満 0名 (0.0%)、⑤とても不満 0名 (0.0%)

<理由>

- ①スピード感があってよかった。
- ②短い時間の中で様々な評価の視点を共有できた。
- ③演習中に講師の先生が説明を加えながら進行してくれた。
- ④講師の先生が巡回し指導がもたらえた。
- ⑤実際にやってみて難しさを感じた。ワークの時間が最後までとりかかれなかった。
- ⑥グループメンバーでディスカッションし、実際の作成方法を経験でき良かった。
- ⑦全てのループリックをまとめるのに、時間不足でした。
- ⑧難しかったが、雰囲気良くワークを実施できた。
- ⑨教育観を語りあうまでには至らなかった。時間が足らなかった。
- ⑩項目の立て方に戸惑うところもあったがチームでうまくやれた。

Q4. 日程は適切でしたか

- ①適切22名 (75.9%)、②どちらでもない 7名 (24.1%)
- ③適切でない 0名 (0.0%)

<希望時期>

- ①実践的な内容は自分の科目への応用を考えられるので、ありがたい。

- ②今回と同じで良い。
- ③できれば、1日続きでない方がよかった。

Q5. FD研修に対する要望

- ①講義演習の形式がいいと思う。
- ②講師の先生の力が大きく左右すると感じた。
- ③「看護基礎教育」に求められるものについて等、講師の話をじっくり聞きたいが、研修のためGW等取り入れることになるのか？
- ④学生理解のための研修があるとよい。
- ⑤ループリックの2回目を行いたいです。(ファーストイヤーゼミなどで)
- ⑥今回のように具体的に「〇〇に使うもの」=全員に共通するものについて作ると発展性があるように思います。ややもすると知識のみで「応用ができない」ものもありますので。

Q6. その他、ご意見をおきかせください。

- ①とても参考になりました。
- ②会場がきれいで使いやすかった。
- ③今回はとてもよい講義でした。

5. 次年度の課題

実施後のアンケートでは、研修の内容は満足であったとの回答が多かったが、講義・グループワークの時間設定や配分についての意見も少なくなかった。しかし、研修時間が限られているため、講義とグループワークの配分は、その内容を加味したうえで設定していくこととなる。来年度のFD研修は、今回の内容を継続して欲しいという意見も多いため、教育評価を継続的なテーマとして実施することも含め検討していく。また、参加しやすい日程と研修に十分な時間を確保するために、今年度と同様に学部行事として早期にスケジュールに組み込むことを検討していく。

6. 課題探究実習の評価基準観点についてのまとめ

関連領域の課題の抽出, 課題の明確化, 探究課題の明確化, 課題を見出す, 課題抽出, 課題の発見
目標が明確になる, 実習目標の明確化
実習計画が立案できる, 計画立案と実施, 実習計画の立案, 実習計画の実施, 計画の追加・修正, 実施
学びの言語化, 看護の学びの文章化, 学びの説明
論理的, 批判的・科学的, 科学的根拠, 科学的学び, 考察・記述, 独自性・専門性, 看護の独自性・専門性の考察, 考察に基づく記述ができる, 看護の専門性
看護職者としての態度を身につけることができる, 看護師(看護職者)としての態度、実習態度、態度、将来の看護師像

7. 実際に作成された課題探究実習用のループリック評価表

FD研修会後に看護学部教務委員会との連携により作成し、看護学部教員へ周知した。

課題探究実習評価用ループリック

1. 実習目的

基礎および各看護の専門領域実習で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護職者に必要な看護実践能力を高める。学生は医療や看護、公衆衛生、学校保健分野等の関心あるテーマを選定し、臨地における課題探究の過程を通して、看護実践能力の向上ならびに看護職者としての態度を養う。

2. 実習目標

- 1) 看護学および関連領域から探究したい課題を見出すことができる。
- 2) 課題を探究するための実習目標と実習計画を立案、実施できる。
- 3) 課題に関する学びについて、論理的、批判的、科学的に説明できる。
- 4) 実習課題を通して、看護の独自性・専門性について考察し、記述できる。

課題探究実習 評価用ルーブリック

		5 (10)	4 (8)	3 (6)	2 (4)	1 (2)
1	(学生自身による) 課題の明確化	医療や看護、公衆衛生、学校保健分野等の関心あるテーマを自ら選択し、十分な文献・資料・先行研究を活用して検討し、具体的で実施可能な探究したい課題を具体的に述べること（記述）ができる。	指導教員が提示した医療や看護、公衆衛生、学校保健分野等から、関心あるテーマを選択し、文献・資料・先行研究から現状の問題について十分に理解し、探究したい課題を比較的、明確にできる。	指導教員が提示した医療や看護、公衆衛生、学校保健分野等の関心あるテーマを選択できているが、文献・資料・先行研究を用いた上での現状の問題についての理解と課題の明確化がほぼできる。	指導教員が提示した医療や看護、公衆衛生、学校保健分野等の関心あるテーマに対して、文献・資料・先行研究の抽出まではできるが、 <u>理解も課題の明確化も不十分な点がある。</u>	本実習の目的を捉えていない。指導教員が提示した文献・資料・先行研究に対する検討がなく、課題を見出すことができず、 <u>教員任せである。</u>
2	(学生自身による) 学習目標の明確化	具体的で実施可能な探究したい課題を学習目標とし、具体的な達成状況（レベル）を完璧に述べること（記述）ができる。	具体的で実施可能な探究したい課題を学習目標とし、具体的な達成状況（レベル）が比較的明確に述べる（記述）ことができる。	探究したい課題に対して、 <u>抽象的な学習目標を述べる。</u> 具体的な行動レベルでの目標については、 <u>教員に相談できる。</u>	探究したい課題に対して、 <u>抽象的な学習目標を述べる。</u> 具体的な行動レベルでの目標について、 <u>教員に連絡・相談ができない。</u>	探究したい課題を抽象的なレベルでも言語化して表現できず（不明確であり）、学習目標を自ら設定しない。 <u>教員任せである。</u>
3	(学生自身による) 実習計画立案	具体的な行動レベルでの実習計画を自ら一通り、立案し、 <u>教員に実習内容に関する調整を相談・依頼</u> ができる。	具体的な行動レベルでの実習計画を、 <u>積極的に教員に相談</u> できる。	具体的な行動レベルでの実習計画を、 <u>教員が確認すると口頭で述べる</u> ことができる。	抽象的なレベルでの実習計画を、 <u>教員が確認すると口頭で述べる</u> ことができる。	実習計画について、アドバイスを受ける行動もなく、計画が立案できない。 <u>教員任せである。</u>
4	実施	探究したい課題に対して、自身が参加して立案した実習計画に基づいて、結論に至る見学、実施等が出来る。	探究したい課題を達成するために必要な実習（見学、実施等）が出来る。	探究したい課題を達成するために必要な実習（見学、実施等）がほぼ出来る。	教員から指示された実習（見学、実施等）が適切に行動出来るが、探究したい課題を達成するために必要な実習は、 <u>不完全な部分がある（追記）。</u>	教員から指示された実習（見学、実施等）が不完全な部分がある。
5	学びの記述（成果物）	実習で見学した内容や実施したことから、根拠を用いて論理的、批判的、科学的に記載されている。実習で見学した内容や実施したことに対して、論理的、批判的、科学的に記載されている。	実習で見学した内容や実施したことから、根拠を用いて論理的、批判的、科学的な説明が、 <u>比較的、明確に記載されている。</u> 実習で見学した内容や実施したことに対して、 <u>論理的、批判的、科学的な説明が、比較的、明確に記載されている。</u>	論理的、批判的、科学的な記述が <u>含まれているが、不十分な部分がある。</u>	実習で見学した内容や実施したことから、根拠を用いて論理的・批判的・科学的に記述する努力が見られる。 <u>実習で見学した内容や実施したことに対して論理的・批判的・科学的に記述する努力が見られるが、不十分である。</u>	実習で見学した内容や実施したことを、 <u>そのまま記述・報告している内容にとどまっている。</u>

6	考察	独自性、専門性に基づいて、事前準備で検討した文献等を活用して考察(記述)できている。	独自性、専門性に基づいて、おおよそ、考察(記述)できる。	独自性、専門性に基づいた考察が含まれた記録物である。	独自性、専門性に基づいた考察をしようとする努力がみられるが、不十分である。	独自性、専門性に基づいた考察がみられない。
7	(実習態度)	倫理的な態度(タイムマネジメント、助言内容、ルール・マナーを遵守)を完璧に養うことができていない(問題なし)	倫理的な態度(タイムマネジメント、助言内容、ルール・マナーを遵守)として概ね良好であり好ましい。	倫理的な態度(タイムマネジメント、助言内容、ルール・マナーを遵守)として、一部気になる点があったが修正された。	倫理的な態度(タイムマネジメント、助言内容、ルール・マナーを遵守)として、一部気になる点があり、指摘したが修正されない部分が残存した。	(倫理的な態度を養うことができない) 倫理的に重大な問題がある。
8	(各ゼミによる設定項目)					
9	(各ゼミによる設定項目)					
10	(各ゼミによる設定項目)					

【注意事項】

- ① 評定：7割 ➡ 共通の(標準化した)評価の視点 + 3割 ➡ 各ゼミの専門性等を設定して評価する
(この割合は遵守する)
上記の「3割」 ➡ 各ゼミの専門性等を設定」については、必ず学生に提示して説明をすること
(アカウントビリティとして)
- ② 指導量による評価(自立してできる、少しの指導でできる等)は、「教員の主観がはいるため、好ましくない」(FD講師からの助言)
- ③ 十分な、かなり、具体的な等の内容については、各ゼミ担当教員の判断に一任する
- ④ S:45(90)点以上、A:44(88)～40(80)、B:39(78)～35(70)点、C:34点(68)～30(60)点、D:30(60)点未満 となる。
- ⑤ 評定の3(6)のレベルを「ほぼできる」レベルで設定した。
- ⑥ 6期生に試行して、モデレーション、ループリッック修正を行う。
- ⑦ 学びの記述(成果物)における用語の説明
 - ・ 論理的：筋道が適切になるように考え、伝える
 - ・ 批判的：筋道が適切でないところを考え、指摘する
 - ・ 科学的：論理的、実証的で、系統立っている
- ⑧ 考察における用語の説明
 - ・ 独自性：他との違い、特有の性質など
 - ・ 専門性：特定の領域に関する高度な知識と経験など

Ⅱ. 平成29年度看護学部実習アンケートの試用について

1. 活動実績

平成28年度より看護学部実習アンケート試用を行っているが、サンプル数を増やすことを課題としていた。平成29年度は基礎看護学実習、総合実習、領域別看護学実習においても実習アンケートを試用した。

2. 方針

平成28年度には、本学の授業評価と参考資料とした実習評価項目を比較し、実習アンケート表の検討を行った。基本線である本学の授業評価に対して、以下の方針とした。

1) 「実習における目的・目標が達成できたか」の質問項目を加える。

2) 実習の形態に合った質問項目に変更する

例：「実践」を「思考」と「態度」の2つの項目に分ける。

「見方や考え方」を「看護観」に変更する。

「目的・目標・評価」を「目的・目標」と「評価の視点」の2項目に分ける。

「シラバス」を「実習要項と手引き」に変更する。

「必要時、相談に応じてくれましたか」に変更する。

「教員の指導・アドバイスは適切であったか」に近い内容に変更する。

3) シラバスとの整合性を意識し、育成する能力の4項目に沿う内容とする。

＜実習内容＞には育成する能力4つを基本とした内容に変更し、＜自主性への働き＞の中に「態度・倫理面」の項目を含める。

4) グループダイナミクスが発揮できたかを問う内容を追加する

5) 項目の精選

(1) ディプロマポリシーとの整合性を意識し、知識・理解、思考・判断、態度・志向性、技能・表現の4つのカテゴリーに分類する。

(2) 「手引きを読んだ」を「手引きを読んで実習に臨んだ」に変更する。

(3) 「目的・目標の基準」の「基準」を削除する。

(4) 「理解できましたか」を「理解できた」へ変更する。

(5) 「シラバス・オリの評価」から「事前準備」とカテゴリー名を変更する。

(6) 「実習指導者は必要時相談に応じてくれた」、「実習指導者の指導・アドバイスはわかりやすく適切であった」の2項目を追加する。

3. 実習アンケートの試用

看護学部実習アンケートの試用について、教授会に諮り試行を決定した。学生には、実習アンケートの目的についてオリエンテーションで説明を行い、回答を依頼した。

実習アンケート表を以下に示す。

実習アンケート

各設問には、半角英数字で選択肢の番号を入力するようお願いします。

(1.その通りである 2.どちらかといえばその通りである 3.どちらかといえばそうではない 4.そうではない)

1	実習事前準備	実習要項と実習の手引きを読んで実習に臨んだ	1	2	3	4
2		オリエンテーションでは、実習の目的・目標が理解できた	1	2	3	4
3		オリエンテーションでは、実習の内容が適切に示されていた	1	2	3	4
4		オリエンテーションでは、実習の評価の視点が理解できた	1	2	3	4
5	実習内容	知識・理解 この実習の目的・目標は達成できた	1	2	3	4
6		知識・理解 これまでの授業・演習の学習を実習に活かすことができた	1	2	3	4
7		知識・理解 人間、環境、健康、看護に関する専門的知識を身につけることができた	1	2	3	4
8		思考・判断 論理的・批判的・科学的に思考し、対象を全人的に理解できた	1	2	3	4
9		態度・志向性 この実習にあたって、個人情報の保護など倫理的側面に配慮できた	1	2	3	4
10		態度・志向性 対象の生命と人権を尊重し、看護職者としての倫理観や責任感を身につけることができた	1	2	3	4
11		態度・志向性 この実習にあたって、自らの態度を考え、誠実に行動することができた	1	2	3	4
12		態度・志向性 この実習にあたって、学生同士でお互いに助け合うことができた	1	2	3	4
13		態度・志向性 チーム医療の一員として協働できる能力を身につけることができた	1	2	3	4
14		技能・表現 援助的人間関係の上に、基本的な看護を実践する能力を身につけることができた	1	2	3	4
15	学生指導	技能・表現 社会の動向を踏まえた看護職者としての自己研鑽力を身につけることができた	1	2	3	4
16		態度・志向性 この実習の予習や復習など、自主的な学習を行った	1	2	3	4
17		教員は必要時相談に応じてくれた	1	2	3	4
18		教員の指導・アドバイスはわかりやすく適切であった	1	2	3	4
19	実習後への活用	実習指導者は必要時相談に応じてくれた	1	2	3	4
20		実習指導者の指導・アドバイスはわかりやすく適切であった	1	2	3	4
21	実習後への活用	この実習を受けてあなたの看護観が広がった	1	2	3	4
22		総合的にみて、この実習は充実していた	1	2	3	4

23. この実習について、より良い実習にしていけるために、意見や考えがありましたら記入してください。

4. 実習アンケートの結果・分析

基礎看護学実習（2年生）、総合実習（4年生）、領域別看護学実習（3年生）に実習アンケートを実施し、得られたアンケートへの回答（総数）は表1の件数（％）であった。なお、領域別看護学実習の一部の実習は、平成30年度前期まで継続しており、現在進行中のため途中経過における結果である。

終了している実習、進行中の実習があり、回答率にばらつきが生じている。

状況	実習内容	件（％）
終了	基礎看護学実習	113件 / 117件（96.6％）
	総合実習	55件 / 102件（53.9％）
	小児看護学実習（幼稚園・保育園）	45件 / 105件（42.9％）
進行中	母性看護学実習	20件 / 73件（27.4％）
	小児看護学実習（病院実習）	19件 / 73件（26.0％）
	慢性期成人老年看護学実習（施設実習）	29件 / 86件（33.7％）
	慢性期成人老年看護学実習（病院実習）	45件 / 83件（54.2％）
	急性期成人老年看護学実習	29件 / 62件（46.8％）
	精神看護学実習	17件 / 47件（36.2％）
	在宅看護学実習	49件 / 66件（74.2％）
今後	公衆衛生看護学実習（行政実習）	
	公衆衛生看護学実習（産業実習）	

表1. 各実習での実習アンケートの回答（総数）

5. 次年度の課題

得られたデータは、各看護学領域実習担当者へ渡すこととしている。看護学部での自己点検・評価として、教育活動の活性化・質的向上に活用していきたい。また、実習アンケートの回答率を高めることや、学生へのリフレクションのフィードバックも課題である。

V 研究科FD活動報告

1. 生活科学研究科
2. 人間関係学研究科
3. 現代マネジメント研究科
4. 教育学研究科

大口 健司

生活科学研究科は、衣・食・住に関わる学問の発展に寄与できる人材育成を目標としており、食品栄養学専攻と生活環境学専攻の2専攻によって構成されている。本研究科のFD委員会は、平成24年に発足され以来、大学院の授業内容や教育方法を改善し向上させるための活動が続けてきた。本年度のFD委員会は、内藤通孝研究科長（兼：食品栄養科学専攻世話人）、橋本令子生活環境学専攻世話人、大口健司選出委員の3名で構成され、以下の活動を行った。

1. 研究成果発表会の実施

本年度も両研究科において研究成果発表会を開催した。個別の指導教員のみならず、他の教員からも様々な意見や助言をもらうことにより、大学院生の研究活動がさらに向上すると思われ、とても有益な会となった。

（1）大学院修士中間発表会（生活環境学専攻） 平成29年7月11日（火）

- ・チャンマイリン「車椅子利用者のための自助具デザインについての研究」
- ・野崎優佳「毛髪のセット性および曲げ剛性におよぼすシャンプー・トリートメントの影響」
- ・吉田沙耶香「空き家のリノベーションとお試し居住の実態 ―徳島県三好市でのシニア層地方移住促進お試し居住施設設計施行業務を対象として―」

（2）大学院修士中間発表会（食品栄養学専攻） 平成29年8月23日（水）

- ・進士明夢「血清脂質の日内変動に対するD-アルロース摂取の影響」
- ・木下かほり「高齢者のフレイル状態と摂取栄養素の関係」

（3）大学院修士論文公聴会（生活環境学専攻） 平成30年2月20日（火）

- ・チャンマイリン「車椅子利用者のための生活自律支援の研究 ―料理と洗面周りについて―」
- ・野崎優佳「毛髪物性におよぼすシャンプー/コンディショナーの影響」
- ・吉田沙耶香「徳島県三好市の空き家改修設計とお試し居住の実態及び評価」

（4）大学院修士論文発表会（食品栄養学専攻） 平成30年2月20日（火）

- ・進士明夢「健常若年女性における血糖値と生活習慣との関連に関する研究 ―難消化性デキストリンの効果について―」
- ・木下かほり「高齢者のフレイル状態と摂取栄養素の関係」

2. 授業アンケートの実施

前期ならびに後期の授業期間終了時に、生活科学研究科に在籍する大学院生全員を対象として「授業アンケート」を実施し、履修した授業、教室設備、研究設備について、感想や要望、問題点等をヒアリングした。

その結果、大学院の授業科目に関わる設問項目については、全員から良好な回答を得た。一方、設備・環境面については、TA（ティーチング アシスタント）や教室の空調などに関する要望があった。今後、大学院生の学習や研究が円滑に遂行できるよう、以下のとおり改善策を検討した。

(1) TAと学業・研究の両立について（食品栄養科学専攻）

TA活動は、大学院生にとって将来的に教員や研究者になるための良いトレーニングの機会と考えており、特に食品栄養科学専攻の大学院生には管理栄養学科の情報系演習授業のTAとして積極的に関わってもらっている。近年、本研究科における大学院生が少数であるため、ほぼ全員の大学院生に複数の授業を担当してもらっているのが現状である。

今回のアンケート結果から、TA活動を負担に感じている大学院生がいることが分かった。今後は、時間割を作成する段階から大学院の授業を履修する時間帯とTAとして従事する時間帯を調整し、大学院の学業や研究の支障とならない範囲内でTA活動に従事できるよう考慮していく。

(2) その他

これまでの授業アンケートは、アンケート用紙の郵送による記述回答方式（提出は教務課窓口）により行っていた。しかし、本年度前期の実施分において回収率が低かったことから、今回はアンケート用紙をそれぞれの担当教員から大学院生に直接手渡ししてもらった。その結果、アンケート回収率は、食品栄養科学専攻修士課程が80%（前期も80%）、生活環境学専攻修士課程が40%（前期は0%）となり、特に前回アンケートにおいて回収率が低かった生活環境学専攻において改善がみられた。しかしながら、まだ回答率が高いとはいえず、周知の徹底を図る必要があると思われる。

人間関係学研究科は、今年度、研究科全体としてのFD活動はとくに実施しなかった。臨床心理学領域、社会学領域、教育学領域、3つの領域がそれぞれの判断で必要に応じて領域別にFD活動を行った。

○臨床心理学領域

＜研究教育活動＞

- ・心理学実験のTA（前後期）：学部2年生を対象とした心理学実験のTAとして、大学院生10名（M1）が1年間にわたり実験実習をサポートし、心理学研究法の実践的サポート、統計解析、レポート作成の相談にあたった。
- ・修士論文中間発表会（平成29年7月22日）：7月22日には、1月に修士論文を提出する予定であった10名の大学院生（M2）が2グループに分かれて大学院生（M2）がそれぞれ発表した。これは毎年実施し、原則として全教員、大学院生（M1,2）が参加している。大学院生は指導教員による指導を超えて、他の教員や大学院生からさまざまな助言指導を得ることにより、より広い観点から研究にアプローチする力が涵養される。
- ・臨床心理相談室紀要『相山臨床心理研究』の発行：教員1名が研究論文を執筆し、大学院生（M2）11名が事例研究を執筆した（平成30年3月11日発行）。大学院生の事例研究については、原則として外部の臨床心理士や精神科医からコメントをいただき、事例の理解や自身の臨床実践上の課題などを振り返ることにより、その後の臨床実践や研究に示唆を得る好機となっている。
- ・卒論発表会（平成30年2月1日）：学部4年生全員が卒業論文の成果を発表する卒論発表会において、大学院生（M1）8名が会場の司会（座長）として運営に携わった。
- ・オープンキャンパスで行われた4回の学科展示企画で、院生11名が分担して、心理検査、芸術療法、実験デモを実施した際の担当者あるいはサポート役になった。
- ・平成29年5月21日に本学星ヶ丘キャンパス現代マネジメント学部棟で開催された2017年度臨床発達心理士会東海支部総会および研修会（講師：和歌山大学米澤好史教授、テーマは「愛着障害の理解と支援-『愛情の器』モデルに基づく愛着修復プログラム」）に教員1名が役員として、M1が2名受付担当のアルバイトとして参加した。
- ・平成29年5月27日、28日に本学星ヶ丘キャンパス現代マネジメント学部棟で開催された臨床発達心理士認定運営機構主催の2017年度第1回指定科目取得講習会にて教員1名とM1が5名、修了生1名が運営スタッフとして関わった。
- ・東海アセスメント研究会（平成29年7月30日、12月3日、平成30年1月28日）：人間関係学部棟にて教員2名、他大学教員、修了生（延べ7名）、大学院生（延べ11名）を含む臨床心理士、学校教諭、臨床発達心理士などが参加した。知能検査や発達検査中心としたアセスメントにより、幼児、児童生徒をどのように理解し支援するかについて検討を行った。

＜臨床実践＞

- ・相山女学園中学校・高等学校におけるスクールボランティア（生徒に対する相談援助活動）：大学院生（M1,2）が自発的に参加し、スクールカウンセリングを体得する機会となっている。
- ・臨床心理相談室特別講演会（平成30年3月10日）：臨床心理相談室の主催で一般の方々を対象に無料で開催しており、今年度は長野大学准教授の高木潤野先生を講師にお迎えし、「場面緘黙への支援をめぐって」というテーマでご講演いただき約120名の方にご参加いただいた。臨床心理相談室では参加可能な全相談員・実習員（非常勤相談員・ケースを担当している大学院修了生・大学院生）が一同に会し運営のサポートにあたった。

- ・臨床心理士資格試験の一次試験に合格した全員に対して全教員が分担して、面接に対する個別指導を行った。
- ・臨床心理相談室ケース報告会（平成30年3月3日）：臨床心理相談室では参加可能な全相談員・実習員（非常勤相談員・ケースを担当している大学院修了生・大学院生）が一同に会し、年1回スタッフ会議を行っている。大学院生・修了生には、組織における臨床相談上の実践的な課題などを検討する好機となり、非常勤相談員には相談室運営上の課題などの共有の場となっている。
- ・日進市教育委員会との連携事業
 - 発達障害保護者相談会：日進市内の小中学生の保護者を対象として子どもの発達障害に関する相談会を開催した（平成29年9月7・8・11日の3日間）。教員7名が保護者22名の相談を受けた。
 - 小中学校への巡回指導：教員7名が市内の13小中学校に前後期の2回出向いて、巡回指導を行った（平成29年6月～平成30年3月）。
- ・日進市立小学校でのボランティア活動
 - M2生が1名、日進市立小学校に行き、個別支援を必要とする児童のサポートを行った。
- ・併設校である椋山女学園大学附属幼稚園において、M2生が1名実習終了後約半年間にわたり週1回のペースでボランティア活動を行った。

○社会学領域

社会学領域における平成29年度のFD活動は、これまでと同様に、研究会活動を中心に実施した。社会学領域ではこれまで、大学院生の自主的研究活動および指導教員の集団的研究指導のための組織として、学生がオープンに研究報告を行う場である社会学研究会を設立し組織的活動を続けてきている。組織の運営は基本的に院生が担うものとし、領域代表や他の参加教員の助言等のサポートによって運営されている。メンバーシップについては領域所属の学生・教員のみならず他領域・研究科の学生・教員や研究科を終了したOGにも開いており、オープンな研究および指導活動の場として運営している。活動の意義としては、研究能力の向上を目指す院生たちの相互啓発と研鑽の場となること、院生が多様な視点から教員による指導を受けられること、さらに教員間で指導の方法等について学び合う場となることが挙げられるが、この最後の点こそが特にFD活動としての意義を持つものと認識している。

また、これも毎年のフォーマルな活動として、領域全体で学生の修論作成の進捗状況を確認し集団的に修論指導するための場として領域教員全員が参加する修士論文中間発表会を行っており、ここでも同様にFD活動としての効果が期待できると考えるが、本年度は該当学生がいないため実施できなかった。

なお、平成29年度の社会学研究会は7月15日と12月9日に行われ、他大学や他学部の教員の参加も得て活発な議論が行われた。

○教育学領域

教育学領域では、例年実施しているFDに関する領域での会議を2017年度は実施しないこととし、各教員が各自の授業等において随時、評価・反省・改善に心がけることとした。

以上

1. 大学院現代マネジメント研究科の概要

平成26年4月に大学院現代マネジメント研究科（修士課程、定員5名）が開設され、本年度が4年目となる。今年度は、修士課程2年生の2名が在籍している。

本研究科では複雑化する経済社会において既存のモノや仕組みに“イノベーションマネジメント能力”を活かすことでより高度な付加価値を創造するための人材の育成を目指して教育・研究を行っている。

2. FD活動

本研究科では個別の指導教員による指導だけでなく、下記のような修士論文の作成に向けた各段階での発表会を開催して各大学院生の研究の進捗状況を教員全員が把握し、様々な専門分野の視点からの複合的な指導を行っている。

1) 修士論文中間合同発表会 平成29年10月31日（火）

赤堀晃代「交際費の課税要件に係る一考察～裁判例をふまえて～」

法人の交際費に関して認められる要件を著名な裁判事例を踏まえて考察している。

内山千布「所得税法56条の現代的意義～宮岡（妻税理士）事件～」

自営業者の配偶者に対する課税について時代による解釈の変化を踏まえて考察している。

2) 修士論文発表会 平成30年2月1日（木）

赤堀晃代「交際費の課税要件に係る一考察～裁判例をふまえて～」

措置法61条の4第4項を解釈することにより、交際費等の成立要件（課税要件）について検討し、明確な基準を示し、さらに近年交際費課税について争われた裁判例として代表的な事例（「萬有製薬事件」、「オリエンタルランド事件」）について分析・検討し、交際費等の課税要件について考察している。

内山千布「所得税法56条の現代的意義～宮岡（妻税理士）事件～」

「宮岡（妻税理士）事件」を俎上に、当該判例の大きな争点である「従事したことその他の事由」の解釈について検討し、さらに詳細な「Aその他のB」についての見解を他の裁判例の判示を加えて、所得税法56条の現代的意義について考察している。

3. 今後の課題

- ・学内他3研究科との連携による教育・研究の質的な向上。
- ・大学院生指導における主研究指導教員・副研究指導教員を中心とした指導体制の強化と研究支援の仕組み作り。
- ・大学院生による学会発表・論文発表の促進。

平成29年度の教育学研究科のFD活動として特記すべきことは、以下の3点である。

(1) FD講演会の実施（学部FD委員会と共催）

日 時：平成29年9月12日（火）17時～18時15分

場 所：教育学部大会議室

テーマ：「教育職員免許法施行規則の改正の要点と教育学部および教育学研究科のそれへの対応」

目 的：今後の学部と大学院のカリキュラム再編成の方針を明らかにする。

講演者：宮川充司（教育学研究科教授、教育学研究科長、教職課程委員会委員長）

本多利江（相山女学園大学教務課）

(2) 大学院生と教員のFD座談会の実施

日 時：平成29年9月19日（火）10時～10時55分

場 所：教育学棟学部長室

テーマ：教育学研究科での学修をより実り多いものにするために

目 的：大学院生の学修の実態と要望を聞き、教育学研究科の改善に生かす。

授業担当者相互の意思疎通を図り、大学院生をきめ細やかに指導していく体制を整える。

出席者：大学院担当教員6名、大学院生1名

(3) FD研修会の実施（学部FD委員会と共催）

日 時：平成30年1月27日（土）15時45分～17時

場 所：教育学部棟B307教室

テーマ：「水」～水をテーマに専任教員が取り組む多様な教育活動・研究活動の報告～

目 的：水をテーマに専任教員が取り組んでいる教育活動・研究活動についての報告を聴き、教員自身の教育および研究能力の開発・向上を図る。

登壇者：15時45分～16時05分 野崎健太郎（准教授）：

テーマ：陸水環境を素材にした体験型学習の実践—保育者・教員養成課程における授業研究

16時15分～16時45分 宇土泰寛（教授）・林敏博（客員教授）・渡邊康（准教授）

テーマ：SDGsからみた水問題—大陸間教育交流をはじめとする多様なアプローチ—

16時45分～17時：総括討論

以上

VI FD委員会名簿

平成29年度全学FD委員会委員

所 属	職位	氏名	選出区分
学長補佐	教授	後藤 宗理	学長補佐
生活科学部	講師	清水 秀丸	学部FD委員
国際コミュニケーション学部	教授	小澤 英二	学部FD委員
人間関係学部	教授	田村 雅夫	学部FD委員
文化情報学部	教授	谷口 俊治	学部FD委員
現代マネジメント学部	准教授	吉本 明宣	学部FD委員
教育学部	教授	室 雅子	学部FD委員
教育学部	准教授	朴 信永	学長指名
看護学部	教授	杉浦 美佐子	学部FD委員

平成29年度大学院FD委員会委員

所 属	職位	氏名	選出区分
学長補佐	教授	後藤 宗理	学長補佐
生活科学研究科	准教授	大口 健司	研究科FD委員
人間関係学研究科	教授	田村 雅夫	研究科FD委員
現代マネジメント研究科	准教授	石井 圭介	研究科FD委員
教育学研究科	教授	山田 真紀	研究科FD委員

梶山女学園大学・大学院FD活動報告書（平成29年度）

梶山女学園大学・大学院ファカルティ・ディベロップメント
第5号（通巻 第18号）

平成30年8月発行

編 集 梶山女学園大学大学院FD委員会・全学FD委員会
（平成29年度・30年度委員長 後 藤 宗 理）
発 行 梶山女学園大学
〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17-3
TEL 〈052〉 781-1186（代）

印刷 常川印刷株式会社

